

講義名	経営戦略<1>						
教員名	福澤 光啓						
講義コード	122221000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>企業は、めまぐるしく変化する社会に適応し、存続と成長を実現するために日々の努力を積み重ねている。しかし、成功できる企業数は限られており、たとえ優れた製品を提供して顧客を獲得できたとしても、それが長続きすることは多くはない。ビジネスの世界では、こうすれば必ず成功するという「正解」は事前には与えられていないといえよう。そのような不確かな状況でも、企業が成長を続けていくためには、ビジネスを成功に導くための論理的な思考と行動が不可欠であり、これが戦略と呼ばれる。この戦略の巧拙が、持続的に成長できる企業とそうでないものを分ける重要な決め手となる。</p> <p>戦略には、競争戦略と全社戦略という二つの大きなカテゴリがあり、競争戦略では一つのビジネスで成功するための方法を考え、全社戦略では企業全体のビジネスをうまく展開して成長していくための方法を考える。本講義では、主として後者の「全社戦略」の理論について説明する。</p> <p>有効な戦略は、それぞれの企業が置かれた状況によって異なる。したがって、単に用語や概念を暗記するだけでは有効な戦略を立てるには不十分であり、それらを使いこなす能力を身につける必要がある。そのために、講義では理論と実際のケースをあわせて解説しつつ授業内での質疑応答を積極的に行うことにより、自分の頭で論理的に考え説明するトレーニングをする。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>次の2点を到達目標とする。</p> <p>①戦略に関する基本からやや発展的な考え方を学修する。</p> <p>②上記を活かして、経営を行ううえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、「自分が経営者であればこうする」という解決策を示せるようになる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	経営戦略とは何か：日本企業における戦略の現状と課題 ・授業の全体像、進め方、予習復習の仕方等を説明する。 ・「経営戦略とは何か」について身近な事例から考察する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第2回	戦略計画と創発戦略 ・戦略論の発展の歴史について学修する ・戦略計画と創発戦略の違いや両者の関係性について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第3回	業界構造と競争優位：ポジショニング・アプローチ ・競争優位の獲得・維持の論理として、ポジショニング・アプローチについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第4回	経営資源と競争優位：資源ベース・アプローチ ・競争優位の獲得・維持の論理として、資源ベース・アプローチについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第5回	企業ドメイン ・事業そのもの、および事業範囲の定義をする上で有効な方策を学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第6回	多角化戦略① ・市場ライフサイクル、経験曲線、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントの議論について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第7回	多角化戦略② ・多角化のタイプおよびそれぞれの有効性について学修する。 ・多角化をうまく行うための概念として主として「シナジー」について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第8回	多角化戦略③ ・多角化企業における有効な新規事業開発の方法について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第9回	経営戦略と組織① ・経営戦略と組織デザインの相互関係について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第10回	経営戦略と組織② ・戦略と組織文化の関係性について学修する。 ・戦略構築・実行における経営者の役割について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第11回	経営戦略と技術 ・中核技術にもとづく企業成長について学修する。 ・プラットフォーム戦略について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第12回	企業間分業体制の設計・構築 ・企業間の分業体制の設計と構築について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第13回	グローバル化と経営戦略 ・グローバルな事業展開とそのマネジメントについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第14回	まとめ			【予習】各回の配布資料を確認する。質問を考える。 【復習】各回の授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
<p>[授業の方法]</p> <p>・事前に配布してある授業資料(事前資料)を受講生が既に読んでいることを前提として講義を行う。適宜、グループディスカッションを行う場合もある。</p> <p>・基本的には、①事前配布資料のポイントを解説しつつ、事前資料には書かれていない事柄(理論、概念、企業の実例など)についても説明し、②事前資料に書かれている内容について受講生が事前に考えてきた質問の収集とそれにもとづいて議論を行い受講生の理解を深める、という流れで授業を進める。したがって、受講生は、事前資料を熟読して、その内容に対する質問を考えようという、授業に臨むことが必要である。質問内容は「質問メモ」に記入して、授業で定められた方法にて提出すること。</p> <p>・また、適宜、授業内で簡単な課題を出して授業で学んだことを活用して回答してもらうことにより、受講生の理解を深めるための「授業内ワーク」を複数回実施</p>							

施（事前告知はしない）する。これは、基本的に CoursePower を利用して実施するため、授業にパソコンやタブレットなどの情報端末を持参すること（ただし、状況に応じて、紙での提出を求める場合もある）。

- ・授業時間内に実施する「質問メモ」や「授業内ワーク」の提出は、必ず、授業で指定された方法にもとづいて定められた期限内に、受講生本人が作成して授業担当者に対して行うこととする。いかなる場合・理由であっても、事前・事後の提出や代理提出等を認めない。
- ・なお、授業の方法や成績評価の方法等については、第 1 回目の授業において詳細に説明するので、必ず確認のうえ、授業内で説明された内容にしたがって、授業に臨むこと。
- ・授業内容とスケジュールについては、進行状況に応じて変更の可能性がある。
- ・上で示された準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業中に、適宜、フィードバックと解説を行う。

〔成績評価の方法〕

「学期末試験」（90%）への解答内容、および、「平常点（授業内ワークへの解答内容など）」（10%）にもとづき総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

①戦略に関する基本からやや発展的な考え方までを習得できている。

②上記を活かして、経営を行ううえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、「自分が経営者だったらこうする」という解決策を示すことができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

・「競争戦略」、「イノベーションと製品開発」、「生産管理」、「マーケティング」などに関する知識を習得することが望ましい。

〔テキスト〕

各回の授業資料は事前に、CoursePower を通じて配布するので、テキストは特になし。それらの資料を各自必要に応じて印刷したり、PC やタブレット端末等を利用して授業に臨むこと。各回の授業資料を事前に熟読して、質問内容を考えたうえで授業に臨むこと。

〔参考書〕

経営戦略についてより深く学びたい人のために、適宜紹介する。参考までに以下のものを挙げておく（「購入の必要なし」）。

網倉久永・新宅純二郎（2011）『経営戦略入門』日本経済新聞社

高橋伸夫編著（2011）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

伊丹敬之（2025）『経営戦略の論理（第 5 版）』日本経済新聞社

沼上幹（2009）『経営戦略の思考法』日本経済新聞社

三品和宏（2004）『戦略不全の論理』東洋経済新報社

新宅純二郎・天野倫文編（2009）『ものづくりの国際経営戦略』有斐閣

立本博文（2017）『プラットフォーム企業のグローバル戦略』有斐閣

Burgelman, R., A. (2002) Strategy is Destiny, New York: Free Press.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

(4)アクティブ・ラーニング,(6)ICT活用

講義名	経営戦略<2>						
教員名	浜松 翔平						
講義コード	122221010	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この授業では企業の活動について知り、「戦略とは何か」を理解することを目的とします。 戦略には、競争戦略と経営戦略という二つの大きな流れがあります。競争戦略では一つのビジネス(事業)で成功するための方法を学びます。経営戦略では複数のビジネス(事業)を束ね、企業全体として成長していくための方法を学びます。本授業は、後者の「経営戦略」です。 本授業「経営戦略」は、経営戦略の基礎的な理論や実際の企業の事例を説明します。現実の課題に対して理論がどのように適用できるかを理解する機会として、実際の企業の事例を複数回にわたって紹介します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】を実現するために、以下の3点を達成目標とする。</p> <p>(1)経営戦略論の基礎的な理論を理解することができる (2)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる (3)経営戦略論の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	オリエンテーション			【復習】講義で扱った事例や理論に当てはまる企業の事例を探してみる		60	
第2回	経営戦略論とは ~経営戦略論の全体像~			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第3回	競争優位の実現と維持			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第4回	事業の定義と企業ドメイン①			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第5回	事業の定義と企業ドメイン②			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第6回	多角化①			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第7回	多角化②			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第8回	多角化企業の資源配分			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第9回	垂直統合			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第10回	国際展開			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第11回	合併と買収			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第12回	企業活動領域の設定と再構築			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第13回	ベンチャー企業の経営戦略			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第14回	まとめ ~経営戦略論の総括~			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は基本的には講義形式で行いますが、質疑応答やコメントシートの記載を通じて双方向の授業形式を取り入れます。講義の内容としては、2つに分かれます。まず、戦略の理論に関する講義です。これが本講義の中心的内容となります。そして、紹介した理論を用いて、実際の企業事例の分析を解説します。 講義では、適宜グループワークを実施します。グループワークへの積極的な取り組みを求めます。 本授業では、紙資料を用いた講義内容のメモ・分析ワークを中心に進めます。 そのため、授業内で指示があった場合を除き、PCやスマートフォンの利用は原則として控えてください。 また、授業中のワイヤレスイヤホンの使用についても、授業への集中や円滑なコミュニケーションの観点から、特別な事情がない限り利用を控えてください。 なお、合理的配慮等が必要な場合は、学生サポートセンターへ相談してください。</p>							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕</p> <p>授業内で指示があった場合を除き、PCやスマートフォンの利用は原則として控えてください。 また、授業中のワイヤレスイヤホンの使用についても、授業への集中や円滑なコミュニケーションの観点から、特別な事情がない限り利用を控えてください。</p>							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>レポート等のフィードバックは、授業時間内に行います。</p>							

<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>試験評価（最終テスト）60%、平常点（各回の課題や小テスト、コメントシートへの記載など）40%として、その他、授業への積極的な参加をプラスに評価します。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づいて評価する。</p> <p>(1) 経営戦略論の基礎的な理論を理解することができる (2) 実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる (3) 経営戦略論の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>「競争戦略」の知識を前提に講義を進める。事前に「競争戦略」を受講していることが望ましい。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>テキストは必要ありません。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>網倉久永・新宅純二郎（2011）『マネジメント・テキスト 経営戦略入門』日本経済新聞出版社。 伊丹敬之（2003）『経営戦略の論理（第3版）』日本経済新聞出版社。 伊丹敬之（2012）『経営戦略の論理（第4版）ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』日本経済新聞出版社。 伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社。 購入の必要なし</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p>(4)アクティブ・ラーニング</p>

講義名	マーケティング<1>						
教員名	河塚 悠						
講義コード	122221100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は、売れる仕組みをつくる企業のマーケティング活動を総合的に理解することをテーマとします。企業は、自社の提供する製品やサービスが消費者の支持を得て購買され続けなければ、存続と成長を実現することができません。つまり、消費者にとっての価値を理解し、「売れる製品やサービスを作る」ことが企業にとっての最重要課題なのです。</p> <p>本講義では、身近な現象や事例を用いながらマーケティングの基礎的概念やフレームワークを解説します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業におけるマーケティングの活動と役割を理解する。 ・マーケティングの基本である STP と 4P の概念および主要フレームワークを実例とともに説明できる。 ・学んだ知識を活かして実際のマーケティング戦略や戦術を考察できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション ・講義の内容、進め方等について説明する。			【予習】シラバスに再度目を通し、講義の目的と全体的な内容を把握しておく。		60	
第2回	マーケティングとはなにか ・マーケティングと呼ばれる活動とその主体について理解する。			【予習】新聞のマーケティング関連記事を読む。		60	
第3回	マーケティングの誕生 ・マーケティングが誕生した歴史的背景と発展について理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	マーケティングの基礎概念 ・マーケティングの基本概念である STP、4P を理解する。			【予習】課題レポート作成のために指示された情報、資料を収集しておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第5回	製品戦略① ・4PのうちのProduct（製品）のマネジメントについて理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	製品戦略② ・4PのうちのProduct（製品）のマネジメントについて理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第7回	価格戦略① ・4PのうちのPrice（価格）のマネジメントについて理解する。 ・価格設定のさまざまな方法を具体的に学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。価格設定の計算ができるようにする。		90	
第8回	価格戦略② ・4PのうちのPrice（価格）のマネジメントについて理解する。 ・心理的な価格設定と価格変更の方法を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第9回	流通戦略① ・4PのうちのPlace（流通）のマネジメントについて理解する。 ・日本特有の流通構造や問題について考察する。			【予習】日本の流通と海外の流通の違いを調べておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	流通戦略② ・4PのうちのPlace（流通）のマネジメントについて理解する。 ・近年における流通戦略の変化を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第11回	プロモーション戦略① ・4PのうちのPromotion（広告・プロモーション）のマネジメントについて理解する。			【予習】事前配布の資料に目を通しておく		60	
第12回	プロモーション戦略② ・4PのうちのPromotion（広告・プロモーション）のマネジメントについて理解する。 近年におけるプロモーション戦略の変化を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第13回	戦略的マーケティング ・市場での競争のとらえ方、市場地位別の競争戦略について理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第14回	マーケティングと社会的責任 ・企業の社会的責任と利益の両立に関するマーケティングや理論枠組みを理解する。			【予習】企業の社会的貢献活動について情報収集しておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>Course Power にアップロードする資料内容を詳解する講義形式が中心となるが、理解促進のために、新聞記事、映像、ケース等を用いる。授業内に実施するレポートは、受講生が身近なマーケティング事例を授業で得た知識と関連付けて適切に考察できているかを評価する。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

学びを深めるために、レポート実施週週の授業内にて、提出されたレポートの好例等を紹介しながら解説と講評を行う。

〔成績評価の方法〕

授業内クイズ、課題レポート(40%)、期末試験(60%)で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第38, 39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38 & 39.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ・マーケティングの基本であるSTPと4Pの概念および主要フレームワークを実例とともに説明できる。
- ・学んだ知識を活かして実際のマーケティング戦略や戦術を考察できる。
- ・学んだ知識を活かし、マーケティング課題への解決策を提案できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

- ・「会社のしくみと制度」(「会社入門」)、「企業経営の基礎」(「企業経営入門」)などの経営経済基礎科目。
- ・この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。

〔テキスト〕

特に指定しない。必要な文献や資料などは適宜配布、紹介する(紹介したものを購入する必要はない)。

〔参考書〕

授業内容の理解促進のために以下を参考書として挙げる。購入の必要はない。

- 『コア・テキスト マーケティング』、山本晶[著]、新世社。
- 『マーケティング戦略』、和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦[著]、有斐閣アルマ。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	マーケティング<2>						
教員名	河塚 悠						
講義コード	122221110	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>本科目は、売れる仕組みをつくる企業のマーケティング活動を総合的に理解することをテーマとします。企業は、自社の提供する製品やサービスが消費者の支持を得て購買され続けなければ、存続と成長を実現することができません。つまり、消費者にとっての価値を理解し、「売れる製品やサービスを作る」ことが企業にとっての最重要課題なのです。</p> <p>本講義では、身近な現象や事例を用いながらマーケティングの基礎的概念やフレームワークを解説します。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業におけるマーケティングの活動と役割を理解する。 ・マーケティングの基本である STP と 4P の概念および主要フレームワークを実例とともに説明できる。 ・学んだ知識を活かして実際のマーケティング戦略や戦術を考察できる。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション ・講義の内容、進め方等について説明する。			【予習】シラバスに再度目を通し、講義の目的と全体的な内容を把握しておく。		60	
第2回	マーケティングとはなにか ・マーケティングと呼ばれる活動とその主体について理解する。			【予習】新聞のマーケティング関連記事を読む。		60	
第3回	マーケティングの誕生 ・マーケティングが誕生した歴史的背景と発展について理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	マーケティングの基礎概念 ・マーケティングの基本概念である STP、4P を理解する。			【予習】課題レポート作成のために指示された情報、資料を収集しておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第5回	製品戦略① ・4PのうちのProduct（製品）のマネジメントについて理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	製品戦略② ・4PのうちのProduct（製品）のマネジメントについて理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第7回	価格戦略① ・4PのうちのPrice（価格）のマネジメントについて理解する。 ・価格設定のさまざまな方法を具体的に学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。価格設定の計算ができるようにする。		90	
第8回	価格戦略② ・4PのうちのPrice（価格）のマネジメントについて理解する。 ・心理的な価格設定と価格変更の方法を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第9回	流通戦略① ・4PのうちのPlace（流通）のマネジメントについて理解する。 ・日本特有の流通構造や問題について考察する。			【予習】日本の流通と海外の流通の違いを調べておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	流通戦略② ・4PのうちのPlace（流通）のマネジメントについて理解する。 ・近年における流通戦略の変化を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第11回	プロモーション戦略① ・4PのうちのPromotion（広告・プロモーション）のマネジメントについて理解する。			【予習】事前配布の資料に目を通しておく		60	
第12回	プロモーション戦略② ・4PのうちのPromotion（広告・プロモーション）のマネジメントについて理解する。 近年におけるプロモーション戦略の変化を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第13回	戦略的マーケティング ・市場での競争のとらえ方、市場地位別の競争戦略について理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第14回	マーケティングと社会的責任 ・企業の社会的責任と利益の両立に関するマーケティングや理論枠組みを理解する。			【予習】企業の社会的貢献活動について情報収集しておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
<p>[授業の方法]</p> <p>Course Power にアップロードする資料内容を詳解する講義形式が中心となるが、理解促進のために、新聞記事、映像、ケース等を用いる。授業内に実施するレポートは、受講生が身近なマーケティング事例を授業で得た知識と関連付けて適切に考察できているかを評価する。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
[課題等へのフィードバック方法]							

学びを深めるために、レポート実施週週の授業内にて、提出されたレポートの好例等を紹介しながら解説と講評を行う。

〔成績評価の方法〕

授業内クイズ、課題レポート(40%)、期末試験(60%)で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第38, 39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38 & 39.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ・マーケティングの基本であるSTPと4Pの概念および主要フレームワークを実例とともに説明できる。
- ・学んだ知識を活かして実際のマーケティング戦略や戦術を考察できる。
- ・学んだ知識を活かし、マーケティング課題への解決策を提案できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

- ・「会社のしくみと制度」(「会社入門」)、「企業経営の基礎」(「企業経営入門」)などの経営経済基礎科目。
- ・この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。

〔テキスト〕

特に指定しない。必要な文献や資料などは適宜配布、紹介する(紹介したものを購入する必要はない)。

〔参考書〕

授業内容の理解促進のために以下を参考書として挙げる。購入の必要はない。

- 『コア・テキスト マーケティング』、山本晶[著]、新世社。
- 『マーケティング戦略』、和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦[著]、有斐閣アルマ。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	人間行動と組織<1>						
教員名	上田 泰						
講義コード	122221300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：組織とかかわる人間の心理と行動を理解する 社会に生きるほとんどの人は、何らかの組織に属し、その組織の一員として活動しています。この講座は、組織の一員として働き、生きていく人間に焦点を当てて、その行動、動機、知覚、態度などを総合的に学んでいく講座です。人間はどのような動機で働くのか、どのようなリーダーシップが効果的なのか、あるいは、上司や部下、同僚などとの人間関係はどのように形成されていくのか、といった働く人にとって身近な話題が提供されます。なお、理解を容易にするために、学生には身近なアイドルやスポーツ選手の話題などを事例に出す場合があります。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）DP3【課題の発見と解決】を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>(1)個人の心理と行動の特徴を理解する。 (2)小集団の心理と行動の特徴を理解する。 (3)組織が個人や集団の心理や行動に与える影響を理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）				準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・講座の目的、評価方法などについて学修する。	【予習】日常生活における組織と人間とのかかわりについて考えておく。 【復習】組織行動論の体系と、組織行動論と他の組織論の領域との関係について説明できるようにする。				60	
第2回	パーソナリティ ・パーソナリティの意義、分類方法、組織行動におけるパーソナリティ研究について学修する。	【予習】パーソナリティの一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】働き手のパーソナリティの違いが組織に及ぼす影響について説明できるようにする。				60	
第3回	知覚 ・知覚の意義、知覚プロセス、対人知覚、対人知覚における誤り等について学修する。	【予習】知覚の一般的な概念、認知との違いについてネットなどで調べておく。 【復習】働き手の知覚の誤りが組織に及ぼす影響について説明できるようにする。				60	
第4回	態度について ・態度の意義、態度の三要素、ハイダーの理論、フェスティンガーの理論などについて学修する。	【予習】態度の一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】働き手の態度の違いが組織に及ぼす影響について説明できるようにする。また、知覚やパーソナリティとの関係も説明できるようにする。				60	
第5回	動機づけ（モチベーション） ・モチベーションに関する理論として、古典的理論と近代的理論を学修する。	【予習】動機づけの一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】働き手の動機づけの強さの違いが組織に及ぼす影響について説明できるようにする。また、知覚やパーソナリティ、態度との関係も説明できるようにする。				60	
第6回	学習と記憶 ・心理学でいう学習の概念と基本プロセスを学修する。 ・記憶プロセスと記憶の種類について学修する。	【予習】パブロフの犬、スキナー箱について予め調べておく。 【復習】学習と記憶の概念について説明できるようにする。				60	
第7回	集団力学 ・小集団の定義、集団過程を学修する。 ・集団力学の基本的な知識として、社会的促進・抑制、極化、同調について学修する。	【予習】自分がどのような集団に属しているか、その集団からどのような影響を受けているかを考える。 【復習】集団力学が個人に及ぼす影響について説明できるようにする。				60	
第8回	対人コミュニケーション ・コミュニケーションプロセス、コミュニケーションの失敗の原因、中心性の概念と計算方法について学修する。	【予習】自分がコミュニケーションで苦労した経験をまとめておく。 【復習】コミュニケーションの意義や、コミュニケーションがうまくいかなくなる理由について説明できるようにする。				60	
第9回	リーダーシップ ・リーダーシップの概念、特性論、2つの基本的なリーダーシップ、条件適合論などについて学修する。	【予習】リーダーシップの一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】リーダーシップにはどのような種類があり、そのリーダーシップがどのような状況で有効なのかを説明できるようにする。				60	
第10回	役割・規範・ストレス ・役割の意義、役割曖昧性、役割コンフリクトについて学修する。 ・役割曖昧性や役割ストレスに起因するストレスを中心に、ストレスのプロセス、ストレッサ、ストレス軽減について学修する。	【予習】役割や規範の一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】役割がどのような場合にストレスが生じやすいか、それを解消するにはどうしたらよいかを説明できるようにする。				60	
第11回	集団意思決定 ・集団で行う意思決定について、個人の意思決定との違い、長所と短所、意思決定支援などについて学修する。	【予習】集団で物事を決めた経験について、どこが大変だったかをまとめておく。 【復習】集団意思決定はどのようなプロセスで進められるのか、どのような特徴があるかを説明できるようにする。				60	
第12回	組織構造と形態 ・組織構造の基本概念と要素を学修する。 ・組織の基本形態と条件適合理論の考え方を学修する。	【予習】日本の会社を1つとりあげて組織図を調べておく。 【復習】組織構造にはどのような次元があり、どのような要因と関係があるかを説明できるようにする。				60	
第13回	組織文化 ・組織文化の概念とその役割について学修する。 ・組織文化の変革について学修する。	【予習】文化的に特徴ある日本の会社を1つ調べておく。 【復習】組織文化にはどのような次元があり、どのような要因と関係があるかを説明できるようにする。				60	

第14回	組織変革 ・組織変革の意義とその方法について学修する。	【予習】組織変革の事例についてネットなどで調べておく。 【復習】組織変革の方法について説明できるようにする。	60
<p>〔授業の方法〕 通常の講義形式で行います。内容を分かりやすくするために、プリントを配布するほか、実際の例などを適宜とりいれます。また、小テストを通じて授業時間外の学習を促します。</p>			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕 特にありません。</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 課題については提出後の授業で全体的なフィードバックを行います。また、CoursePower を通じて個別にコメントする場合があります。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 学期末試験 80%、授業の復習テスト 10%、課題レポート 10%による総合評価とします。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 以下の到達目標の達成度に基づいて評価します。 (1)個人の心理と行動の特徴を理解しているか。 (2)小集団の心理と行動の特徴を理解しているか。 (3)組織が個人や集団の心理や行動に与える影響を理解しているか。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 「企業経営の基礎」が先修的な位置づけの科目です。 ※この科目は経営学部 2 年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。</p>			
<p>〔テキスト〕 特になし。</p>			
<p>〔参考書〕 上田泰『組織行動研究の展開』（白桃書房） 上田泰『組織の人間行動』（中央経済社） 手塚・小山・上田・米山編著『現代経営学再入門』（同友館）</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 オフィスアワーはポータルサイトで周知します。</p>			
<p>〔特記事項〕 (6) ICT活用</p>			

講義名	基本簿記<1>						
教員名	伊藤 克容						
講義コード	122221500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>ビジネスで活躍するために「簿記」は、ひじょうに有力なスキルです。簿記の基礎を何もない状態から基本がひととおりできるところまで勉強します。この講義では、「企業会計の基礎」で取り扱った、会計情報作成のプロセスをさらに深めていきます。具体的には、企業会計でアウトプットされる会計数値を作成する上でのもっとも基本的なスキルである「複式簿記」という計算技術の基本原則を習得を目的とします。</p> <p>会計専門職（公認会計士、税理士など）を志す人や金融機関で活躍することを将来の目標に掲げている人にとっては必須の内容です。一般企業に就職してビジネスパーソンとして実力をつけたいと考えている人にとっても現段階で備えておいた方が圧倒的に有利な知識です。</p> <p>スキルの習得のためには、やはり実習が不可欠です。基本的な知識については解説を加えますが、主役は講義に参加する皆さんです。五感を研ぎ澄まし、それぞれ主体的に反応し、電卓をたたくなどの能動的な作業が必須となります。そのため、欠席がちになりそうな人にはお勧めしない授業です。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を達成目標として授業を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複式簿記の基本を理解し、実施できる ・企業や組織がかかわる様々な取引を認識し、その内容を適切に記録して外部に報告できる ・日本商工会議所主催の「簿記検定3級」に合格できるスキルを身に付ける 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス(企業会計の基本構造、成績評価の方法)			【予習】簿記とはどのようなものか、書籍、ウェブサイトなどで自分なりに調べておくこと。 【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 基本用語の理解 財務諸表の構造 基本3式をつかった計算問題		60	
第2回	重要な財務諸表について(損益計算書、貸借対照表のレイアウト、情報内容)			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 財務諸表の構造と意味内容 基本3式の運用		60	
第3回	基本的な取引の処理(1)			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 仕訳・元帳転記のルール 取引から仕訳、元帳転記、残高試算表作成、財務諸表作成までのプロセスを理解し、自力で実行できるようにすること。		60	
第4回	基本的な取引の処理(2)			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 仕訳・元帳転記のルール 取引から仕訳、元帳転記、残高試算表作成、財務諸表作成までのプロセスを理解し、自力で実行できるようにすること。期首残高がある場合に特に注意する。		60	
第5回	簿記一巡の手続き(1)			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 計算間違いに気を付ける。		60	
第6回	簿記一巡の手続き(2)			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 仕訳・元帳転記のルール 取引から仕訳、元帳転記、残高試算表作成、財務諸表作成までのプロセスを理解し、自力で実行できるようにすること。		60	
第7回	総合問題演習(前半のまとめ)			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 基本の初歩が身に付いたかどうかをチェックする。		60	
第8回	現金・当座預金関連の取引の処理			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 小切手の取扱い、当座預金・当座借越勘定について、十分に理解する。		60	
第9回	手形関連の取引の処理、帳簿組織			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 約束手形の機能と帳簿組織の概要について、しっかり復習し、定着させる。		60	
第10回	商品売買取引の処理			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 商品売買取引の処理方法(3分法)についてしっかり理解する。 売上原価の算定公式をつかえるようにしておく。		60	
第11回	期末決算と決算整理事項の処理(1)			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 貸倒引当金の設定、減価償却、売上原価の算定など基本的な処理を完璧にマスターする。		60	
第12回	期末決算と決算整理事項の処理(2)			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 前払費用、未払費用、前受収益、未収収益について完璧に処理できるようにする。		60	
第13回	期末決算と決算整理事項の処理(3)			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 小口現金、現金過不足、消耗品などの処理をマスターする。		60	
第14回	伝票会計、総合問題演習			【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 伝票の意義と運用方法について理解する。		60	
<p>[授業の方法]</p> <p>基本的には講義形式をとりますが、受講者の授業参加、課題提出なども求められます。授業時間内に扱う計算問題は、かならず自分で解いてみるようにしてください。最初はよくわからなくても、自分で電卓をたたいて計算し、計算用紙にいろいろ書いてうちに段々分かってくるということが、頻繁にあります。計算問題をやる際に必要となるので、毎時間かならず自分用の電卓をもってきてください。</p>							

<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>通常の問題演習などについては、解説と典型的な誤回答などをフィードバックします。総合問題演習については、それぞれポイントをアドバイスします。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>毎回の課題提出（40%）、授業への貢献（発言、問題演習の回答）（60%）を基本に評価します。積極的に参加する意欲の高い受講者に対して加点します。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。 次の到達目標に着目し、その達成度を総合的に評価します。</p> <p>①複式簿記の計算構造を理解している ②単純な複式簿記の計算実務を実施することができる ③決算整理事項を含む、多少複雑な複式簿記の計算実務（日商簿記検定 3 級レベル）を実施することができる</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>「企業会計の基礎」で学んだ知識があれば、有用です。また、この科目は経営学部の 2 年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることがのぞましいです。 基礎から勉強しますので、特定の先修科目を前提とせずに、学習できるように配慮しますが、最低限、経営、企業、会計、金融などへの一般的な関心・興味があったほうがよいでしょう。 複式簿記は、会計の基本的な情報を提供する情報処理機構です。多くの会計科目の基礎として位置付けられます。関連科目として、会計関連の諸科目の受講をすすめます。 この講義で基礎を固め、学外の検定試験などへの挑戦を推奨します。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし 授業時に資料を配付します。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>特になし 必要に応じて指示します。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p>(4)アクティブ・ラーニング</p>

講義名	国際経営<2>						
教員名	浜松 翔平						
講義コード	122221610	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本授業では、国際経営の基礎的な理論や実際の企業事例を解説します。現実の課題に対して国際経営の理論がどのように適用できるかを理解できるように、実際の事例をもとに説明をしていきます。近年日本企業の国際化が進み、比較的規模の小さな企業ですらグローバル化を実施している現状を理解します。本授業を受講することで、日本企業はグローバルに活躍できる人材を求めていることを知り、グローバルに働くキャリアについて考えるきっかけにもなるでしょう。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】を実現するために、以下の3点を達成目標とする。</p> <p>①国際経営の基礎的な理論について説明できる ②海外ビジネスの実態について自ら情報収集することが出来る ③国際経営の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の 目安（分）	
第1回	イントロダクション			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第2回	国際経営とは何か			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第3回	多国籍企業と海外直接投資の歴史と現状			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第4回	海外直接投資の理論			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第5回	多国籍企業の組織デザイン			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第6回	トランスナショナル経営			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第7回	海外子会社の経営			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第8回	国際経営の実態			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第9回	国際マーケティング			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第10回	ものづくりの国際拠点展開			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第11回	研究開発の国際化			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第12回	グローバルイノベーション論			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第13回	中小企業・ベンチャー企業の国際化			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第14回	まとめ			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は基本的には講義形式で行います。質疑応答やコメントシートの記載を通じて双方向の授業形式を取り入れます。講義の内容としては、2つに分かれます。まず、理論に関する講義です。これが本講義の中心的内容となります。そして、紹介した理論を用いて、実際の企業事例の分析を解説します。これらのプロセスを経験することで、国際経営の基礎的理解を深め、その面白さを体験できる構成を取っています。講義の中で、受講者同士でのグループワークを実施することがあります。授業の進捗によって内容が一部変更する可能性があります。本授業では、紙資料を用いた講義内容のメモ・分析ワークを中心に進めます。そのため、授業内で指示があった場合を除き、PCやスマートフォンの利用は原則として控えてください。また、授業中のワイヤレスイヤホンの使用についても、授業への集中や円滑なコミュニケーションの観点から、特別な事情がない限り利用を控えてください。なお、合理的配慮等が必要な場合は、学生サポートセンターへ相談してください。</p>							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>授業内で指示があった場合を除き、PCやスマートフォンの利用は原則として控えてください。また、授業中のワイヤレスイヤホンの使用についても、授業への集中や円滑なコミュニケーションの観点から、特別な事情がない限り利用を控えてください。</p>							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

フィードバックは、授業時間内に行います。

〔成績評価の方法〕

試験評価（最終テスト）60%、平常点（各回の課題や小テスト、コメントシートへの記載など）40%として、その他、授業への積極的な参加をプラスに評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づいて評価する。

- ①国際経営の基礎的な理論について説明できる
- ②海外ビジネスの実態について自ら情報収集することが出来る
- ③国際経営の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣ストゥディア。
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

(4)アクティブ・ラーニング

講義名	経営情報<1>						
教員名	山崎 由香里						
講義コード	122221700	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>テーマ：企業活動（ビジネス）の情報化に関連する諸理論およびトピックスの体系的理解 企業の経営資源「ヒト・モノ・カネ」に加えて新たな経営資源として着目される「情報」は、企業活動において不可欠である以上に、企業が唯一無二のケイバリティを活かして競争優位を獲得するための武器となる。社会に溢れるありとあらゆる情報の中から有益な情報を見出し的確な取捨選択を行う能力を身に付けることが、企業活動の勝者となるカギと言える。 この授業では、“企業と情報”の関連性に着目して、企業にとって情報が不可欠となった背景から、情報を活用した企業経営の現状、さらには、ビジネスで飛び交うさまざまなキーワード（e.g., ERP, IoT, AI/ML, DX, 情報倫理、プラットフォームビジネス、シェアリングエコノミー、フィンテック、MaaS…）の意味や意図、解釈や社会における位置づけなどを理解し、企業活動および社会における情報に係る問題を解決する糸口を見出す。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)およびDP3(課題の発見と解決)の実現のために、下記を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の情報化に関連する諸理論を理解する。 2. 企業活動における経営資源としての情報の位置づけや、競争優位源泉となる情報の価値を理解する。 3. 昨今のビジネスで飛び交うさまざまな情報関連キーワードを理解し、関連する諸問題を解決する方法を修得する。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション 授業の概要、成績評価方法等			シラバスを読み、授業内容を理解する。		60分	
第2回	経営情報に関する研究範囲			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第3回	企業組織と経営情報			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第4回	企業組織における経営情報および情報システム利活用の変遷			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第5回	経営情報とコミュニケーションと情報技術			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第6回	経営情報とビジネスプロセス			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第7回	インターネットビジネス(1)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第8回	インターネットビジネス(2)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第9回	インターネットビジネス(3)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第10回	デジタルトランスフォーメーション（DX）			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第11回	システム監査、情報セキュリティ、情報倫理			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第12回	昨今の経営情報関連ビジネス(1)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第13回	昨今の経営情報関連ビジネス(2)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第14回	総括			前回授業の資料を再読する。 全ての授業の内容をまとめる。		60分	
<p>[授業の方法]</p> <p>講義形式の授業である。毎回、授業内容の資料を配布する。時折、授業内の課題レポートなどを数回実施し、履修者の理解を深める。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
<p>[課題等へのフィードバック方法]</p> <p>課題を出した次の回に、授業内で解説ならびに講評を行う。</p>							
[成績評価の方法]							

平常点：授業態度（取り組み、課題提出状況等）20%、
授業内で提出する課題成果 30%
学期末試験：50%
を目安に、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. に基づき、下記の目標達成度により成績を評価する。

1. 企業の情報化に関連する諸理論を理解する。
2. 企業活動における経営資源としての情報の位置づけや、競争優位源泉となる情報の価値を理解する。
3. 昨今のビジネスで飛び交うさまざまな情報関連キーワードを理解し、関連する諸問題を解決する方法を修得する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし／企業経営の基礎／情報戦略、情報産業、情報コミュニケーション技術など

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

必要に応じて、授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	経営情報<2>						
教員名	吉見 憲二						
講義コード	122221710	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>経営のさまざまな領域に情報通信技術が活用されるようになり、「経営」と「情報」の結びつきはますます強くなっている。それに伴い、要求される基本知識も変化し、膨大になってきている。本授業では、テキストを通して「経営情報」について体系的に学ぶことにより、経営学における専門的な内容と併せて、情報社会における最先端のキーワードについて理解することを目的とする。さらに、テキストを1冊通読することにより、文献の読み方についても学んでいく。</p> <p>なお、授業の進捗や受講生からの要望によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>次の3点を到達目標とする。</p> <p>(1)「経営情報」に関連した基本用語を説明できる。</p> <p>(2)情報社会における最先端のキーワードについて説明できる。</p> <p>(3)文献から重要事項を自分なりに読み解くことができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>イントロダクション、情報社会における企業経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。 ・テキスト第1章の内容について学修する。 ・テキスト第1章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】事前にシラバスをよく読み、質問等があれば留意しておく。第1章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第2回	<p>企業活動と情報システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第2章の内容について学修する。 ・テキスト第2章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第2章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第3回	<p>情報倫理と情報セキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第3章の内容について学修する。 ・テキスト第3章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第3章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第4回	<p>情報技術に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第4章の内容について学修する。 ・テキスト第4章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第4章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第5回	<p>クラウドコンピューティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第5章の内容について学修する。 ・テキスト第5章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第5章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第6回	<p>情報システムの計画・設計・開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第6章の内容について学修する。 ・テキスト第6章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第6章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第7回	<p>ナレッジマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第7章の内容について学修する。 ・テキスト第7章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第7章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第8回	<p>意思決定支援のソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第8章の内容について学修する。 ・テキスト第8章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第8章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第9回	<p>ビジネスプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第9章の内容について学修する。 ・テキスト第9章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第9章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第10回	<p>生産管理とサプライチェーンマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第10章の内容について学修する。 ・テキスト第10章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第10章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第11回	<p>インターネットビジネスの戦略とビジネスモデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第11章の内容について学修する。 ・テキスト第11章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第11章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第12回	<p>デジタルマーケティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第12章の内容について学修する。 ・テキスト第12章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第12章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第13回	<p>デジタル財とデジタル市場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第13章の内容について学修する。 ・テキスト第13章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第13章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第14回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の内容を振り返る。 ・シラバスの内容を再度確認し、授業の概要や評価基準について説明する。 			<p>【予習】全体の内容を振り返る。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。期末試験に向けて準備する。</p>		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業はテキストを用いた講義形式で進める。1回の講義でテキストの1章を消化するペースで進める予定であるが、具体的な授業の運営方法については受講者数等に応じて変更するため、初回の講義で説明する。e-ラーニングを活用した自主学習支援として、各回の授業内容に関連した小テストを【予習】【復習】扱いで実施する。</p> <p>授業はテキストに沿って進めるため、購入が必要となる。テキストの内容をすべて授業で扱うことは困難であることから、特に重要事項や最新事項に絞って取り上げる。講義形式となるため欠席等の連絡は不要であるが、原則としてフォームから出席状況の確認を行い、既定の出席数に不足する場合には自動的に不合格となる。なお、出席や課題に関する不正には厳正に対処する。</p>							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>特になし</p>							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

- ・毎回の授業後に実施する小テストについては、講義内で振り返りを行う。
- ・配布資料の QR コードから質問フォームにアクセスできるようにしておき、授業時間内に質問への回答を行う時間を設ける。

〔成績評価の方法〕

各回の小テスト（14回：40%）と期末試験（60%）による総合評価を基本としつつ、各評価項目での優れた回答や講義中の発言に関して適宜加点する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- (1) 「経営情報」に関連した基本用語を説明できるか。
- (2) 情報社会における最先端のキーワードについて説明できるか。
- (3) 文献から重要事項を自分なりに読み解くことができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

- ・必要な予備知識は特にならない。
- ・関連科目として、「情報戦略」「情報産業」「情報コミュニケーション技術」「経営学特殊講義 B（ICT 産業概論）」が挙げられる。特に、情報産業や情報技術に興味がある人は積極的に受講してほしい。各科目の特色等については質問があれば対応する。

〔テキスト〕

『経営情報システム<第 5 版>』、宮川公男(監修)・上田泰(編著)・飯島淳一(編著)、中央経済社、3,190 円、978-4502545610

資料は毎回の授業で配布する。

〔参考書〕

『現代経営情報論』、遠山暁・村田潔・古賀広志、有斐閣、2,970 円、978-4641221789、購入の必要なし

その他、参考文献については授業内で適宜提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

(4)アクティブ・ラーニング,(6)ICT活用

講義名	ゲーム理論<2>						
教員名	藤原 直輝						
講義コード	122221810	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>ゲーム理論は、企業の競争や人と人との関係など、結果が自らの行動だけでなく他者の行動にも依存するような状況における意思決定を分析する理論である。その分析対象は経済現象に限られず、サッカーやテニスなどのプロスポーツにおける駆け引き、ポーカー、投票行動、国家間の紛争交渉など、幅広い分野に及んでいる。</p> <p>本講義の前半では、ゲームのルールがプレイヤー間で共有されている完備情報の静学ゲームおよび動学ゲームを取り上げ、戦略的なプレイヤーがどのように行動し、どのような結果が導かれるのかを分析する。講義の後半では、各プレイヤーが私的情報（他のプレイヤーに知られていない情報）を持つ場合に、戦略的な意思決定やその結果がどのように変化するかを分析するため、不完備情報ゲームを扱う。また、講義内外で実際にゲームをプレイする機会を設け、理論だけでなく、戦略的に考えることの面白さや難しさを実感できるようにする。</p> <p>さらに、企業間の競争、参入阻止戦略、製品の品質や情報が消費者にとって不確実な状況におけるマーケティング戦略など、経済・社会における多様な現象について、ゲーム理論に基づいてどのように理解し、分析できるのかを、具体的な事例を通じて考えていく。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①さまざまな戦略的状況の構造（プレイヤー、可能な行動、プレイヤーの持つ情報など）を明確に理解し、それらを適切なゲームの形式として表現できる。</p> <p>② そのようなゲームの均衡（予測）を導出し、その均衡が合理的なプレイヤーのどのような戦略的思考の結果として導かれるのかを、経済学的・直感的に理解できる。</p> <p>③企業の競争戦略やマーケティング戦略など、経済・社会における戦略的課題をゲーム理論の視点から捉え、問題の分析や解決に応用する力（戦略的なものの見方）を身に付ける。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション（講義概要・ゲーム理論とは何か）、マイクロ経済学の復習			(復習) 講義内容を復習する。		60分	
第2回	完備情報下の静学ゲーム1（標準型ゲームによる表現と戦略、支配配略、強く支配される戦略の逐次消去）			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
第3回	完備情報下の静学ゲーム2（最適反応、純粋戦略ナッシュ均衡）			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
第4回	完備情報下の静学ゲーム3（確率の復習、混合戦略ナッシュ均衡と実証研究）			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
第5回	完備情報下の静学ゲーム4（不完全競争への応用：クールノー・ベルトラン・製品差別化競争）			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
第6回	完備情報下の動学ゲーム1（展開型ゲームによる表現と戦略、ナッシュ均衡のからげし問題）			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
第7回	完備情報下の動学ゲーム2（部分ゲーム完全均衡とその応用）			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
第8回	繰り返しゲーム1（有限回繰り返しゲーム）			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
第9回	繰り返しゲーム2（無限回繰り返しゲーム、フォーク定理）			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
第10回	不完備情報の静学ゲーム1（不完備情報の定式化、ベイジアン・ナッシュ均衡）			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
第11回	不完備情報の静学ゲーム2（応用：逆選択・投票における情報集約）			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
第12回	不完備情報の動学ゲーム1（完全ベイジアン均衡とシグナリングゲーム）			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
第13回	不完備情報の動学ゲーム2（シグナリング・ゲームの続き）			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
第14回	スクリーニングとメカニズムデザインの考え方、全体のまとめ			(予習) 事前課題に取り組む。 (復習) 講義内容を復習し、関連する演習問題を解く。		90分	
<p>[授業の方法]</p> <p>授業は、スライドと板書を併用して講義形式で行う。講義スライドは配布するが、計算を伴う内容については板書を中心に扱うため、講義に参加し、各自でノートを取る。事前課題については、定期的に講義内でディスカッションを行う。また、理解の定着を目的として、定期的に演習問題を配布する。これらの一部はレポート課題として提出を課すが、宿題以外の問題についても、講義内容の理解を確認するとともに、期末試験の準備として積極的に取り組むこと。</p> <p>ゲーム理論は内容の積み重ねが重要な分野であり、各回の講義は前回までの内容を理解していることを前提として進める。そのため、各回の講義後には十分な復習を行うこと。復習にあたっては、以下の点を意識することが望ましい。①講義で扱ったゲームの分析を、自力で再現してみる。②講義で用いたグラフや図を、自分の手で書いてみる。③分析結果を直感的・経済学的にどのように解釈できるかを考えること。なお、復習の過程で不明点が生じた場合は、オフィスアワー等を活用し、疑問点を残さないようにすること。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕

講義内では事前課題の解説やそれに基づいたディスカッションを適宜行う。また学生の理解度を見ながら、適宜宿題の解説・講評などを講義内やポータルサイト等で行う。

〔成績評価の方法〕

成績は、以下を目安として、総合的に評価する。

- ・事前課題・講義への貢献（ディスカッションにおける発言、適切な質問等）：20%
- ・レポート課題：30%
- ・学期末試験：50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

本講義では、ミクロ経済学の基礎的知識を既習であることを前提とするため、「ミクロ経済学の基礎」等の科目を履修していることが望ましい。講義中にも必要に応じて補足説明を行うが、本講義では簡単な確率論（確率の定義、期待値など）、一次関数・二次関数、そのグラフ、ならびに微分の初歩的な計算を一部で用いることがある。これらの内容に不安がある場合は、配布する練習問題等を活用して復習をすること。ただし、本講義の主眼はゲーム理論の考え方を理解することにあり、受験数学のような高度で難解な計算能力を前提とするものではない。

〔テキスト〕

購入の必要はないが、本講義では以下のテキストを使用する。

- ・Joseph Harrington "Games, Strategies, and Decision Making, Second Edition", Worth Publishers

〔参考書〕

講義内容に関する参考書として、以下を挙げる。

- ・Steven Tadelis, "Game Theory: An Introduction", Princeton University Press
 - ・岡田章「ゲーム理論・入門 新版—人間社会の理解のために」有斐閣
- また、数式を用いず、ビジネス等への応用例を含む一般向けのゲーム理論書として、以下を薦める。
- ・バリー・ネイルバフ、アビナッシュ・ディキシット 『戦略的思考をどう実践するか』 CEメディアハウス
- 以上はいずれも参考書であり、購入の必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

(4)アクティブ・ラーニング

講義名	競争戦略						
教員名	浜松 翔平						
講義コード	122311100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026前期
<p>【テーマ・概要】</p> <p>この授業では企業の活動について知り、経営学における「戦略」を理解することを目的とします。経営学における戦略論には、競争戦略と経営戦略という二つの分野があります。競争戦略では一つのビジネス(事業)で成功するための方法を考えます。経営戦略では複数のビジネス(事業)を束ね、企業全体として成長していくための方法を考えます。本講義は前者の競争戦略です。</p> <p>授業を通じて、競争戦略の基礎的な理論や実際の企業の事例を説明します。実際の企業の事例を理解するために、企業経営者などのゲスト講師による講演を実施する予定です。ゲスト講義の日程については、調整次第授業内に告知します。</p>							
<p>【科目内容を踏まえた到達目標の詳細】</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】を実現するために、以下の3点を達成目標とする。</p> <p>(1) 競争戦略論の基礎的な理論を理解することができる</p> <p>(2) 実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる</p> <p>(3) 競争戦略論の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>							
【授業の計画と準備学修】							
回数	授業の計画・内容	準備学修(予習・復習等)				準備学修の目安(分)	
第1回	オリエンテーション	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				60	
第2回	競争戦略論とは `競争戦略論の全体像`	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				60	
第3回	企業の情報収集方法	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				60	
第4回	顧客適合① ニーズは束である	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				60	
第5回	顧客適合② ニーズは多様で変化する ニーズには相互作用がある	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				90	
第6回	競争適合① 競争相手を明らかにする 競争相手との優位性を作り出す	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				60	
第7回	競争適合② 反撃への対抗策 実際の敵にしない	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				60	
第8回	ゲスト講義①	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				90	
第9回	ビジネスシステム適合① ビジネスシステムとは ビジネスシステムの設計 - システム構築の意思決	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				60	
第10回	ビジネスシステム適合② ビジネスシステムの設計 - 検討すべき要因	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				60	
第11回	ゲスト講義②	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				90	
第12回	ゲスト講義③	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				60	
第13回	ゲスト講義から得られた学びの整理	【復習】講義で扱った内容について、深めて調べてみる				60	
第14回	講義のまとめ	これまでの講義で学んだ内容を振り返る				60	
<p>【授業の方法】</p> <p>授業は、講義+ワーク(講義で習った内容に関する課題)で構成されます。内容としては、2つに分かれます。まず、戦略の理論に関する講義です。これが本講義の中心的内容となります。そして、紹介した理論を用いて、実際の企業等をケースにして、分析を行うワークを行います。これらのプロセスを経験することで、競争戦略の基礎的理解を深め、その面白さを体験できる構成を取っています。講義の中のワークは、個人で実施するケースと受講者同士でのグループワークを実施するケースとがあります。本授業では、紙資料を用いた講義内容のメモ・分析ワークを中心に進めます。そのため、授業内で指示があった場合を除き、PCやスマートフォンの利用は原則として控えてください。また、授業中のワイヤレスイヤホンの使用についても、授業への集中や円滑なコミュニケーションの観点から、特別な事情がない限り利用を控えてください。なお、合理的配慮等が必要な場合は、学生サポートセンターへ相談してください。</p>							
<p>【パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)】</p> <p>授業内で指示があった場合を除き、PCやスマートフォンの利用は原則として控えてください。また、授業中のワイヤレスイヤホンの使用についても、授業への集中や円滑なコミュニケーションの観点から、特別な事情がない限り利用を控えてください。なお、合理的配慮等が必要な場合は、学生サポートセンターへ相談してください。</p>							
【課題等へのフィードバック方法】							

授業の最初にコメントシートへのフィードバックを行います。

〔成績評価の方法〕

中間評価（レポート）40%、最終評価（テスト）40%、平常点（授業への参加状況、コメントシートの提出、発言など）20%として、その他、授業への積極的な参加をプラスに評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づいて評価する。

- (1) 競争戦略論の基礎的な理論を理解することができる
- (2) 実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる
- (3) 競争戦略論の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予習は特に必要ありません。その他に必要な作業は授業で指示します。

〔テキスト〕

テキストは必要ありません。講義を通じて提示される資料がテキストになります。

〔参考書〕

伊丹敬之(2003)『経営戦略の論理（第3版）』日本経済新聞出版社。
伊丹敬之(2012)『経営戦略の論理（第4版）ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』日本経済新聞出版社。
伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社。
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

(4)アクティブ・ラーニング

講義名	情報戦略						
教員名	吉見 憲二						
講義コード	122311200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>【テーマ・概要】</p> <p>近年、GAFAM (Google/Alphabet, Apple, Facebook/Meta, Amazon, Microsoft) や Magnificent 7 (Google/Alphabet, Apple, Facebook/Meta, Amazon, Microsoft, NVIDIA, Tesla) といった IT 企業が提供する商品・サービスが世界的に大きなシェアを獲得している。これらの企業は巨大なプラットフォームを持っている点が共通しており、そのサービスはプラットフォームの効果を最大限に発揮したものとなっている。本授業では、こうした企業のビジネスモデルをプラットフォーム戦略の観点から検討する。</p> <p>授業の前半では、テキストとなる文献の内容を中心にさまざまなプラットフォームの効果について概観する。後半では、Google/Alphabet, Apple, Facebook/Meta, Amazon のビジネスモデルについて取り上げ、どのようなプラットフォーム戦略を採用しているのかを考察する。一連の学習を通して、IT 企業の情報戦略をプラットフォームの観点から理解することが本授業の目的である。</p> <p>なお、授業の進捗や受講生からの要望によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>【科目内容を踏まえた到達目標の詳細】</p> <p>次の3点を到達目標とする。</p> <p>(1) プラットフォームビジネスに関連した基本用語を説明できる。</p> <p>(2) プラットフォームのさまざまな効果について、その優位点や課題を含めて説明できる。</p> <p>(3) IT 企業のビジネスモデルについて、プラットフォーム戦略の観点から説明できる。</p>							
【授業の計画と準備学修】							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラパスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。 ・プラットフォームの定義について理解する。 			<p>【予習】事前にシラパスをよく読み、質問等があれば用意しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第2回	<p>プラットフォームの基本 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レイヤー構造化について理解する。 ・ネットワーク効果について理解する。 			<p>【予習】「レイヤー構造化」と「ネットワーク効果」という用語について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第3回	<p>プラットフォームの基本 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロスプラットフォームについて理解する。 ・デバイス転換について理解する。 			<p>【予習】「クロスプラットフォーム」と「デバイス転換」という用語について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第4回	<p>プラットフォームの広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WTA (Winner Takes All) について理解する。 ・プロフィットプールの攻防について理解する。 			<p>【予習】「WTA (Winner Takes All)」と「プロフィットプール」という用語について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第5回	<p>プラットフォームの戦略 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコシステムのマネジメントについて理解する。 ・スイッチングコストについて理解する。 			<p>【予習】「エコシステム」と「スイッチングコスト」という用語について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第6回	<p>プラットフォームの戦略 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルチホームイングについて理解する。 ・包囲戦略について理解する。 			<p>【予習】「マルチホームイング」と「包囲戦略」という用語について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第7回	<p>中間まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業内容について振り返る。 ・レポート課題に関する説明を行う。 			<p>【予習】これまでの授業内容で理解が不十分な点を確認しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第8回	<p>Google</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google のビジネスモデルについて理解する。 ・Google のプラットフォーム戦略について議論する。 			<p>【予習】Google が提供する商品・サービスとプラットフォーム戦略の関係について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第9回	<p>Amazon</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Amazon のビジネスモデルについて理解する。 ・Amazon のプラットフォーム戦略について考える。 			<p>【予習】Amazon が提供する商品・サービスとプラットフォーム戦略の関係について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第10回	<p>Apple</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Apple のビジネスモデルについて理解する。 ・Apple のプラットフォーム戦略について考える。 			<p>【予習】Apple が提供する商品・サービスとプラットフォーム戦略の関係について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第11回	<p>Meta (Facebook)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Meta (Facebook) のビジネスモデルについて理解する。 ・Meta (Facebook) のプラットフォーム戦略について考える。 			<p>【予習】Meta (Facebook) が提供する商品・サービスとプラットフォーム戦略の関係について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第12回	<p>その他の IT 企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の IT 企業のビジネスモデルについて理解する。 ・その他の IT 企業のプラットフォーム戦略について考える。 			<p>【予習】講義で取り上げた企業以外にプラットフォーム戦略を活用している企業について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第13回	<p>レポート課題のフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施したレポート課題について評価ポイントを理解する。 ・レポート執筆の基本事項について再度確認し、理解する。 			<p>【予習】自身の提出したレポートの内容について再確認しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第14回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の内容を振り返り、それぞれの IT 企業がどのようなプラットフォーム戦略を採用しているかについて議論する。 ・シラパスの内容を再度確認し、授業の概要や評価基準について説明する。 			<p>【予習】全体の内容を振り返り、それぞれの IT 企業がどのようなプラットフォーム戦略を採用しているかを考える。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。期末試験に向けて準備する。</p>		60	
<p>【授業の方法】</p> <p>授業は講義形式で進める。授業の構成として、①ディスカッション準備 (10分)、②前回内容の振り返り (10分)、③ディスカッション (10分×2回)、④講義 (50分)、⑤質疑応答 (10分)、⑥課題 (授業後) を基本とする。詳細は次の通りである。</p> <p>①冒頭に【予習】と関連したディスカッションテーマを提示し、10分間各自で考える時間を与える。</p> <p>②課題の内容に関して次回授業の前半で振り返りを行い、優れた回答は全体に共有する。</p>							

<p>③授業時間中に、冒頭に提示したテーマに関して受講者にマイクを回し、ディスカッションを行う。受講人数に応じて実施形態については検討する。</p> <p>④講義は配布した資料を中心に展開する。なお、講義中にも受講者にマイクを回し、意見や回答を求めることがある。</p> <p>⑤ICTを活用した双方向型の授業として、スマートフォンでQRコードを読み取り、授業時間内に質問をできるようにする。質問については原則授業内で回答する。</p> <p>⑥e-ラーニングを活用した自主学習支援として、各回の授業内容に関連した課題を【予習】【復習】扱いで実施する。 レポート課題の内容、評価基準については、授業内で説明する。また、受講者の希望等を踏まえて、授業期間内に2回ほど少人数でのグループワークを実施する可能性がある。</p> <p>講義形式となるため欠席等の連絡は不要であるが、原則としてフォームから出席状況の確認を行い、既定の出席数に不足する場合には自動的に不合格となる(ただし、受講状況に応じて出席確認の方法を変更する可能性がある)。なお、出席や課題に関する不正には厳正に対処する。</p> <p>生成AIの利用方針に関しては、授業内で説明する。</p>
<p>〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業後に実施する課題とレポートについては、希望者に個別にフィードバックを行う。 ・次回授業の冒頭で前回課題の振り返りを行い、優れた回答を全体に共有する。 ・配布資料のQRコードから質問フォームにアクセスできるようにしておき、授業時間内で質問への回答を行う時間を設ける。 ・特に優れたレポートについては、受講者の許可を得た上で授業内で紹介する。併せて、レポートの評価基準について解説を行う。
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>各回の課題(14回:40%)、レポート課題(20%)、期末試験(40%)による総合評価を基本としつつ、各評価項目での優れた回答や講義中の発言に関して適宜加点する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)プラットフォームビジネスに関連した基本用語を説明できるか。 (2)プラットフォームのさまざまな効果について、その優位点や課題を含めて説明できるか。 (3)IT企業のビジネスモデルについて、プラットフォーム戦略の観点から説明できるか。
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な予備知識は特になし。 ・この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。 ・関連科目として、「情報産業」「情報コミュニケーション技術」「経営情報<1><2>」「経営学特殊講義B(ICT産業概論)」が挙げられる。特に、情報産業や情報技術に興味がある人は積極的に受講してほしい。各科目の特色等については質問があれば対応する。
<p>〔テキスト〕</p> <p>資料は毎回の授業で配布する。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>『プラットフォームの教科書 超速成長ネットワーク効果の基本と応用』、根来龍之、日経BP、1,870円、978-4822255091、購入の必要なし 『プラットフォームビジネス最前線 26の分野を図解とデータで徹底解剖』、富士通総研(編著)・早稲田大学ビジネススクール根来研究室(編著)・根来龍之(監修)、翔泳社、1,980円、978-4798133973、購入の必要なし 『プラットフォームビジネス -- デジタル時代を支配する力と陥穽』、マイケル A.クスマノ(著)・アナベル ガワー(著)・デヴィッド・B.ヨッフィー(著)・青島矢一(監修、翻訳)、有斐閣、2,750円、978-4641165687、購入の必要なし その他、参考文献については授業内で適宜提示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕</p> <p>ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知する。 授業終了後に教室で受け付ける。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p>(4)アクティブ・ラーニング、(6)ICT活用</p>

講義名	ベンチャー・ビジネス						
教員名	浜松 翔平						
講義コード	122311300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>現在、日本は様々なベンチャー企業（最近ではスタートアップ企業という）が生まれています。この講義では、ベンチャービジネス（＝スタートアップビジネス）の基礎的な理論や実際の企業の事例を解説します。</p> <p>本講義を受講することで、新しい企業を生み出すスタートアップのダイナミズムを知り、スタートアップについて考えたり、興味を持つきっかけとなるでしょう。講義では、現実の課題に対してスタートアップの理論がどのように適用できるかを理解できるように、現実の事例をもとに講義を進めます。実際のベンチャービジネスを実行することに興味のある受講者向けに、ビジネスプラン発表会の機会を設けます。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】を実現するために、以下の3点を達成目標とする。</p> <p>(1)ベンチャービジネスの基礎的な理論を理解することができる</p> <p>(2)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる</p> <p>(3)ベンチャービジネスの基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）				準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第2回	スタートアップとは？	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第3回	ビジネスプランの作り方	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第4回	起業プロセス	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第5回	事業機会	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第6回	経営資源の獲得	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第7回	経営チームの組成	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第8回	アントレプレナーシップを学ぶ重要性和楽しみ	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第9回	リーンスタートアップ	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第10回	資金調達先としてのベンチャーキャピタル	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第11回	ゲスト講義①	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第12回	ゲスト講義②	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第13回	ビジネスプラン発表会	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
第14回	まとめ	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。				60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は、講義＋ワーク（講義で習った内容に関する課題）で構成されます。</p> <p>内容としては、2つに分かれます。まず、ベンチャービジネスに関する講義です。これが中心的な内容となります。</p> <p>そして、紹介した理論を用いて、実際の企業等をケースにして、分析を行うワークを行います。</p> <p>これらのプロセスを経験することで、ベンチャービジネスの基礎的理解を深め、その面白さを体験できる構成を取っています。</p> <p>講義の中のワークは、個人で実施するケースと受講者同士でのグループワークを実施するケースとがあります。</p> <p>本授業では、紙資料を用いた講義内容のメモ・分析ワークを中心に進めます。</p> <p>そのため、授業内で指示があった場合を除き、PCやスマートフォンの利用は原則として控えてください。</p> <p>また、授業中のワイヤレスイヤホンの使用についても、授業への集中や円滑なコミュニケーションの観点から、特別な事情がない限り利用を控えてください。</p> <p>なお、合理的配慮等が必要な場合は、学生サポートセンターへ相談してください。</p>							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>授業内で指示があった場合を除き、PCやスマートフォンの利用は原則として控えてください。</p> <p>また、授業中のワイヤレスイヤホンの使用についても、授業への集中や円滑なコミュニケーションの観点から、特別な事情がない限り利用を控えてください。</p>							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

毎回の授業の初めに、コメントシートに記載された内容についてフィードバックを行います。

〔成績評価の方法〕

中間評価（レポート）40%、最終評価（テスト）40%、平常点（コメントシートへの記載など）20%として、その他、授業への積極的な参加をプラスに評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づいて評価する。

- (1)ベンチャービジネスの基礎的な理論を理解することができる
- (2)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる
- (3)ベンチャービジネスの基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

忽那憲治ほか（2013）『アントレプレナーシップ入門-ベンチャーの創造を学ぶ』有斐閣ストゥディア。
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

(4)アクティブ・ラーニング

講義名	生産管理						
教員名	福澤 光啓						
講義コード	122311900	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>企業は、製品・サービスを顧客へ提供することで収益をあげているが、ライバルよりも高い収益・利益を獲得するためには、自社の製品・サービスを顧客に選択してもらうために、価格や機能、性能、デザイン、広告などにおいて優れている必要がある。これら顧客が直接評価できる項目について他社より優れた状況を実現するためには、品質やコスト、納期といった顧客からは直接見えないけれども企業の現場の実力を現す項目において優れていることが必要であり、それを可能にする組織の能力を鍛えることが不可欠である。このような現場の実力や組織の能力が、企業の競争力の根本的な支えとなる。製品・サービスを創造し顧客に提供して価値を獲得するための一連の活動は「ものづくり」と呼ばれ、これをいかに有効かつ効率的に行うことができるかが、企業の長期的な成長や存続に大きな影響を与える。</p> <p>本講義では、生産活動に軸足を置きつつ、ものづくりに関わる諸活動をうまくマネジメントするために必要となるさまざまな概念や方策を体系的に取り上げて解説する。ただし、本講義は「お客様の笑顔づくり」がものづくり活動の根本であるという視点に立っているので、そこで学修することは、いわゆる物理的なモノの生産活動のマネジメントだけでなく、サービス領域にも適用可能なものである。</p> <p>本講義の目標は、受講生が、生産管理に関する基本的な考え方を学ぶとともに、当該活動をマネジメントするうえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して解決策を示せるようになることである。そのために、講義では理論と実際のケースをあわせて解説しつつ授業内での質疑応答を積極的に行うことにより、自分の頭で論理的に考え説明するトレーニングをする。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>次の2点を到達目標とする。</p> <p>①ものづくり経営・生産管理に関する基本的な考え方を学修する。</p> <p>②上記を活かして、ものづくり・生産活動をマネジメントするうえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、有効かつ効率的にものづくりを行うための解決策を示せるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：日本におけるものづくりの現状と課題 ・授業の全体像、進め方、予習復習の仕方等を説明する。 ・企業の生産活動について事例から考察する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第2回	付加価値の流れとしての「ものづくり」活動 ・付加価値創造・転写プロセスとしてのものづくり活動を把握する方法を学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第3回	製品と工程の歴史分析 ・製品・工程ライフサイクル、大量生産方式の発展の歴史、日本型生産システムについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第4回	競争力とその構成要素 ・企業の競争力を現場の視点から把握する方法について学修する。 ・競争力の構成要素、能力構築競争について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第5回	コスト・生産性の管理 ・原価管理、生産性の概念と測定、改善活動、「ジャスト・イン・タイム方式」について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第6回	納期と工程管理 ・納期と工程管理の概念、生産計画、生産期間と在庫、かんばんシステムについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第7回	品質の管理 ・品質の概念・測定、品質管理について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第8回	フレキシビリティ ・部品および工程のフレキシビリティについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第9回	生産戦略 ・生産戦略の概念、生産能力の決定、工場ネットワーク戦略について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第10回	人事・労務管理 ・ものづくりにかかわる人事・労務管理について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第11回	生産設備と生産技術の管理 ・生産設備と生産技術のマネジメントについて学修する。 ・ものづくりのデジタル化について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第12回	購買管理とサプライヤ・システム ・購買管理とサプライヤ・システムのマネジメントについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第13回	製品開発の基礎 ・製品開発のプロセス、組織、パフォーマンスについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第14回	まとめ			【予習】各回の配布資料を確認する。質問を考える。 【復習】各回の授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>・事前に配布してある授業資料（事前資料）を受講生が既に読んでいることを前提として講義を行う。適宜、グループディスカッションを行う場合もある。</p> <p>・基本的には、①事前配布資料のポイントを解説しつつ、事前資料には書かれていない事柄（理論、概念、企業の実例など）についても説明し、②事前資料に書かれている内容について受講生が事前に考えてきた質問の収集とそれにもとづいて議論を行い受講生の理解を深める、という流れで授業を進める。したがって、受講生は、事前資料を熟読して、その内容に対する質問を考えようとして、授業に臨むことが必要である。質問内容は「質問メモ」に記入して、授業で定められた</p>							

方法にて提出すること。

- ・また、適宜、授業内で簡単な課題を出して授業で学んだことを活用して回答してもらうことにより、受講生の理解を深めるための「授業内ワーク」を複数回実施（事前告知はしない）する。これは、基本的に CoursePower を利用して実施するため、授業にパソコンやタブレットなどの情報端末を持参すること（ただし、状況に応じて、紙での提出を求める場合もある）。
- ・授業時間内に実施する「質問メモ」や「授業内ワーク」の提出は、必ず、授業で指定された方法にもとづいて定められた期限内に、受講生本人が作成して授業担当者に対して行うこととする。いかなる場合・理由であっても、事前・事後の提出や代理提出等を認めない。
- ・なお、授業の方法や成績評価の方法等については、第 1 回目の授業において詳細に説明するので、必ず確認のうえ、授業内で説明された内容にしたがって、授業に臨むこと。
- ・授業内容とスケジュールについては、進行状況に応じて変更の可能性がある。
- ・上で示された準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業中に、適宜、フィードバックと解説を行う。

〔成績評価の方法〕

「学期末試験」（90％）への解答内容、および、「平常点（授業内ワークへの解答内容など）」（10％）にもとづき総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

①ものづくり経営・生産管理に関する基本的な考え方を学修できている。

②上記を活かして、ものづくり・生産活動をマネジメントするうえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、有効的かつ効率的にものづくりを行うための解決策を示すことができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

・経営戦略論、経営組織論、イノベーション・製品開発論、マーケティング論に関する基礎的な知識を習得することが望ましい。

〔テキスト〕

各回の授業資料は事前に、CoursePower を通じて配布するので、テキストは特にならない。それらの資料を各自必要に応じて印刷したり、PC やタブレット端末等を利用して授業に臨むこと。各回の授業資料を事前に熟読して、質問内容を考えたうえで授業に臨むこと。

〔参考書〕

生産管理についてより深く学びたい人のために、授業中に適宜紹介する。参考までに以下のものを挙げておく（「購入の必要なし」）。

藤本隆宏（1997）『生産システムの進化論』有斐閣

藤本隆宏（2001a）『生産マネジメント入門Ⅰ』日本経済新聞社

藤本隆宏（2001b）『生産マネジメント入門Ⅱ』日本経済新聞社

藤本隆宏（2003）『能力構築競争』中央公論新社

藤本隆宏編（2013）『「人工物」複雑化の時代』有斐閣

藤本隆宏編（2024）『工場史』有斐閣

福澤光啓（2022）「新たな価値をいかにして創り出すのかーイノベーション・製品開発ー」, 具滋承編著『経営学の入門』, pp. 164-182, 法律文化社.

福澤光啓（2022）『「神の手」のDX変革：ワコール』, 伊藤宗彦・松尾博文・富田純一編著『1からのデジタル経営』, pp. 97-111, 碩学舎.

大野耐一（1978）『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社

徐寧教・新宅純二郎・富野貴弘編（2025）『ケースに学ぶ生産管理』有斐閣

高橋伸夫編著（2011）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

土屋元彦（2018）『現場主義を貫いた富士ゼロックスの“経営革新”』日刊工業新聞社

和田一夫（2009）『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会

Holweg, M. and Pil, F., K. (2004) The Second Century, The MIT Press, Cambridge, MA.

Womack, J. P., Jones, D.T., and Roos, D. (1990) The Machine that Changed the World, Rawson Associates, New York.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

(4)アクティブ・ラーニング,(6)ICT活用

講義名	産業の経済学						
教員名	鷹岡 澄子						
講義コード	122312000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>本科目では、企業の戦略的行動と政策の関係について学ぶ。 具体的には、市場集中度やカルテル、M&Aなどのテーマを通じて、競争を促進するための規制と企業活動の国際化に対応した規制の流れを学ぶ。 また、企業と消費者の間には製品に対する情報の格差がある。企業は自分たちの販売する商品の良さをどうやって消費者に伝えようとするのか。消費者はどのような政策によって、情報が完全でない場合保護されるのか。不必要な規制が緩和されると、どのような効果がもたらされるのかなどを学習していく。 なお、授業の進捗によって、以下の授業の計画や内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>本科目では、DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、履修学生が次のような水準に到達することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の産業や市場を経済学的に理解する。 ・学習した基礎的な枠組みを具体例に応用することができる。 ・現実の企業行動や政策を分析することができる。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 市場集中度について			【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第2回	市場集中度について（つづき）			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第3回	カルテルについて カルテルの種類 カルテルの結成動機 カルテル維持の限界 規制			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第4回	カルテルについて（つづき） カルテルの種類 カルテルの結成動機 カルテル維持の限界 規制			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第5回	M&A M&Aとその傾向 M&Aの手法・動機 合併のモデル アドバイザーについて			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第6回	M&A（つづき） M&Aとその傾向 M&Aの手法・動機 合併のモデル アドバイザーについて			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第7回	参入の経済効果 新規参入とその経済効果 過剰参入 コンテストブルマーケットでの新規参入 独占的競争			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第8回	参入の経済効果（つづき） 新規参入とその経済効果 過剰参入 コンテストブルマーケットでの新規参入 独占的競争			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第9回	情報の非対称性と企業行動 品質と情報の非対称性 情報の非対称下の企業戦略 価格と情報の非対称性			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第10回	情報の非対称性と企業行動（つづき） 品質と情報の非対称性 情報の非対称下の企業戦略 価格と情報の非対称性			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第11回	スクリーニング・オークション メカニズム・デザイン入門 スクリーニング オークション			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第12回	広告 広告の種類 ドーファン=スタイナーのモデル 広告と経済厚生			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第13回	広告（つづき） 広告の種類 ドーファン=スタイナーのモデル 広告と経済厚生			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	

第14回	まとめ	<p>【予習】 今までのクイズ・授業ノートを理解する。</p> <p>【復習】 できなかったところをクイズ・授業ノートで確認する。</p>	120
<p>〔授業の方法〕 授業は講義を中心に進める。授業中にクイズを行う。クイズを正解し、答え合わせを報告した学生は成績に加点される。授業ノートなど必要な資料は担当教員が作成し、配布する。</p>			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 授業内課題のクイズの解説と答え合わせを翌週に行う。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 課題 30%、学期末試験 70%を基本としつつ、授業への積極的参加をプラスに評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ミクロ経済学の基礎</p>			
<p>〔テキスト〕 授業ノートはファイルで配布します。</p>			
<p>〔参考書〕 『産業組織の経済学 第2版』、長岡貞夫・平尾由紀子、日本評論社、3240 円、ISBN-13: 978-4535556676 Industrial Organization, Oz Shy, The MIT Press、0-262-69179-5</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

講義名	情報産業						
教員名	吉見 憲二						
講義コード	122312100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>情報化の進展に伴い、「産業の情報化」「情報の産業化」がますますその勢いを強めている。「産業の情報化」は様々な産業の生産活動の中で情報に関連した労働や中間投入が増加していく側面をとらえた概念であり、「情報の産業化」は産業の情報化に伴い情報関連のサービス活動が独立した産業を形成して発展していく側面をとらえた概念である(出典：平成29年版情報通信白書)。近年の各種産業の変化をとらえるためには、「産業の情報化」と「情報の産業化」の観点が必要不可欠である。</p> <p>授業では、広義の情報産業に関連する各種産業の構造・特徴について概観し、近年の課題について取り上げる。そのため、原則として各回の講義で1つずつ関連した産業を扱う予定である。授業全体を通して、「産業の情報化」と「情報の産業化」がどのようにそれぞれの産業に影響を与えているかを理解し、今後の展望について考えられるようになることが本授業の目的である。</p> <p>なお、授業の進捗や受講生からの要望によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>次の3点を到達目標とする。</p> <p>(1) 情報産業の発展の過程を「産業の情報化」と「情報の産業化」の概念を踏まえて説明できる。</p> <p>(2) 講義で取り上げる各産業の構造・特徴を理解し、近年の当該産業を巡る課題について議論できる。</p> <p>(3) 講義で取り上げる各産業の理解を踏まえて、広義の情報産業の今後の展望について自分なりの考えを説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラパスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。 ・「産業の情報化」と「情報の産業化」について理解する。 			<p>【予習】事前にシラパスをよく読み、質問等があれば用意しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第2回	<p>オンラインサービスと情報産業の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要なオンラインサービスについて理解する。 ・近年のオンラインサービスの背景にある技術や理論を理解する。 			<p>【予習】オンラインサービスが情報産業に与えた影響について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第3回	<p>放送産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の放送産業を巡る課題について理解する。 			<p>【予習】情報化によって生じた放送産業の変化について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第4回	<p>出版産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出版産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の出版産業を巡る課題について理解する。 			<p>【予習】情報化によって生じた出版産業の変化について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第5回	<p>音楽産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の音楽産業を巡る課題について理解する。 			<p>【予習】情報化によって生じた音楽産業の変化について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第6回	<p>映画産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の映画産業を巡る課題について理解する。 			<p>【予習】情報化によって生じた映画産業の変化について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第7回	<p>アニメーション産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメーション産業の構造・特徴について理解する。 ・近年のアニメーション産業を巡る課題について理解する。 			<p>【予習】情報化によって生じたアニメーション産業の変化について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第8回	<p>ゲーム産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム産業の構造・特徴について理解する。 ・近年のゲーム産業を巡る課題について理解する。 			<p>【予習】情報化によって生じたゲーム産業の変化について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第9回	<p>中間まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義内容について振り返る。 ・レポート課題に関する説明を行う。 			<p>【予習】これまでの講義内容で理解が不十分な点を確認しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第10回	<p>通信産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の通信産業を巡る課題について理解する。 			<p>【予習】情報化によって生じた通信産業の変化について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第11回	<p>ハードウェア/ソフトウェア産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェア/ソフトウェア産業の構造・特徴について理解する。 ・近年のハードウェア/ソフトウェア産業を巡る課題について理解する。 			<p>【予習】情報化によって生じたハードウェア/ソフトウェア産業の変化について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第12回	<p>その他情報産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生の要望等を踏まえて、特定の産業について取り上げる。 ・近年の当該産業を巡る課題について理解する。 			<p>【予習】特に授業で取り上げたい産業について考えておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第13回	<p>レポート課題のフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期中に実施したレポート課題について評価ポイントを理解する。 ・レポート執筆の基本事項について再度確認し、理解する。 			<p>【予習】自身の提出したレポートの内容について再確認しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第14回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の内容を振り返り、「産業の情報化」と「情報の産業化」がどのようにそれぞれの産業に影響を与えているかについて議論する。 ・シラパスの内容を再度確認し、授業の概要や評価基準について説明する。 			<p>【予習】全体の内容を振り返り、「産業の情報化」と「情報の産業化」がどのようにそれぞれの産業に影響を与えているか考える。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。期末試験に向けて準備する。</p>		60	
〔授業の方法〕							

<p>授業は講義形式で進める。授業の構成として、①ディスカッション準備（10分）、②前回内容の振り返り（10分）、③ディスカッション（10分×2回）、④講義（50分）、⑤質疑応答（10分）、⑥課題（授業後）を基本とする。詳細は次の通りである。</p> <p>①冒頭に【予習】と関連したディスカッションテーマを提示し、10分間各自で考える時間を与える。</p> <p>②課題の内容に関して次回授業の前半で振り返りを行い、優れた回答は全体に共有する。</p> <p>③授業時間中に、冒頭に提示したテーマに関して受講者にマイクを回し、ディスカッションを行う。受講人数に応じて実施形態については検討する。</p> <p>④講義は配布した資料を中心に展開する。なお、講義中にも受講者にマイクを回し、意見や回答を求めることがある。</p> <p>⑤ICTを活用した双方向型の授業として、スマートフォンでQRコードを読み取り、授業時間内に質問をできるようにする。質問については原則授業内で回答する。</p> <p>⑥e-ラーニングを活用した自主学習支援として、各回の授業内容に関連した課題を【予習】【復習】扱いで実施する。</p> <p>レポート課題の内容、評価基準については、授業内で説明する。また、受講者の希望等を踏まえて、授業期間内に2回ほど少人数でのグループワークを実施する可能性がある。</p> <p>講義形式となるため欠席等の連絡は不要であるが、原則としてフォームから出席状況の確認を行い、既定の出席数に不足する場合には自動的に不合格となる（ただし、受講状況に応じて出席確認の方法を変更する可能性がある）。なお、出席や課題に関する不正には厳正に対処する。</p> <p>生成AIの利用方針に関しては、授業内で説明する。</p>
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業後に実施する課題とレポートについては、希望者に個別にフィードバックを行う。 ・次回授業の冒頭で前回課題の振り返りを行い、優れた回答を全体に共有する。 ・配布資料のQRコードから質問フォームにアクセスできるようにしておき、授業時間内で質問への回答を行う時間を設ける。 ・特に優れたレポートについては、受講者の許可を得た上で授業内で紹介する。併せて、レポートの評価基準について解説を行う。
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>各回の課題（14回：40%）、レポート課題（20%）、期末試験（40%）による総合評価を基本としつつ、各評価項目での優れた回答や講義中の発言に関して適宜加点する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報産業の発展の過程を「産業の情報化」と「情報の産業化」の概念を踏まえて説明できるか。 (2) 講義で取り上げる各産業の構造・特徴を理解し、近年の当該産業を巡る課題について議論できるか。 (3) 講義で取り上げる各産業の理解を踏まえて、広義の情報産業の今後の展望について自分なりの考えを説明できるか。
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な予備知識は特になし。 ・この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。 ・関連科目として、「情報戦略」「情報コミュニケーション技術」「経営情報<1><2>」「経営学特殊講義B（ICT産業概論）」が挙げられる。特に、情報産業や情報技術に興味がある人は関連科目も積極的に受講してほしい。各科目の特色等については質問があれば対応する。
<p>〔テキスト〕</p> <p>資料は毎回の授業で配布する。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>『情報メディア白書(各年版)』、電通メディアイノベーションラボ/電通総研 編、ダイヤモンド社、購入の必要なし</p> <p>『情報通信白書(各年版)』、総務省、購入の必要なし</p> <p>その他、参考文献については授業内で適宜提示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知する。</p> <p>授業終了後に教室で受け付ける。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p>(4)アクティブ・ラーニング,(6)ICT活用</p>

講義名	環境と経営戦略						
教員名	田口 誠						
講義コード	122312300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：「企業戦略と自然環境問題」</p> <p>本講義では、企業の環境マネジメントに関連した具体的なトピックを取り上げ、経営学の側面から詳しく分析する。例えば、</p> <p>(1) 企業の環境対策は収益性を高めるのか？</p> <p>(2) ISO14000 シリーズの認証取得は本当に環境を改善させる効果を持つのか？</p> <p>(3) どのような特性を持つ消費者が環境にやさしい製品を積極的に買うか？</p> <p>(4) 企業は戦略上、どのような商品について優先的に環境対策を進めていくべきか？</p> <p>(5) 企業が環境情報を開示することで、株価はどの程度の影響を受けるのか？</p> <p>といった基本的かつ重要な疑問に対して、国内外の企業の事例や統計、調査研究例を紹介しながら議論する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1 (専門分野の知識・技能) を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>1. 企業が直面する環境問題の性質や、環境対策の内容について説明できるようにすること。</p> <p>2. 経営学の各分野の理論を用いて、環境経営に関わる問題の解決を提案できるようにすること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・環境経営について、その概略を説明する。			【復習】環境経営を学ぶ意義について説明できるようにする。		60	
第2回	企業の収益性と環境対策 ・環境対策が企業の収益性に与える影響について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	環境に配慮した製品設計・生産：エネルギー ・エネルギー消費に重点を置き、製品設計や生産の面から企業の環境対策について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	環境に配慮した製品設計・生産：有害化学物質 ・有害化学物質に重点を置き、製品設計や生産の面から企業の環境対策について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	環境に配慮した製品設計・生産：LCA ・環境に配慮した生産を支援する手法としてのLCAについて学ぶ。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	製品差別化と環境対策 ・環境対策を通じた製品の差別化について学ぶ。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	グリーン・マーケティング ・環境に配慮した製品のマーケティングについて考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	環境と消費者行動 ・消費者は環境に配慮した製品についてどのように考え、行動するかについて考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	ISO14000と企業組織 ・組織における環境対策手法としてのISO14000の意義について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	組織としての環境対策の発展 ・企業における環境対策が歴史的にどのように発展してきたかについて説明する。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	政府の規制と企業の戦略的行動 ・政府の環境規制と企業行動の関係性について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	企業による自主的な環境対策の効果と収益性 ・企業の自主的な環境対策が環境や経営に与える効果について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	環境情報の公開と株価 ・環境情報の公開が企業価値に与える影響について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	企業の環境対策と歴史 ・これまでに企業の環境対策に対する考え方がどのように変化してきたかを学ぶ。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義を中心に進める。普段から講義資料を使った復習に力を入れ、次回の授業にわからない点を持ち越さないようにすること。また、授業中に課題を提示し、レポートの提出を求めることがある。</p> <p>なお、課題レポート、学期末試験の狙いは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート：講義の内容が理解できているかを確認する。 ・学期末試験：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 							
〔パソコンに関する受講者への指示 (特別なソフトウェアのインストール等)〕							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 授業中の課題については、必要に応じて解説の時間を設ける。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 学期末試験 70%、課題レポート 30%をめやすとして総合的に評価する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38, 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 1. 企業が直面する環境問題の性質や、環境対策の必要性について、事例を交えながら論理的にわかりやすく説明できる。 2. マーケティング、消費者行動、ファイナンスなどの理論を用いて、環境経営に関わる諸問題の解決を提案できる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 この科目は経営学部 2 年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。</p>
<p>〔テキスト〕 特になし。</p>
<p>〔参考書〕 講義の中で適宜、紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	企業の国際戦略						
教員名	高橋 耕史						
講義コード	122312400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>まず、国際経済の基本的な理論について講義する。財・サービスの貿易理論、政策、および国際経済の時事問題などについて学ぶ。次に、貿易、外国為替取引、および海外直接投資について企業戦略の事例を紹介する。様々な企業の事例を通じて、企業の国際戦略に関する理解を深める。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際経済の理論を学ぶことにより、国際貿易・金融の基本的な仕組みを理解する。 ・貿易などによる国際取引が各国経済に及ぼす厚生効果について学び、通商政策と国際貿易体制に関する理解を深める。 ・日本や海外主要国の貿易の特徴に関する理解を深める。 ・具体的な貿易と海外直接投資に関する企業の事例について知識を深め、貿易理論の枠組みに基づき理解できるようにする。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション 授業の進め方と評価方法等・レポートの内容について説明します ・日本と世界貿易の現状と変遷 ・以下の内容は、進捗状況等によって一部変更がある可能性があります 			【復習】 授業の内容を復習する。ニュース記事や身の回りの経済事象からレポートのテーマを考え始める。		60	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易の基本的な理論 比較優位の理論#1 リカード・モデル ヘクシャー＝オリーン・モデル 			【復習】 スライドを復習するとともに、不明な点は質問をするか、テキストや参考文献で学修する		120	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・演習1 ・比較優位の理論#2 			【復習】 授業の内容を復習する。		60	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・演習1の解説 ・新しい貿易理論 			【復習】 演習1、授業の内容を復習する。		120	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・演習2 ・世界と日本の直接投資 ・直接投資の理論的背景 			【復習】 授業の内容を復習する。		90	
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・演習2の解説 ・国際金融取引と国際収支、金融収支 			【復習】 授業の内容を復習する。		120	
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・演習3 ・外国為替取引#1 外国為替取引と為替レートの変遷 			【復習】 授業の内容を復習する。		90	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・演習3の解説 ・外国為替取引#2 為替リスクとリスクヘッジ 			【復習】 授業の内容を復習する。		120	
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・演習4 ・貿易を行う企業の国際戦略#1 多国籍企業 ・レポートの基本的な書き方 			【復習】 授業の内容を復習する。授業で取り上げられた事例を踏まえてレポートで取り上げるテーマを決めて作成する		90	
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 演習4の解説 ・貿易を行う企業の国際戦略#2 移転価格税制、ダンピング 			【復習】 授業の内容を復習する。		120	
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易を行う企業の国際戦略#3 海外企業の日本進出の事例 			【復習】 授業の内容を復習する。		120	
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易を行う企業の国際戦略#4 企業の輸出と現地生産の事例 			【復習】 授業の内容を復習する。		120	
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易を行う企業の国際戦略#5 研究開発と企業の国際戦略 			【復習】 授業の内容を復習する。		120	
第14回	全体のまとめ			【復習】 学期全体の内容の復習と理解に努める。		120	
<p>[授業の方法]</p> <p>授業時にはスライドに基づき講義を行う。授業中の短い演習問題を定期的に行い、理解度を確認しながら進める。</p> <p>なお、演習、期末レポートの狙いは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の短い演習：その時々々の授業内容の理解を確認する。 ・期末レポート：現実の企業の国際戦略の事例について各自が調べることにより、経済理論のフレームワークを用いた分析方法への理解を深めるとともにレポートの書き方を学修する 							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>「授業の方法」で述べたとおり、学生は①計5回程度、授業時に演習を提出する。また、②学期末に課題レポートを提出する。これらの提出物のうち、①については提出後の授業で正解を公開して、全体的な解説と講評を行う。②については、レポートへのショートコメントを付してフィードバックする。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点（評価の60%程度）と学期末の課題レポート（評価の40%程度）を目安として、総合的に成績評価する。平常点は、授業中の演習問題（授業時提出）から成る。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、第39条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>①日本や海外主要国の貿易の特徴と変遷に関する理論的・現実的な理解を深めている。</p> <p>②貿易が各国経済に及ぼす厚生効果、および通商政策と国際貿易体制について説明することができる。</p> <p>③企業の国際戦略の多様な事例に関する知識を深めている。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>国際貿易の理解には、「ミクロ経済学の基礎」、「国際経営」などの科目が役に立つ。もっとも、これらの科目を履修していなくても差し支えない。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>・大川昌幸（2015）『コア・テキスト 国際経済学 第2版』、新生社、2,650円＋税（ISBN978-4-88384-232-2）。</p> <p>・浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸(2022) 『はじめて学ぶ国際経済 新版』、有斐閣アルマ、著者</p> <p>ただし、授業スライドを配布するので、テキストの購入は不要。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>・若杉隆平（2009）、『国際経済学 第3版』、岩波書店、2600円＋税（ISBN978-4-00-026699-4）。</p> <p>・P.クルーグマンとM.オブズフェルド（1997）、『国際経済 I 国際貿易』、新生社、3,800円＋税（ISBN4-915787-58-3）。</p> <p>・R. Feenstra and A. Taylor (2012), "International Economics, Second Edition," Worth Publishers.</p> <p>以上はいずれも購入の必要なし。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	広告と市場						
教員名	河塚 悠						
講義コード	122312500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>現代社会に生きる私たちは、毎日膨大な量の「広告」に接しています。テレビや新聞、雑誌、駅構内や電車、スマホ画面など、至る所で広告を見かけます。そもそも「広告」とはどのようなものなのでしょうか。なぜ、企業は「広告」をつくっているのでしょうか。また、「広告」はどのようにして作られ、どのようなプロセスを経て、私たちの前に姿を表しているのでしょうか。本講義では、広告活動に関する基本的な知識や理論を解説します。</p> <p>また、近年急増している「広告のような」手法（セールス・プロモーション、PR、パブリシティ、クチコミなど）についても取り上げます。TwitterやFacebook、instagramといったソーシャルメディアの進展により、今までの「広告概念」ではとらえきれない現象が起きており、このような「広告のような」手法についても学修することで、より「広告」への理解を深めることができます。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下を到達目標とします。</p> <p>(1) 広告に関する基本的な知識や理論が身についている。</p> <p>(2) マーケティング・コミュニケーションに関する基本的な知識や理論が身にしている。</p> <p>(3) 近年のマーケティング・コミュニケーション活動、広告活動のあり方を理解している。</p> <p>(4) 企業のコミュニケーション戦略について、自分なりに考察できる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の 目安（分）	
第1回	▼イントロダクション ・講義の進め方について説明する。 ・成績評価について説明する。			▼予習 シラバスで講義のテーマと内容を把握しておく。		60	
第2回	▼広告とは何だろう ・広告の定義について解説する。 ・広告の類型について学修する。 ・広告の社会的機能について学修する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第3回	▼マーケティングにおける広告の位置づけ ・マーケティングにおける広告の位置づけについて解説する。 ・ブランド戦略における広告の役割を説明する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第4回	▼広告と市場 ・マーケティングにおける「市場」のとらえ方を説明する。 ・市場における広告の役割を説明する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第5回	▼広告活動のマネジメント① ・広告マネジメント・プロセスについて解説する。 ・広告計画をどのように策定するのかを解説する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第6回	▼広告活動のマネジメント② ・日本の広告市場の特徴について説明する。 ・さまざまな広告予算の算出方法を紹介する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第7回	▼広告活動のマネジメント③ ・広告表現の企画・制作プロセスについて説明する。 ・広告表現の制作にかかわるスタッフを紹介する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第8回	▼広告活動のマネジメント④ ・広告メディアにはどのようなものがあるか紹介する。 ・トリプルメディアについて解説する。 ・クロスメディアの考え方を説明する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第9回	▼広告活動のマネジメント⑤ ・広告効果を測定する意義を説明する。 ・広告効果モデルを解説し、測定例を紹介する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第10回	▼さまざまなマーケティング・コミュニケーション① ・マーケティング・コミュニケーションの定義と諸活動について学修する。 ・統合型マーケティング・コミュニケーション（IMC）の考え方について解説する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	

第11回	▼さまざまなマーケティング・コミュニケーション② ・セールス・プロモーションについて解説する。	▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。	60
第12回	▼さまざまなマーケティング・コミュニケーション③ ・ゲストスピーカー講演 ・実際のコミュニケーション活動について知る。	▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。	60
第13回	▼さまざまなマーケティング・コミュニケーション④ ・ゲストスピーカー講演 ・実際のコミュニケーション活動について知る。	▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。	60
第14回	▼まとめ ・第13回までの振り返り ・総括	▼予習 ・全体を振り返り、理解が不十分である部分を把握する。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。	60
<p>[授業の方法]</p> <p>講義形式で進めていきます。講義ではパワーポイントで作成した講義資料を用います。履修者には同様の講義資料を配布しますが、空欄をもうけていますので、自分で埋めながら講義を聞いてください。授業内では履修者に発言を求めることがあります。講義毎にミニレポートを実施します。</p>			
<p>[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]</p>			
<p>[課題等へのフィードバック方法]</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業内で実施するミニレポート（30%）、期末テスト（70%）等から総合的に評価します。</p>			
<p>[成績評価の基準]</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38、39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38 & 39.</p> <p>(1) 広告に関する基本的な知識や理論が身についている。 (2) マーケティング・コミュニケーションに関する基本的な知識や理論が身についている。 (3) 近年のマーケティング・コミュニケーション活動、広告活動のあり方を理解している。 (4) 企業のコミュニケーション戦略について、自分なりに考察できる。</p>			
<p>[必要な予備知識／先修科目／関連科目]</p> <p>この科目は経営学部の2年生以上の配当科目である。経営学部の履修者は『マーケティング』を修得済みであることが望ましい。他学部の履修者は『企業と社会』を修得済みまたは履修中であることが望ましい。 関連科目：「マーケティング」「ブランド戦略」「消費者行動」「マーケティング・リサーチ」など経営関連科目全般。</p>			
<p>[テキスト]</p> <p>特に指定しません。重要な文献については適宜授業内で紹介します。</p>			
<p>[参考書]</p> <p>・『わかりやすい広告論（第2版）』、石崎徹（編著）、八千代出版、2012年（4,970円）。 ・『わかりやすいマーケティング・コミュニケーションと広告（第3版）』、石崎徹（編著）、八千代出版、2019年（2,970円）。 ・『現代広告論（第3版）』、岸志津江・田中洋・嶋村和恵（著）、有斐閣アルマ、2020年（2,640円）。 ・『新版 この1冊ですべてがわかる広告の基本』、波田浩之、2019年（1,650円）。 ・『広告心理』、仁科貞文・田中洋・丸岡吉人（著）、電通、2007年（548円）。</p>			
<p>[質問・相談方法等（オフィス・アワー）]</p> <p>ポータルサイトで周知します。</p>			
<p>[特記事項]</p>			

講義名	応用発展特殊講義A（流通と商業）						
教員名	河塚 悠						
講義コード	122313000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この講義では、流通に関する基本的な概念や理論的枠組みを学修し、流通のあり方を修得します。</p> <p>生産された商品が消費されるまでの間には、所有、空間、時間、情報などの点で隔たりがあります。その生産と消費の隔たりの橋渡しをするのが流通です。流通は私たちが日常生活を送るうえで重要な役割を果たしています。私たちは、新型コロナウイルスの流行や大雨・大雪・地震などの自然災害の発生など様々な非常事態に見舞われています。このような状況下にあっても日常生活が滞りなく送れているのには、流通が大きく貢献しています。</p> <p>そんな流通を取り巻く環境は、インターネットショッピングの普及に伴い、大きく変化しています。この頃よく話題にのぼっている「物流 2024 年問題」「2025 年の崖」は流通に関連する重大な問題であり、流通に関わるさまざまな業界でこの問題への対応が急務となっています。</p> <p>このようなことを背景に、この講義では流通の仕組みや基本的な概念や理論的枠組みについて解説し、近年の流通を取り巻く環境の変化や流通業の様々な取り組み、直面している課題について考えていきます。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下を到達目標とします。</p> <p>(1) 流通論の基礎的な概念や理論的枠組みが十分理解できる。</p> <p>(2) 修得した基礎知識をもとに、身近な流通に関する課題を分析・解釈できる。</p> <p>(3) これからの流通のあり方について、学生それぞれが見解を持つことができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ▼イントロダクション ・講義の進め方について説明する。 ・成績評価について説明する。 			<ul style="list-style-type: none"> ▼予習 シラバスで講義のテーマと内容を把握しておく。 		60	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ▼流通とは ・流通の役割について説明する。 ・流通の担い手について説明する。 			<ul style="list-style-type: none"> ▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。 		60	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ▼流通によって”流れるもの”とは① ・流通フローについて説明する。 ・商流について説明する。 			<ul style="list-style-type: none"> ▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。 		60	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ▼流通によって”流れるもの”とは② ・物流について説明する。 ・物流業者について説明する。 			<ul style="list-style-type: none"> ▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。 		60	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ▼流通によって”流れるもの”とは③ ・情報流について説明する。 ・補助流通について説明する。 			<ul style="list-style-type: none"> ▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。 		60	
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ▼流通の担い手：卸売業者とは① ・卸売業の機能と卸売業者の役割について説明する。 ・卸売業者の諸活動について説明する。 			<ul style="list-style-type: none"> ▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。 		60	
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ▼流通の担い手：卸売業者とは② ・卸売業者と呼ばれるさまざまな流通業者を紹介する。 			<ul style="list-style-type: none"> ▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。 		60	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ▼流通の担い手：小売業者とは① ・小売業の機能と小売業者の役割について説明する。 ・小売業者の諸活動について説明する。 			<ul style="list-style-type: none"> ▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。 		60	
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ▼流通の担い手：小売業者とは② ・小売業者と呼ばれるさまざまな流通業者を紹介する。 			<ul style="list-style-type: none"> ▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 		60	

		・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。	
第10回	▼流通の担い手：小売業者とは③ ・商業集積について説明する。 ・小売間競争について説明する。	▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。	60
第11回	▼流通業の構造と変化① ・卸売業の現況を説明する。 ・卸売業の構造の変化を説明する理論について説明する。	▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。	60
第12回	▼流通業の構造と変化② ・小売業の現況を説明する。 ・小売業の構造の変化を説明する理論について説明する。	▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。	60
第13回	▼日本の流通の革新と課題 ・日本の流通にみられる特徴を説明する。 ・流通業（卸売業・小売業）の革新と課題について説明する。 ・物流業の革新と課題について説明する。	▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。	60
第14回	▼まとめ ・第13回までの振り返り ・総括	▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。	120
[授業の方法] 講義形式で進めていきます。講義では教科書とパワーポイントで作成した講義資料を用います。履修者には同様の講義資料を配布しますが、空欄をもうけていますので、自分で埋めながら講義を聞いてください。授業内では履修者に発言を求めることがあります。講義毎にミニレポートを実施します。			
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]			
[課題等へのフィードバック方法]			
[成績評価の方法] 授業内で実施するミニレポート（40%）、期末テスト（60%）、受講態度などから総合的に評価します。			
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準（学則第38、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38 & 39. 達成目標の (1) 流通論の基礎的な概念や理論の枠組みが十分理解できる。 (2) 修得した基礎知識をもとに、身近な流通に関する課題を分析・解釈できる。 に特に着目して成績評価をする。			
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] この科目は経営学部の2年生以上の配当科目である。経営学部の履修者は『マーケティング』を修得済みであることが望ましい。他学部の履修者は『企業と社会』を修得済みまたは履修中であることが望ましい。 関連科目：「マーケティング」「ブランド戦略」「消費者行動」「マーケティング・リサーチ」「広告と市場」など経営関連科目全般。			
[テキスト] ・『基礎からの商業と流通 [第4版]』、石川和男、中央経済社。（3,300円）			
[参考書] ・『体系 流通論（新版第2版）』、田口冬樹、白桃書房。（3,740円） ・『1からの流通論（第2版）』、石原武政・竹村正明、中央経済社。（2,640円） ・『流通論をつかむ』、渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二、有斐閣。（2,970円） ※購入の必要はありません。			
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）] ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。			
[特記事項]			

講義名	人事政策						
教員名	義村 敦子						
講義コード	122321100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 現代の組織において、ヒト（人的資源）は最も大切な経営資源です。また、多くの受講生が卒業後に企業の組織メンバーとして仕事をするという意味でも、人的資源の活用は身近な問題と言えます。この授業では、人のマネジメントに関する主な理論を、歴史的な変遷を踏まえながら学びます。そして、人のマネジメントに関する諸理論は時代とともに変化していることや、その変化は仕事内容や働く人自身の仕事観の変化と密接に関連していることもディスカッションなどを通じて学んでいきます。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 この授業の到達目標は、D P1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下の2点とします。 ①人のマネジメントに関する諸理論をその成立背景を踏まえて理解する。 ②労働市場の現状と今後の変化について人のマネジメントの観点から考えるための基礎が身につく。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	・ガイダンス：授業内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・労務管理から人的資源管理へ			【復習】授業内容を配布資料をもとにして確認する。		60	
第2回	テイラーの科学的管理法 労働市場の現状①			【復習】当該理論の特徴を理解する。労働市場に関するキータームの意味を説明できるようにする。		60	
第3回	ウェーバーの組織論 労働市場の現状②			【復習】当該理論の特徴を理解する。労働力の構造を確認する。		60	
第4回	ファヨールの古典的経営管理論			【復習】当該理論の特徴を理解する。2～4回を整理して各理論の特徴と共通点を説明できるようにする。キーワードを用いて実際の労働市場の現状を調べる。		120	
第5回	メイヨーの人間関係論			【復習】当該理論の特徴を理解する。		60	
第6回	レスリスパーガーの人間論的組織論			【復習】当該理論の特徴を理解する		60	
第7回	バーナードの組織論			【復習】当該理論の特徴を理解する。		60	
第8回	マズローの欲求段階説			【復習】当該理論の特徴を理解する。		60	
第9回	マクレガーのX理論Y理論			【復習】当該理論の特徴を理解する。		60	
第10回	ハーズバーグの動機づけ・衛生理論			【復習】当該理論の特徴を理解する。		60	
第11回	マーチ＝サイモンの組織行動論			【復習】当該理論の特徴を理解する。		60	
第12回	人事政策の現状と今後Ⅰ			【予習】前回の授業において指示した労働市場の現状について事前に調べておく。		120	
第13回	人事政策の現状と今後Ⅱ			【予習】前回の授業において指示した労働市場の現状について事前に調べておく。		60	
第14回	人事政策の現状と今後Ⅲ			【予習】前回の授業において指示した労働市場の現状について事前に調べておく。		60	
<p>〔授業の方法〕 基本的に講義形式をとります。具体的にはパワーポイントによる教材提示をしながら授業を進めます。授業内容に基づいて複数回のレポート提出を求めます。評価の基準は講義中にその都度明らかにします。</p>							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕 特にありません。</p>							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 レポート提出後の授業で全体の講評および個別のフィードバックを行う予定です。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕 平常点（授業への積極的参加）20％と提出されたレポート（複数回の合計点）80％によって総合的に評価します。</p>							

<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条および第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38 and No. 39.</p> <p>次の 2 点に着目し、その達成度により評価します。</p> <p>①人のマネジメントに関する諸理論とその成立背景を理解し、説明できる。</p> <p>②労働市場の現状を人のマネジメントの観点から把握し、説明できる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>この科目は経営学部の 2 年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望まれます。幅広い理解のために『労働市場のしくみと制度』、『人的資源管理』、『労働経済学』、『労働法』の受講を推奨します。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特に指定しません。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>必要に応じて指定します。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。また、コースパワー内に示した授業担当者メールアドレスでも質問を受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	意思決定科学						
教員名	野際 大介						
講義コード	122321200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>「意思決定の正解はあるのか？」</p> <p>我々は多様な場面で選択に迫られています。例えば、進学先の大学を決めたり、就職先を決めたり、日々選択の連続です。もちろん、人だけでなく、企業などの組織も常に選択をしています。ここでは、何らかの目標達成のために複数の選択肢から最もふさわしいと思う選択肢を選んでいきます。この行動を意思決定と言います。このように意思決定には、さまざまな背景のもとで意思決定をしており、人や組織が持っている感情、経験、情報などに左右されることは容易に想像つくでしょう。結果として合理的な意思決定をする場合もありますし、非合理的な意思決定をする場合ももちろんあります。</p> <p>本講義では、この「意思決定」に着目し、どのような意思決定の方法があり、人や組織がどのように意思決定行動をするのかについて、科学的な観点から理解を進めることとします。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>本講義では、以下の(1)～(3)を習得することを到達目標とします。</p> <p>(1) 科学的な意思決定の意義と内容についての理解 (2) 意思決定の客観的な評価に関する枠組みの理解 (3) 科学的な意思決定の考え方を企業経営に応用する技術</p> <p>以上、DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現することを目的としています。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・講義の進め方とスケジュール確認 ・本講義の位置づけ			予習 ・シラバスで学ぶ内容について確認する ・自身の重大な意思決定に関する結果とそれにいたる背景をまとめる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第2回	消費者行動の意思決定 ・消費者の意思決定プロセスとは ・補償型と非補償型の意思決定 ・消費者行動のモデルとは			予習 ・消費者行動の意思決定にどのようなものがあるか確認する 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第3回	オペレーションズ・リサーチと意思決定(1) ・モデルによる分析とオペレーションズ・リサーチ ・数理計画の基礎 ・在庫管理モデルと最適発注			予習 ・意思決定とオペレーションズ・リサーチの関係について確認する 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第4回	オペレーションズ・リサーチと意思決定(2) ・線形計画の定式化 ・Microsoft Excelのソルバーを用いた数理計画の解法・アルゴリズムのシフト自動作成			予習 ・Microsoft Excelのソルバーアドインを利用可能にする ・ソルバーとは何か調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第5回	最適停止問題 ・最適停止問題とは ・結婚問題／秘書問題 ・何人目の人と結婚すればよいか？			予習 ・最適停止問題における結婚問題とは何か調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第6回	階層化意思決定法（AHP） ・階層化意思決定法とは ・複数の目的から意思決定する方法とは ・最もよいリーダーを選ぼう！			予習 ・階層化意思決定法とは何か調べる ・一対比較とは何か調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第7回	不確実性のもとの意思決定 ・不確実性のもとの意思決定とは ・意思決定の基準 ・完全情報と不完全情報			予習 ・意思決定論における意思決定の基準とは何か調べる ・情報の価値とは何か調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第8回	決定木 ・リスクのもとの意思決定を可視化する決定木とは ・条件付き確率とベイズの定理			予習 ・条件付き確率について復習する ・決定木とは何か調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第9回	戦略的意思決定(1) ・ゲーム理論を応用した意思決定とは ・パレート最適とは			予習 ・ゲーム理論について確認する 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第10回	戦略的意思決定(2)と問題演習 ・純粋戦略と混合戦略とは ・ナッシュ均衡 ・不確実性下の意思決定に関する復習			予習 ・純粋戦略と混合戦略の違いについて調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第11回	集団的意思決定 ・社会選択理論とは ・意見集約の方法について ・戦略的操作とは			予習 ・集団的意思決定とは何か調べる ・選挙について調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第12回	社会的選択理論と意思決定 ・多数決は正しいのか？－ボルダールールー ・代替案の絞り込み			予習 ・社会的選択理論とは何か調べる 復習		60	

		・講義内容のレビュー	
第13回	行動経済学と意思決定 ・行動経済学と意思決定の関係 ・ヒューリスティクスとは ・プロスペクト理論	予習 ・行動経済学とは何か調べる ・ヒューリスティクスとは何か調べる ・自身の日々の意思決定行動を整理する 復習 ・講義内容のレビュー	60
第14回	まとめ/理解度確認チェック ・総括 ・理解度確認	予習 ・第1回～第13回の講義内容をレビューする 復習 ・俯瞰的に見た意思決定の理論についてまとめる	120
<p>〔授業の方法〕 講義形式で進める。講義内で問題演習を実施する。 ノートパソコンで Microsoft Excel など利用するときには予め案内する。</p>			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕 Microsoft Exce のソルバーアドイン1（ソルバーアドインのインストール方法については、講義内で説明する）</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 演習実施の次の講義冒頭にて、解答例や解説を実施する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 課題演習（50%）＋理解度確認チェック（50%）にて総合評価をする。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、第39条）に準拠する。 以下の観点から、到達度や理解度の評価する。 (1) 科学的な意思決定の意義と内容についての理解が進んでいるか (2) 意思決定の客観的な評価に関する枠組みの理解がされているか (3) 科学的な意思決定の考え方を企業経営に応用する技術が習得できているか</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 経営数学A、ゲーム理論</p>			
<p>〔テキスト〕 特になし</p>			
<p>〔参考書〕 『経営のための意思決定論入門』佐々木康朗(2023)オーム社 2,970円 『文科系のための意思決定分析入門』上田泰(2002)日科技連出版社 2,640円 『多数決を疑うー社会的選択理論とは何か』坂井 豊貴(2015)岩波書店 902円 『ビジネス教養 行動経済学』阿部 誠(2021)新星出版社 1,320円</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトでオフィスアワーを周知する。また、講義終了後、教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕 (6)ICT活用</p>			

講義名	カウンセリングの基礎						
教員名	林 潤一郎						
講義コード	122321400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>カウンセリングの定義は様々な観点からなされているが、あえて単純化した定義をするならば「悩みや成長欲求を持つ個人を支援・援助する専門的かかわり」である。</p> <p>カウンセリングにおいては、各個人が有する固有の悩みや人間性をいかに理解していくのか、そして、そうした理解に基づき、いかなる援助的なかかわりを提供していくのかという点についての多様なアプローチが提唱されている。そして、こうしたアプローチは、自他の心の動きについての理解を深め、円滑な対人関係の構築を助けるものであるため、日常生活（学生生活や就職後の社会生活）にも役立つものを多く含んでいる。</p> <p>そこで本講義では、カウンセリングに関する様々な研究知見と講師のカウンセラーとしての実務経験を踏まえ、次の3つを軸として、カウンセリングについて学ぶこととする。第一に、カウンセリングの全体像を把握し、発展の歴史や多様性について学ぶ。第二に、カウンセリングの代表的なアプローチ法を知り、それぞれの理論と実際を学ぶ。第三に、カウンセリングスキルの中から日常生活で活かすことができるとされるコミュニケーションスキルを学ぶ。こうした一連の学びを通して、カウンセリングについての正しい理解を得るとともに、各受講生が自他の心の動きや対人関係についての理解を深め、日常生活で役立てることのできる知識やスキルを身につけるきっかけにしてもらいたいと考えている。</p> <p>なお、授業の進捗および学生の希望や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下を達成目標とする。</p> <p>(1) カウンセリングについて正しい理解を得ること</p> <p>(2) カウンセリング（人を理解する視点や人を支援する方法）の多様なアプローチを知ること</p> <p>(3) 自他を理解する目を養うとともに、自分の日常生活（学生生活や将来の社会生活）で活かすことのできるようなスキルを身につけること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）		
第1回	イントロダクション ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を理解する。 カウンセリングの全体像を把握する（1） ・カウンセリングとは何かを学ぶ。	【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【復習】60		
第2回	カウンセリングの全体像を把握する（2） ・カウンセリングの発展の経緯と多様性を知る。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【予習】10 【復習】50		
第3回	カウンセリングの全体像を把握する（3） ・カウンセリングの効果とそれを規定する要因を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【予習】10 【復習】50		
第4回	カウンセリングの全体像を把握する（4） ・カウンセリングの効果とそれを規定する要因を学ぶ（続き）。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【予習】10 【復習】50		
第5回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（1） ・精神分析的療法・力動的療法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【予習】10 【復習】50		
第6回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（2） ・精神分析的療法・力動的療法を学ぶ（続き）。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【予習】10 【復習】50		
第7回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（3） ・来談者中心療法・パーソンセンタード療法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【予習】10 【復習】50		
第8回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（4） ・認知療法／行動療法／認知行動療法を学ぶ	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【予習】10 【復習】50		
第9回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（5） ・認知療法／行動療法／認知行動療法を学ぶ（続き）。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【予習】10 【復習】50		
第10回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（6） ・家族療法／コミュニティアプローチ／システム療法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【予習】10 【復習】50		
第11回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（7） ・家族療法／コミュニティアプローチ／システム療法を学ぶ（続き）。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【予習】10 【復習】50		
第12回	日常生活で使えるカウンセリングスキル／コミュニケーションスキルを学ぶ（1） ・話を聴く技術（マイクロカウンセリングと基本的かかわり技法）を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【予習】10 【復習】50		
第13回	日常生活で使えるカウンセリングスキル／コミュニケーションスキルを学ぶ（2） ・話を聴く技術（マイクロカウンセリングと基本的かかわり技法）を学ぶ（続き）。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。			【予習】10 【復習】50		

第14回	日常生活で使えるカウンセリングスキル／コミュニケーションスキルを学ぶ(3) ・相手に意見や意向を伝える技術(アサーションスキル)を学ぶ。	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
<p>〔授業の方法〕</p> <p>この授業は、オンラインで実施する。初回および第12回～第14回は「ライブ型(リアルタイムオンライン) 授業+録画提供」形式で実施する。一方、第2～第11回は講義中心となるため「オンデマンド型」形式での実施を予定している。</p> <p>授業において毎回(初回は除く)、前回分の確認ミニテストを実施する。また各回レスポンスシートの提出を求める。学期末に期末レポートの提出を求める。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。なお、レスポンスシート、期末レポートの狙いは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる。なお、レスポンスシートは必ず当日の授業内容を踏まえたものを提出すること。 ・期末レポート：授業での学修内容および授業を通して得られた自分自身の見解(意見)を整理し、表明する。 			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕</p> <p>特になし。</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>各回提出のレスポンスシートに対するフィードバックを次回の授業の頭に行う予定である。確認ミニテストは回答後、即時に正誤がフィードバックされるため、復習に活用すること。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>授業への参加状況・確認ミニテスト・レスポンスシートの提出状況などの平常点(60%：内訳は出席およびレスポンスシート約30%、確認ミニテスト約30%)、期末テスト(40%)、により総合的に評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その到達度により評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) カウンセリングについて正しい理解を得ること (2) カウンセリング(人を理解する視点や人を支援する方法)の多様なアプローチを知ること (3) 自他を理解する目を養うとともに、自分の日常生活(学生生活や将来の社会生活)で活かすことのできるようなスキルを身につけること。 			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>必要な予備知識・先修科目：この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であることから、経営学部副専攻認定のための他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。また、心理学副専攻認定のための他学部の履修者は心理学副専攻の基礎科目に位置づく『心理学の基礎』『自己理解の心理学』『脳科学と心』のいずれかを修得済または履修中であることが望ましい。</p> <p>関連科目：こころの健康と臨床/ストレス・マネジメント</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし。なお、各回のレジュメは事前に Course Power にアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

講義名	人間情報処理						
教員名	山崎 由香里						
講義コード	122321900	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p><テーマ>人間の情報処理（＝意思決定）を理解し、望ましい判断を導く方法を考える。</p> <p>日常生活や企業活動において、人々は常に何らかの情報を処理し、判断を下している。我々は、よい判断を導き出したいと思うものである。しかし、常理的な情報処理が行えるとは限らないため、時には偏った、あるいは誤った判断をしてしまうことがある。また、同じ情報が手元にあったとしても、人や状況によって判断が異なったりもする。なぜ誤ってしまうのか、なぜ異なる判断が下されるのか。この間の答えを出すべく、本授業では人間の情報処理についての諸理論を理解する。そして、2017年のノーベル経済学賞を受賞した R. Thaler らによるキーワード「ナッジ (Nudge)」をヒントに、より望ましい判断を下すための糸口を探っていく。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）と DP3（課題の発見と解決）を実現するために、次の3点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の情報処理・意思決定に関する理論を修得する。 2. 社会におけるさまざまな現象を、修得した理論を用いて説明する。 3. より望ましい情報処理をするためにはどのようなことができるか、自分なりに考えて意見を表明する。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>ガイダンス： 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。成績評価方法を確認する。 簡単なクイズや事例を通じて、人間の情報処理傾向に触れる。</p>			<p>【予習】シラバスをよく読み、内容を把握する。 【復習】授業内のクイズを自分の周りの人に紹介し、説明できるようにする。</p>		60	
第2回	<p>情報処理とは： 人間とコンピュータの情報処理を比較しながら、人間の情報処理の特徴を理解する。 人間の情報処理＝意思決定を理解するための3つのアプローチを学ぶ。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第3回	<p>規範的意思決定～理想の追求： 合理性、最大化原理、期待値、期待効用理論、期待効用理論の4つの公理などについて学ぶ。 ※課題の確認。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。 提出課題を行う。</p>		90	
第4回	<p>記述的意思決定1： 人間の情報処理・思考における「2つのシステム」について学び、システムに関連する情報処理例を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第5回	<p>記述的意思決定2： 人間に備わる心理性向、集団意思決定の特徴、および向社会性/社会的影響を理解し、人間の情報処理に及ぼす影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		90	
第6回	<p>記述的意思決定3： ヒューリスティック#1 ヒューリスティックスについて学び、代表性ヒューリスティックの影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第7回	<p>記述的意思決定4： ヒューリスティック#2 利用可能性ヒューリスティックの影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第8回	<p>記述的意思決定5： ヒューリスティック#3 アンカリングヒューリスティックと、その他の情報処理への影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第9回	<p>記述的意思決定6： プロスペクト理論#1 プロスペクト理論を学び、情報処理への影響を考える。 ※課題の確認。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第10回	<p>記述的意思決定7： プロスペクト理論#2 プロスペクト理論を学び、情報処理への影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第11回	<p>処方的意思決定1～改善に向けて： 処方的アプローチを採用する諸理論を学び、情報処理について考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第12回	<p>処方的意思決定2： ナッジ (NUDGE) について学び、情報処理への影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第13回	<p>処方的意思決定3： 選択アーキテクチャ (Choice Architecture) について学び、ダークパターンなど、情報処理への影響を考える。 ダークパターンの事例から、ナッジの倫理性を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		90	
第14回	総括			<p>【復習】これまで学んだ内容を踏まえて、自分なりの処方を考察する。</p>		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義形式で進める。授業の進行具合に応じて、数回の課題提出も予定している。質問などは、教室やメールなどで随時受け付ける。授業終了後、配布資料を見直して理解できなかったことや疑問点を確認し、次回の授業やメールなどで質問をするように心がけること。</p> <p>また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安なので、各自の理解度に応じて取り組むこと。なお、取り上げる内容は、学生の理解度に応じて変更する可能性がある。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 課題を出した次の回に、授業内で解説ならびに講評等のフィードバックを行う。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 授業取り組みに対する態度意欲（20%）、 授業関連課題（30%）、 学期末試験（50%） を基準に、総合的に評価する。 ※Course Power 等を用いたレポート、小テスト、クリッカー、クイズ、コメントシートの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて授業課題を出す。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①授業で取り上げた理論を理解し、説明できる。 ②さまざまな理論を踏まえ、諸要因が情報処理に及ぼす影響について考えることができる。 ③よりよい情報処理を行うために、どのような取り組みが必要かなど、自分の意見を持ち、表明することができる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 この科目は経営学部の 2 年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。</p>
<p>〔テキスト〕 山崎由香里『行動科学／行動経済学キーワード事典』, Next Publishing Authors Press (Kindle 版 ASIN : B09KT6HCT2 ¥1,000) (ペーパーバック ISBN-10 : 4802081448 ¥1,650) 授業時の配布資料</p>
<p>〔参考書〕 『組織における意思決定の心理』、山崎由香里、同文館出版、¥3,360、ISBN-13: 9784495379919 その他、必要に応じて適宜指示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	コーチングの基礎						
教員名	田原 麗衣						
講義コード	122322000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 近年、スポーツ以外の分野で人材育成や円滑な対人関係構築を目的として、スポーツにおけるコーチングの手法やスポーツ・身体活動が取り入れられている。また、我が国でもオリンピック・パラリンピックや各種ワールドカップをはじめ、大きなスポーツイベントを招致している。本講義では、スポーツの側面から個や集団を良い方向に導くための基本概念や手法、国内外のスポーツを取り巻く環境を様々な事例をもとに概説する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 ①スポーツにおける優れた指導者・コーチが実践している「コーチング」の本質や、優れた組織・チーム運営の仕組みを理解する。 ②個人や集団を目標達成に導く手法や求められる資質・能力などについて理解する。 ③学んだ内容を自らの状況等に当てはめて、適切な対処法や改善策を考察する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス： シラバスの内容、授業の進め方、評価基準等について把握する。			【予習】これまでの生活の中で目標達成できた経験と達成できなかった経験を振り返っておく。 【復習】これまで出会った優れたコーチ・指導者を思い浮かべ、優れていた点（資質・能力）を挙げておく。		60	
第2回	コーチング～指導者の役割： 個・チームを導くために必要な資質・能力について把握する。			【予習】スポーツ現場でコーチが果たしている役割を考えてみる。 【復習】実在する個人やチームを例に、コーチにどのような資質が必要か考えてみる。		60	
第3回	競技力向上を目的としたコーチング～トップアスリートの指導： 競技力向上のためのトレーニングについて把握する。			【予習】競技力向上のためにコーチが考慮すべきことは何か考えておく。 【復習】競技力向上のためのコーチングで考慮すべき4つのダイヤモンドについて説明できるようにする。		60	
第4回	医科学を活用したコーチング： 現代の情報・医学・科学にもとづいた合理的なコーチングについて把握する。			【予習】コーチングにどのような情報や知見が活用されているか（必要か）考えてみる。 【復習】コーチを支える様々な分野のスタッフについて説明できるようにする。		60	
第5回	教育現場におけるコーチング～教育にスポーツは必要なのか？： 学校教育や企業等でスポーツが取り入れられている意義を理解する。			【予習】スポーツが持つ教育的意義について考えておく。 【復習】人材育成の観点からスポーツに期待される役割と勝利至上主義について説明できるようにする。		60	
第6回	社会におけるコーチング～余暇としてのスポーツの意義： スポーツ普及の意義について理解する。			【予習】余暇としてのスポーツの楽しみ方についてどのようなものがあるか考えてみる。 【復習】今後の自分の生活の中へのスポーツの取り入れ方について考えてみる。		60	
第7回	チームビルディングと戦略目標： チームビルディングの手法、戦略目標の導出について把握する。			【予習】SWOT分析のやり方についてネット等で調べておく。 【復習】集団を導くために必要な戦略目標の設定の仕方を説明できるようにする。		60	
第8回	組織運営～競技団体、クラブチーム： 国内外のスポーツ組織運営について把握する。			【予習】日本の競技団体やクラブチームを1つ選び、その組織体制について調べておく。 【復習】日本のスポーツに関連する組織をより充実させるためには何が必要か考えてみる。		60	
第9回	人材育成～指導者の育成プログラム： 適切な指導者の育成・ライセンスについて考察する。			【予習】指導者に必要な知識や資質について考えておく。 【復習】日本の指導者育成の現状と課題について説明できるようにする。		60	
第10回	大会招致とスポーツ立国戦略： 大きなスポーツイベントを招致する意義・課題を理解する。			【予習】東京オリパラを招致して良かった点と悪かった点を考えておく。 【復習】スポーツイベント招致が及ぼす影響・効果について、多面的に考えてみる。		60	
第11回	スポーツイベントの運営と経済効果： スポーツイベントの運営・マネジメントについて把握する。			【予習】オリンピックやワールドカップ等のビックイベントを1つ選び、運営費を調べておく。 【復習】今後のスポーツイベントのあり方について考えてみる。		60	
第12回	スポーツと関わる技術開発・商品開発： スポーツと関連した技術開発について把握する。			【予習】スポーツと関連した用具器具の開発について、どのようなものがあるか調べてみる。 【復習】スポーツ技術開発に求められる視点や課題について説明できるようにする。		60	
第13回	パラアスリートのコーチングと支援： パラアスリートを取り巻く環境について把握する。			【予習】パラアスリートの雇用について調べておく。 【復習】パラスポーツとの関わり方や今後のパラアスリートの支援のあり方について考えてみる。		60	
第14回	講義のまとめ： これまでに行った学修内容を確認する。			【予習】これまでの回で学んだ内容を確認しておく。 【復習】理解度確認テストを通して自分の理解度を確認し、理解度が足りない点は復習する。		90	
〔授業の方法〕 各回のテーマに則した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いて講義形式で授業を展開する。 授業内課題レポートを課すので、そのレポートを利用して受講生徒のコミュニケーションを図り、できる限り双方向の授業を展開する。 ただし、授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントシートへのフィードバックは CoursePower を通じて行う。 ・授業の初めに、コメントシートや小テストの講評、解説を行う。
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>課題提出状況 60%、平常点(授業への参加状況) 40%により、総合的に評価する。 最終週に到達度確認テストを実施する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準(学則第 38 条、39 条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度にもとづいて評価する。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>予備知識は特に必要としない。先修科目の設定は特になし。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>日本コーチング学会『コーチング学への招待』(大修館書店) レイナー・マートン『スポーツ・コーチング学 指導理念からフィジカルトレーニングまで』(西村書店) 広瀬一郎『「尊重」と「覚悟」を育む スポーツマンシップ立国論』(小学館) テューダー・ボンパー『競技力向上のトレーニング戦略』(大修館書店) ※購入の必要なし</p>
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕</p> <p>授業後に実施場所にて受け付ける。 また、それ以外の質問・相談方法はポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	ストレス・マネジメント						
教員名	林 潤一郎						
講義コード	122322100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ストレスに対する正しい理解を得るとともに、ストレスへの対処能力を高めていくことは、学生生活、さらには卒後の社会生活において、自分自身を守り、支えながら、自らの持つ力を発揮していくために有益なものとなる。</p> <p>そこで本講義では次の2つを軸として、ストレス・マネジメントについての専門性を高めていく。第一に、ストレスについての基礎的知見を学び、正しい知識を得ること。第二に、ストレス・マネジメント力向上のための一連の体験ワークやエクササイズを通して、自分自身が経験しやすいストレス過程を理解し、自分に適した実践的スキルを身に付けること。</p> <p>なお、本講義は対面形式で実施する。また、心理学の知見だけでなく担当教員のカウンセラーとしての実務経験も活かした実践的な授業となる。そのためストレスに対する知識取得だけでなく、自分自身に適したストレス・マネジメントスキルを獲得し、実生活で実際に活用できるようになることを目指している。そのため、授業時間内だけでなく授業時間外でも体験ワークやエクササイズをホームワークとして課すことがあり、積極的な取り組みを期待している（ホームワークは、レポート作成のような学術的なものではなく、日々の中で、自分の特徴をモニターしたり、行動の仕方や考え方を変えてみて、その影響をモニターするなどの体験的・実習的・実験的なものを主に想定している）。さらに、授業の初回と最終回において、自分自身のストレス反応パターンおよびストレス・マネジメントスキルの評価を行い、ストレス・マネジメントに関する各自の元来の特徴を把握するとともに、受講後の変化について振り返りを行う予定である。</p> <p>また、授業の進捗状況および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下を達成目標とする。</p> <p>(1) ストレスについて正しい理解を得ること。</p> <p>(2) ストレス・マネジメント力向上のための体験ワークやエクササイズを通して、自分自身が経験しやすいストレス過程を理解し、自分に適した実践的スキルを身に付けること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>オリエンテーション：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容、進め方、評価、予習・復習の仕方等を知る <p>ストレスについて正しい理解を得る（1）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレス理解の概要を把握する ・これまでのストレス体験を測定する（事前評価） 			<p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>		<p>【復習】60</p>	
第2回	<p>ストレスについて正しい理解を得る（2）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスの影響について学ぶ ・自分自身に特徴的なストレスの影響を理解する 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第3回	<p>ストレスについて正しい理解を得る（3）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスが（悪）影響を及ぼす過程について学ぶ ・自分自身に特徴的な「ストレスが（悪）影響を及ぼす過程」について理解する 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第4回	<p>ストレスについて正しい理解を得る（4）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレス対処について学ぶ ・自分自身に特徴的なストレス対処について理解する 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第5回	<p>ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（1）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決スキルについて学び、実践する 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第6回	<p>ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（2）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と上手にやりとりするスキル（コミュニケーション・アサーションスキル）について学び、実践する 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第7回	<p>ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（3）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動変容スキルについて学び、実践する 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第8回	<p>ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（4）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間管理スキルについて学び、実践する 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第9回	<p>ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（5）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考（認知）の癖と上手に付き合うスキルについて学び、実践する 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第10回	<p>ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（6）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体感覚を介したリラクゼーション・マインドフルネススキルについて学び、実践する 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第11回	<p>ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（7）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康的なライフスタイルを保つスキルについて学び、実践する 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第12回	<p>ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（8）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の心の痛みやしんどさに気づき、受け入れ、温かくケアしていくためのコンパッションスキルについて学び、実践する 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	

第13回	<p>ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク(9):</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰かの成長(変化)を支えて、応援していくためのコミュニケーションスキルについて学び、実践する 	<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>	<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>
第14回	<p>授業のまとめと事後評価:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレス場面での対処(マネジメントスキル)をシミュレーションする ・各回を振り返り、自身のストレス反応パターンおよびストレスマネジメントスキルの変化を整理する ・授業を受けたあとのストレス体験を測定する(事後評価) 	<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。</p>	<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>
<p>〔授業の方法〕</p> <p>対面形式で実施し、授業は講義と体験ワーク(エクササイズやセルフチェックや体験型ホームワーク等)を併用して行う。また、各授業を受けた結果や感想をレスポンスシートにまとめ、毎回提出する。学期末に期末レポートを課す。普段からプリントを使った復習(およびホームワークがあればそれ)に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p> <p>なお、レスポンスシート、期末レポートの狙いは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レスポンスシート:各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる(なお、必要に応じて、適時レスポンスシートの内容に対するフィードバックを行う予定である)。 ・期末レポート:授業全体の学修成果をまとめる。 			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕</p> <p>特になし。</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>各回提出のレスポンスシートに対するフィードバックを次回の授業の頭に行う予定である。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>授業への参加状況や各回のレスポンスシート・セルフチェック・ホームワークの提出状況などの平常点(60%:内訳はおおよそ、出席およびレスポンスシート30%、セルフチェック15%、HW15%)、期末レポート(40%:内訳は内容30%、事前事後の測定10%)、により総合的に評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その到達度により評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ストレスについて正しい理解を得ること。 (2) ストレス・マネジメント力向上のための体験ワークやエクササイズに取り組み、実践的スキルを身につけること。 			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕</p> <p>必要な予備知識・先修科目:この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であることから、経営学部副専攻認定のための他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。また、心理学副専攻認定のための他学部の履修者は心理学副専攻の基礎科目に位置づく『心理学の基礎』『自己理解の心理学』『脳科学と心』のいずれかを修得済または履修中であることが望ましい。</p> <p>関連科目:こころの健康と臨床/カウンセリングの基礎</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし。なお、各回のレジュメは事前に Course Power にアップロードする予定なので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

講義名	組織の経済学						
教員名	藤原 直輝						
講義コード	122322200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>標準的なミクロ経済学において、企業は労働・資本・原材料などの生産要素を製品やサービスに変換するブラック・ボックスとしてモデル化され、企業組織の内部構造やマネジメントについては明示的に扱われない。組織の経済学は、こうしたブラック・ボックスの中身に注目し、企業組織の内部構造や意思決定の仕組みを経済学的手法によって理解しようとする分野である。組織の経済学では、なぜすべての経済的取引が市場を通じて行われるのではなく、一部が企業内部で行われるのかという「企業の境界」の問題や、企業組織の内部機能・特徴が中心的な分析対象となる。</p> <p>本講義では、ゲーム理論を主要な分析手法として用い、企業組織の内部における課題やその解決策を経済学的に分析する。具体的には、「部下にどのように仕事のモチベーションを与えるか」や「経営者にどのように株主の利益を反映させた意思決定を促すか」といった問題を、精神論に頼るのではなく、各主体が合理的に行動する状況を前提として分析する。その上で、報酬などのインセンティブをどのように設計することで、望ましい行動を引き出すことができるのかを議論する。講義内容は理論的分析を中心とするが、必要に応じて実証研究や実際の企業組織に関する事例も取り上げる。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①組織が直面する課題の戦略的な側面を理解できる。</p> <p>②組織の経済学における基本的なモデルを、ゲーム理論を用いて分析するとともに、その結果の経済学的な意味を理解できる。</p> <p>③組織の経済学の枠組みに基づいて、現実の組織や企業に関する事例を理解・分析できる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション（講義概要・組織の経済学とは何か）、企業の境界1（取引費用、組織の垂直的構造）			（復習）講義内容を復習する。		60分	
第2回	企業の境界2（前回の続き）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第3回	組織におけるジレンマ1（標準形ゲームの復習、チーム生産のジレンマ、組織の設計）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第4回	組織におけるジレンマ2（前回の続き）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第5回	コーディネーション問題（混合戦略ナッシュ均衡、組織におけるコーディネーション問題の解決策）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第6回	信頼形成（展開形ゲームの復習、トラスト・ゲーム）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第7回	組織のプリンシパル＝エージェント問題1（業績連動報酬によるインセンティブ設計）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第8回	組織のプリンシパル＝エージェント問題2（前回の続き）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第9回	組織のプリンシパル＝エージェント問題3（チーム業績契約）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第10回	関係的契約1（繰り返しゲームの復習、長期的な関係による契約）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第11回	関係的契約2（前回の続き）、組織における戦略的情報伝達1（完全ベイジアン均衡の復習、根回しとチープトーク）			（復習）講義内容を復習する。プレゼンテーションの準備を行う。		120分	
第12回	組織における戦略的情報伝達2（前回の続き）			（復習）講義内容を復習する。プレゼンテーションの準備を行う。		120分	
第13回	組織の意思決定プロセス（集権化と分権化）			（復習）講義内容を復習する。プレゼンテーションの準備を行う。		120分	
第14回	グループプレゼンテーション			（予習）プレゼンテーションの準備		120分	
<p>[授業の方法]</p> <p>授業は、スライドと板書を併用して講義形式で行う。講義スライドは配布するが、計算を伴う内容については板書を中心に扱うため、講義に参加し、各自でノートを取る。また、定期的に演習問題（計算問題やディスカッション問題）を課すため、各自で取り組んだ上で、授業中に意見や考え方を問われた際に答えられるよう準備しておくこと。さらに、講義の最終回には、実際の企業や組織が直面する課題を対象とし、講義で学んだ内容を用いて分析を行うグループ・プレゼンテーションを実施する。</p> <p>本講義では、予習は不要だが、各講義は前回以前の内容を前提として進むので、復習をしっかりと行うこと。具体的には、①講義で使ったモデルの分析を講義後に自分で再現してみる、②講義で使われたグラフなどを自分の手で書いてみる、③結果を直感的にどう理解できるかを考えること、の3点を意識して復習すること。復習の過程で不明点が生じた場合は、オフィスアワー等を活用し、疑問点を残さないようにすること。</p>							
<p>[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]</p> <p>特になし。</p>							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>講義内で行う演習では解説を行う。またプレゼンテーションに関しては、講義の中で講評を行う。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>成績は、以下を目安として総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点（演習問題への準備状況および講義への積極的な貢献）：20% ・グループプレゼンテーション（詳細は講義開始後に案内する）：30% ・学期末試験：50%（履修者数に応じて、持ち帰り試験または定期試験を実施する。）
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.</p> <p>上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>本講義では、ミクロ経済学の基礎的知識を既習であることを前提とする。また、「ゲーム理論」を履修済みであることが望ましい。ただし、ゲーム理論を履修していない場合でも、講義内で必要となる内容については最低限の補足を行う。理解を補うために、以下に挙げる参考書を参照すること。ゲーム理論に関して不明点がある場合には、オフィスアワー等を活用すること。</p> <p>また、簡単な確率論（確率の定義、期待値など）や一次関数・二次関数、微分の初歩的な計算を用いることがある。ただし、本講義では高度で難解な計算能力を前提とするものではない。これらの内容に不安がある場合は、復習をしておくこと。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>テキストとしては以下をあげるが、購入の必要はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤秀史，小林創，宮原泰之「組織の経済学」有斐閣
<p>〔参考書〕</p> <p>組織の経済学に関する参考書としては以下を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ「組織の経済学」NTT出版 ・Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer, "Economics of Strategy, Seventh Edition," Wiley. ・新原 浩朗「組織の経済学のフロンティアと日本の企業組織」日本経済新聞出版 <p>ゲーム理論の参考書としては以下を薦める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡田章「ゲーム理論・入門 新版--人間社会の理解のために」有斐閣 <p>プリンシパル=エージェント問題に関しては以下が詳しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Laffont, J.-J., & Martimort, D. "The Theory of Incentives: The Principal-Agent Model" Princeton University Press <p>以上はいずれも参考書であり、購入の必要はない。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。</p> <p>また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p>(4)アクティブ・ラーニング</p>

講義名	コーポレート・ファイナンス						
教員名	時岡 規夫						
講義コード	122331100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ファイナンスは経済主体の金融に関わる意思決定や金融取引を研究対象とする学問分野です。そこでは、しばしば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金の供給主体で証券の需要主体である投資家の金融に関する意思決定をテーマとする証券投資 ・資金の需要主体で証券の供給主体である企業の金融に関する意思決定をテーマとするコーポレート・ファイナンス（企業金融論） ・資金と証券の交換メカニズムである証券市場や銀行 <p>に大別して説明されます。この授業では、経営学部カリキュラムの2年次配当の専門科目のうち、経営専門基礎科目である「ファイナンスの基礎」の内容を受けて、コーポレート・ファイナンスの発展的なトピックスを学んでいきます。できるだけ具体的な事例等をまじえることで、コーポレート・ファイナンスの実践についての理解をさらに深める一助とすることもめざします。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>上記「到達目標」に掲げた DP 項目を実現するため、以下を到達目標の詳細とします：</p> <p>コーポレート・ファイナンス（企業金融論）の発展的なトピックス、具体的には、コーポレート・ガバナンス（企業統治）、M&A（合併・買収）、株式公開、国際財務管理に関する理論と具体的な事例や関連データをまじえて実際について把握し、明確に説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかた等を説明します。 ・ファイナンスの学問分野としての特徴、コーポレート・ファイナンス（企業金融論）の分析の視点を確認します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。</p> <p>【復習】配布資料等を基に、授業の内容を再確認するとともに、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第2回	<p>コーポレート・ガバナンス（その1）</p> <p>※以下、進捗状況等に応じて内部が一部変更される可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ガバナンスの課題について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第3回	<p>コーポレート・ガバナンス（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株主と経営者の利害の対立とその解決策について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第4回	<p>コーポレート・ガバナンス（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株主と債権者の利害の対立とその解決策について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第5回	<p>コーポレート・ガバナンス（その4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取締役会のコーポレート・ガバナンス上の役割、その国際比較について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第6回	<p>M&Aとコーポレート・ファイナンス（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M&Aの基礎知識を学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第7回	<p>M&Aとコーポレート・ファイナンス（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M&Aはなぜ行なわれるのかについて学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第8回	<p>M&Aとコーポレート・ファイナンス（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敵対的買収について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第9回	<p>M&Aとコーポレート・ファイナンス（その4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M&Aは実際に成功しているのかについて学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第10回	<p>株式公開とコーポレート・ファイナンス（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式公開の基礎知識を学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第11回	<p>株式公開とコーポレート・ファイナンス（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式公開の事例分析を学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第12回	<p>株式公開とコーポレート・ファイナンス（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式の非公開化について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第13回	<p>国際財務管理（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際財務管理とは何かについて学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第14回	<p>国際財務管理（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際財務管理の理論と実際を学修します。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>通常の講義形式で進めますが、授業中にクイズなどを出すことがあります。また、レポートの提出を求めることがあるかもしれません。ふだんから復習に力を入れ、次回の授業にわからないところを持ち越さないように心がけてください。上で示された準備学修の時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。なお、クイズ、レポートの主なねらいは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ：学修内容についての基本的な理解度やキーワードの理解を確認する。 ・レポート：課題内容を理解し、学修内容をふまえて自分の理解を明確に説明できているかを確認する。 							

授業自体は、配布資料等を基に、講義内容を詳述します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

上記「授業の計画と準備学習」にもある通り、原則として、前回出題したクイズの解説を授業中に行いません。その他のフィードバックも、CoursePower といった LMS（学習管理システム）も利用しながら適宜行なう予定です。

〔成績評価の方法〕

学期末試験および授業中に出されるクイズなどの取り組み状況等ならびにレポートの提出状況・内容等によって総合的に評価します。評価ウェイトは学期末試験が 80%、クイズやレポートなどの平常点が 20%を目安とする予定です。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

・コーポレート・ファイナンス（企業金融論）の発展的なトピックス、具体的には、コーポレート・ガバナンス（企業統治）、M&A（合併・買収）、株式公開、国際財務管理に関する理論と実際について把握し、明確に説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目としては、「企業経営の基礎」、「ファイナンスの基礎」など。

関連科目としては、「会社のしくみと制度」、「ミクロ経済学の基礎」、「マクロ経済学の基礎」、「資産選択の意思決定」、「証券市場」、「社会理解実践講義（資本市場の役割と証券投資）」など。

この授業科目は経営学部カリキュラムの 2 年次配当の専門科目であり、経営学部以外の他学部の履修生にあつては、全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）の「企業と社会」を修得済みまたは履修中であることが望ましいです。

〔テキスト〕

現時点では使用するかどうかを含め未定です。

はじめの授業日に担当者から説明があります。

〔参考書〕

とりあえず

・新井 富雄・渡辺 茂・太田 智之〔著〕、1999、『資本市場とコーポレート・ファイナンス』、中央経済社（3,500 円＋税、ISBN 4-502-34902-1）

・榊原 茂樹・新井 富雄・太田 浩司・山崎 尚志・山田 和郎・月岡 靖智〔著〕、2023、『新・現代の財務管理』、有斐閣（2,600 円＋税、ISBN 978-4-641-22213-7）

・俊野 雅司・白須 洋子・時岡 規夫〔著〕、2020、『ファイナンス論・入門』、有斐閣（3,600 円＋税、ISBN 978-4-641-16570-0）

・米澤 康博・小西 大・芹田 敏夫〔著〕、2004、『新しい企業金融』、有斐閣（1,900 円＋税、ISBN 4-641-12217-2）

・Breaaley, Richard A., Stewart C. Myers, Franklin Allen, and Alex Edmans, 2025, Principles of Corporate Finance, 2025 release, New York: McGraw-Hill Education (ISBN 9781265087586)（邦訳の最新版は第 10 版；リチャード・ブリーリー＝スチュワート・マイヤーズ＝フランクリン・アレン〔著〕、藤井 眞理子・國枝 繁樹〔監訳〕、2014、『コーポレートファイナンス』、第 10 版、上・下、日経 BP 社）

を挙げますが、その他、個々のトピックスに関する参考書・参考資料等の参考文献は授業中に適宜紹介、配付します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	財務会計						
教員名	調 勇二						
講義コード	122331400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は経営学部総合経営学科の専門応用発展科目のなかのファイナンスと会計科目に位置づけられています。本科目では企業活動を理解するための「言語」あるいは「レンズ」である財務会計について学びます。財務会計は、企業の経営成績（儲かっているのか）や財政状態（財務的に健全なのか）を測定し、報告するための仕組みです。私たちが日々目にするニュースでも、企業の売上高、利益、自己資本比率といった会計数値が頻繁に取り上げられています。本科目では、これらの会計数値がどのように作られ、何を意味しているのかを理解することを目指します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>本科目では、DP1（専門分野の知識・技能）、DP3【課題の発見と解決】の涵養を目指しています。具体的な到達目標は以下の通りです。</p> <p>①基本的な財務会計の用語を理解できる。 ②財務会計の考え方や会計処理について説明できる。 ③習得した知識に基づいて、企業の財務情報を分析できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習について説明する。			【予習】事前に配布された資料に目を通して科目に対する理解を深め、さらに自分なりに調べておく。		60	
第2回	企業会計の本質とフレームワーク ・会計の意義や財務会計の機能、フレームワーク等について学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第3回	会計制度の論理と体系 ・会計基準の設定について学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第4回	企業のディスクロージャー ・財務会計を含む企業のディスクロージャーについて学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第5回	損益計算書のパラダイム ・損益計算書の本質と現在地について学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第6回	経営パフォーマンスの測定と表示 ・損益計算書において経営パフォーマンスがどのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第7回	損益計算書の分析 ・損益計算書の分析方法について学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第8回	流動資産の会計 ・貸借対照表において流動資産がどのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第9回	固定資産の会計 ・貸借対照表において固定資産がどのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第10回	投資その他の資産の会計および減損会計 ・貸借対照表において投資その他の資産および減損処理がどのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第11回	負債の会計 ・貸借対照表において負債がどのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第12回	純資産の会計 ・貸借対照表において純資産がどのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第13回	貸借対照表の分析 ・貸借対照表の分析方法について学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第14回	総復習・質問回 ・これまでの学習内容を復習して、疑問点を質問して解消する。			【予習】これまでの学習内容を総復習して理解度を確認する。理解が不足している点を洗い出しておく。 【復習】不足していた点が充足できたか確認しておく。		120	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的に講義形式で進めます。授業内容を振り返って理解度を深めるため、毎回課される事後課題に取り組むことが求められます。講義資料は原則として CoursePower 等の LMS をを通じて配信します。各自・ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでください。</p>							

<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>各回、冒頭に前回の課題の解説や正答率等に基づくフィードバックを行います。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点（講義への参加状況や課題の提出状況）：50% 期末試験：50%</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価します。 ①基本的な財務会計の用語を理解できる。 ②財務会計の考え方や会計処理について説明できる。 ③習得した知識に基づいて、企業の財務情報を分析できる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>企業経営や企業会計に関する基礎科目を履修済みであることが望ましい。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>必要な場合は別途指示します。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>購入の必要なし 『新・現代会計入門 第 6 版』，伊藤邦雄，日本経済新聞出版，4,000 円＋税，ISBN：978-4-296-12004-8. 『財務・非財務報告のアカデミック・エビデンス』，中野誠，加賀谷哲之，河内山拓磨編著，中央経済社，2025 年，3,600 円＋税，ISBN：978-4-502-51821-8. 『財務会計講義』（最新版），桜井久勝，中央経済社，3,800 円＋税，ISBN：978-4-502-50071-8.</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	国際会計						
教員名	調 勇二						
講義コード	122331500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は経営学部総合経営学科の専門応用発展科目のなかのファイナンスと会計科目に位置づけられています。本科目では、グローバル化が進展する現代のビジネス環境において重要性を増している国際会計について学びます。そもそも国際会計とは何なのか、どのような考え方に基いて国際会計の基準が設定されているのかを、日本の会計と比較して相対的な位置づけを理解します。そのうえで、個々の会計基準について学びます。本科目を通じて、具体的には以下のような観点から国際会計の全体像を把握します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルビジネスにおける会計の役割 ・各国の会計制度の違いが生まれる背景 ・国際会計の基本的な考え方と特徴 ・日本企業の国際会計への対応状況 ・国際的な会計基準統一化の動向と課題 <p>実際の企業の財務諸表や具体的な事例を活用しながら、理論と実務の両面から国際会計について理解を深めていきます。将来、グローバルに活躍するビジネスパーソンとして必要となる、国際会計の基礎知識を修得しましょう。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>本科目では、DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】の涵養を目指しています。具体的な到達目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①基本的な国際会計の用語を理解できる。 ②国際的な会計ルールの考え方や会計処理について説明できる。 ③習得した知識に基づいて、国際会計基準を適用する企業の財務情報を分析できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）				
第1回	イントロダクション（オンデマンド） ・授業の内容、進め方、成績評価方法などを確認する。 ・IFRS とは何かについて理解する	【予習】講義資料に事前に目を通して科目の全体像を把握しておく。日本企業のグローバル展開に伴い、どのような会計上の問題が生じるかについてイメージする。	60				
第2回	概念フレームワーク（1）（オンデマンド） ・IFRS における財務報告とその目的について学ぶ。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
第3回	概念フレームワーク（2）（オンデマンド） ・IFRS における財務諸表の構成要素とその認識・測定について学ぶ。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
第4回	IFRS の考え方とその背景（1）（オンデマンド） ・企業価値評価モデルによる考察を行う。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
第5回	IFRS の考え方とその背景（2）（オンデマンド） ・資産・負債アプローチと包括利益について学ぶ。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
第6回	IFRS による財務諸表（オンデマンド） ・IFRS による各財務諸表について概観する。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
第7回	IFRS による営業活動の会計（1）（オンデマンド） ・IFRS における営業活動の会計の考え方について学ぶ。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
第8回	IFRS による営業活動の会計（2）（オンデマンド） ・IFRS における営業活動の投入要素の会計の考え方について学ぶ。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
第9回	IFRS による固定資産の会計（1）（オンデマンド） ・IFRS における固定資産の会計の考え方について学ぶ。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
第10回	IFRS による固定資産の会計（2）（オンデマンド） ・IFRS における賃貸借する固定資産に関する会計の考え方について学ぶ。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
第11回	IFRS による金融商品の会計（1）（オンデマンド） ・IFRS における金融商品に関する会計の考え方について学ぶ。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
第12回	IFRS による金融商品の会計（2）（オンデマンド） ・IFRS におけるヘッジ会計、金融商品の認識の中止、公正価値測定、外貨建取引の換算について学ぶ。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
第13回	IFRS による組織再編の会計（オンデマンド） ・IFRS における組織再編に関する会計の考え方について学ぶ。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
第14回	総復習・質問回（オンデマンド） ・これまでの講義内容を振り返り、理解を深め、疑問点を解消する。	【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。	60				
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業はオンデマンド形式で進めます。各回、提示される講義資料を基に講義を受講します。受講後、理解度を確認するための課題（理解度確認テスト）が設定されるので受講者は課題に取り組むことが求められます。理解度確認テストの取組状況等により出席の有無を判断します。講義内容に関する疑問点は、CoursePower 等の LMS を用いて受け付けるので、随時質問してください。学生証の不正利用（複製所持、貸し借り）、アカウントの不正使用、オンラインテストにおける不正など、不正行為はくれぐれも行わないでください。</p>							

<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 各回、冒頭に前回の課題の解説や正答率等に基づくフィードバックを行います。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 平常点（講義への参加状況や課題の提出状況）：50% 期末試験：50%</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価します。 ①基本的な国際会計の用語を理解できる。 ②国際的な会計ルールの考え方や会計処理について説明できる。 ③習得した知識に基づいて、国際会計基準を適用する企業の財務情報を分析できる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 企業経営や企業会計に関する基礎科目を履修済みであることが望ましい。</p>
<p>〔テキスト〕 必要な場合は別途指示します。</p>
<p>〔参考書〕 購入の必要なし 『エッセンシャル IFRS』（第 8 版）、秋葉賢一、中央経済社、3,600 円＋税、ISBN：978-4-502-43891-2。 ・『財務・非財務報告のアカデミック・エビデンス』、中野誠、加賀谷哲之、河内山拓磨編著、中央経済社、2025 年、3,600 円＋税、ISBN：978-4-502-51821-8。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕 (6) ICT 活用</p>

講義名	財務諸表論						
教員名	調 勇二						
講義コード	122331800	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は経営学部総合経営学科の専門応用発展科目のなかのファイナンスと会計科目に位置づけられます。本科目では、財務諸表から得られる情報を基礎として企業経営をとりわけ事業活動の価値の観点から評価するための概念・理論・手法を習得し、自ら企業分析・企業評価を行えるようになることを目的としています。</p> <p>経営者は一般に長期的な株主資本価値の創造を目的として企業を営むことを求められています。それゆえ、株主資本価値の観点からは、より大きな株主資本価値を創造する企業ほど高い評価を受けることとなります。株主資本価値は、その企業が将来に生み出すと予測されるキャッシュ・フローに基づいて算定されるため、現時点では赤字を計上しているような企業であっても、将来に大きな成長が見込まれる場合には高く評価される一方、現時点では黒字を計上していても将来的に衰退が見込まれる場合には低く評価されるという、一見すると不思議な現象が発生します。</p> <p>本科目では、財務諸表に対する深い理解を基礎として、業績の分析および将来業績の予測に基づいて、どのように企業を評価するのかを実践的に学修します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>本科目では、DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】の涵養を目指しています。</p> <p>具体的な到達目標は以下の通りです。</p> <p>①企業評価を行うにあたって必要な財務諸表及びコーポレート・ファイナンスに関する基礎的な概念や理論、手法等について説明できる。</p> <p>②習得した理論・手法に基づいて、自ら企業評価を行うことができる。</p> <p>③企業評価の知見を活用して、投資家・経営者の視点から企業経営を考えることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習について説明する。			【予習】事前に配布された資料に目を通して科目に対する理解を深め、さらに自分なりに調べておく。		60	
第2回	貸借対照表 ・貸借対照表の内容について学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第3回	損益計算書 ・損益計算書の内容について学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第4回	さまざまな財務情報 ・さまざまな財務情報について把握する。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第5回	収益性分析 ・収益性分析の考え方や指標について学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第6回	効率性分析 ・効率性分析の考え方や指標について学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第7回	安全性および成長性の分析 ・安全性・成長性分析の考え方や指標について学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第8回	企業価値評価の概要とマルチプル法の実践 ・どのような企業価値評価の手法があるのかを学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第9回	インカムアプローチの概要と割引率の推定 ・インカムアプローチに基づく企業価値表について学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第10回	DCF法による企業価値評価の実践 ・実際にDCF法による企業価値評価を行う。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論につ		90	

		いて深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。	
第11回	コーポレート・ファイナンスの概要と事業投資の意思決定 ・コーポレート・ファイナンスについて概観したうえで、事業投資の意思決定に関する理論と実証について学ぶ。	【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。	90
第12回	資金調達・資本構成の意思決定 ・資金調達・資本構成の意思決定に関する理論と実証について学ぶ。	【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。	90
第13回	株主還元の意思決定 ・株主還元に関する理論と実証について学ぶ。	【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。	90
第14回	総復習・質問回 ・これまでの学習内容を復習して、疑問点を質問して解消する。	【予習】これまでの学習内容を総復習して理解度を確認する。理解が不足している点を洗い出しておく。 【復習】不足していた点が充足できたか確認しておく。	120
<p>〔授業の方法〕</p> <p>原則として反転授業形式（前すべり形式とも）で行います。履修者は事前に配布された講義資料で事前学習を行い、知識を習得します。そのうえで、理解度確認テストに取り組みます。授業内では、事前に習得した知識を元に個人ワークやグループワークに取り組み、発表し、その成果物を提出します。</p> <p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>毎回、個人ワークやグループワーク、その成果物に対するフィードバック及び評価をします。</p> <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>理解度確認テスト（20%） 個人ワーク・グループワークの取り組みと成果物（40%） ディスカッション・クラス全体への貢献（10%） 期末試験（30%）</p> <p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価します。 ①企業評価を行うにあたって必要な財務諸表及びコーポレート・ファイナンスに関する基礎的な概念や理論、手法等について説明できる。 ②習得した理論・手法に基づいて、自ら企業評価を行うことができる。 ③企業評価の知見を活用して、投資家・経営者の視点から企業経営を考えることができる。</p> <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>必須ではありませんが、企業会計の基礎や財務会計といった科目の履修を通じて、会計に関する基礎知識を習得していることが望ましい。</p> <p>〔テキスト〕</p> <p>『入門講義 会計&ファイナンス』、中野 誠 編著、中央経済社、2025年、3,400円＋税、ISBN：978-4-502-54641-9.</p> <p>〔参考書〕</p> <p>購入の必要なし ・『財務・非財務報告のアカデミック・エビデンス』、中野誠、加賀谷哲之、河内山拓磨編著、中央経済社、2025年、3,600円＋税、ISBN：978-4-502-51821-8。 ・S.H. ベンマン(著)、荒田映子、大雄智、勝尾裕子、木村見久翻訳、『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション 原書第5版』、有斐閣、2018年、5,600円＋消費税。 ・ラッセル・ランドホルム、リチャード・スローン著、『企業価値評価 eVal による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、日本経済新聞出版社、2015年、3,500円＋消費税。 ・ジョナサン・パーク、ピーター・ディマーズ著、『コーポレートファイナンス 第2版』（入門編・応用編）、丸善出版、2014年。 ・リチャード・A・ブリーリー、スチュワート・C・マイヤーズ、フランクリン・アレン、『コーポレートファイナンス 第10版』（上下巻）、日経BP社、2014年。 ・中野誠著、『戦略的コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版社、2016年。 ・砂川伸幸、笠原真人、『はじめての企業価値評価』、日本経済新聞出版社、2015年。 ・伊藤邦雄、『新・企業価値評価』、日本経済新聞出版社、2014年。 ・マッキンゼー・アンド・カンパニー他著、『企業価値評価 第6版』（上下巻）、ダイヤモンド社、2016年。</p> <p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p> <p>〔特記事項〕</p>			

(4)アクティブ・ラーニング,(6)ICT活用

講義名	戦略支援システム						
教員名	生方 裕一						
講義コード	122332000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 企業の戦略を実現するために必要な「事業計画」の作成方法とその実行のための方策について勉強します。なお、事業計画の作成については、Business Model Canvas(ビジネスモデルキャンパス)を取り扱います。競争の激しい企業環境では、適切な経営戦略を策定し、他社に対する競争優位性を確立することが企業の存続に不可欠です。ただし、適切な経営戦略を形成するためには、経営者個人の才覚に頼っているばかりではリスクが大きすぎます。適切な経営戦略の形成を促進するための仕組みを作っておく必要があります。また、仮にいくら立派な経営戦略を作成したとしても組織全体としてそれを効果的に実施するための工夫がなければ意味を成さず、単なる「絵に書いた餅(画餅)」に終わってしまいます。戦略を組織内で共有したり、外部から資金調達を円滑に行ったりするためには、構想やアイデアとしての戦略を具体的な会計数値に置き換え、事業計画に翻訳する作業が重要なのです。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①管理会計を中心としたキャッシュフロー経営推進のための基本概念について説明できる。 ②キャッシュフローを活用した、初歩的な分析を行うことができる。 ③企業における資金循環の重要性と現実的な課題について理解することができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修(予習・復習等)				準備学修の 目安(分)	
第1回	ガイダンス/経営戦略の役割と理論	【予習】事業計画(ビジネスプラン)とはどのようなものか、経営企画部門の役割とは何か、書籍、ウェブサイトなどで自分なりに調べておくこと。 【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。				60	
第2回	経営戦略の理論俯瞰①	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。				60	
第3回	経営戦略の理論俯瞰②	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。				60	
第4回	新規事業の構想&BMCの書き方①	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。				60	
第5回	BMCの書き方②	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。				60	
第6回	BMCの検証	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。中間レポート作成にむけて、これまでの授業の総復習を行う。				60	
第7回	BMCから事業計画書へ	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。				60	
第8回	戦略を動かすための仕組み&全社戦略	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。				60	
第9回	個別事業の競争構築①	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。				60	
第10回	個別事業の競争構築②	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。				60	
第11回	個別事業の競争構築③	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。				60	
第12回	新しい戦略論①	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。				60	
第13回	新しい戦略論②	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。				60	
第14回	不確実性への対応	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。期末レポートの準備をする。				60	
<p>〔授業の方法〕 授業の進め方は第1回の授業において詳しく説明しますので、必ず出席してください。なお、上で示された準備学習の時間はあくまで目安のため、各自の理解度に応じて取り組んでください。また、受講生の理解度に応じて、授業計画・内容を変更する可能性があります。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 授業内課題(Course Powerのアンケート、テストなど)の結果は、Course Powerの統計処理結果などを示しながら次回の授業でフィードバックします。</p>							
〔成績評価の方法〕							

中間レポート（40%）、学期末レポート（60%）によって総合評価します。これらに加えて、討議への積極的参加等を加点対象とする場合もあります。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠します。

次の点に着目し、その達成度を総合的に評価します。

- ①ビジネスモデルキャンパスなどの基礎資料を用いて、適切な事業計画書を作成することができる。
- ②戦略実現のための事業計画（キャッシュフロー経営）について、その重要概念、計算構造を理解している。
- ③事業計画作成の計算実務を正確に実施することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目としては「企業会計入門」、「管理会計」があげられます。これらの科目で学んだ知識があれば、理解が深まります。

経営、企業、会計、金融などへの一般的な関心・興味があったほうがよいと思います。この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者については『企業と社会』を修得済または履修中であるとのぞましいです。

〔テキスト〕

- ・『新版 経営戦略の基本』手塚貞治・株式会社日本総合研究所 経営戦略研究会、株式会社日本実業出版社、978-4534060983
- ・『事業計画に落とせるビジネスモデルキャンパスの書き方』西田泰典、クロスメディア・パブリックシング、978-4295403401

〔参考書〕

- ・『ビジネスモデル・ジェネレーション：ビジネスモデル設計書 ビジナリー、イノベーターと挑戦者のためのハンドブック』アレックス・オスターワイルダー、イヴ・ビニユール、翔泳社、978-4798122977
- ・『「事業構想を『書く』」ービジネスモデルを可視化し新規事業開発を加速させるフレームワークー』堀雅彦、翔泳社、978-4798184166

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

オフィスアワーについては、ポータルサイトで周知しています。

〔特記事項〕

講義名	税務会計						
教員名	伊藤 公哉						
講義コード	122332100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この授業では、みなさんが社会人になったときに役立つ税金の知識を学修します。たとえば、年末になると「ふるさと納税」という言葉を耳にする機会が増えるかもしれません。自分の選んだ自治体に寄附（ふるさと納税）をすると所得税と住民税から控除することができる制度で、（返礼品のある自治体が多いことから）多くの人が利用しています。慣れれば簡単な手続きですが、税務用語（テクニカルターム）を理解できないと難しく感じることでしょう。</p> <p>また、突然の予期せぬ怪我や病気で多額の医療費が発生したようなとき、確定申告（税務署に納税申告書を提出）することで還付を受けられる（税金が戻ってくる）場合もあります。</p> <p>将来、会社に就職をしたならば、会社の資金で商品やサービスを発注したり、営業の仕事任せられ商品を販売したり、顧客を接待する機会があるかもしれません。そのようなときには、法人税の知識（たとえば商品の販売では収益の認識基準、顧客の接待にあたっては交際費等の知識）が必要になりますし、また税務会計の知識を用いて経理担当者と適切にコミュニケーションを図ることでビジネスをスムーズに進めることができるようになるでしょう。</p> <p>なお、授業で扱う内容は一般的な税務に関する内容になります。個別の税務相談等については（授業では応じませんので）税務署や税理士に相談してください。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>① 将来、社会人になったときに、自分の所得税の確定申告書を作成できるようになること。</p> <p>② 企業税務（法人税）の基礎知識を修得し、ビジネスの場で適切な税務用語を用いてコミュニケーションを図ることができるようになること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>ガイダンス</p> <p>① 履修上の留意事項（試験や評価など）</p> <p>② ガイダンス（この授業で学修すること）</p>			<p>【準備】シラバスを読み、内容を把握する。</p> <p>【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>		60	
第2回	<p>税金の種類と所得税のしくみ</p> <p>①税金の種類（国税と地方税、直接税と間接税）</p> <p>②所得税（国税）のしくみ（概要、源泉徴収制度と年末調整、確定申告の概要、納税地、予定納税、確定申告の方法、納税方法等）</p>			<p>【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>		60	
第3回	<p>個人住民税と所得税の概要</p> <p>①個人住民税（地方税）の仕組み（概要、特別徴収と普通徴収等）</p> <p>②所得税（国税）の所得税額の算出（概要、所得の種類と所得金額の計算方法、所得の総合と分離課税、「分離課税用（第三表）」のポイント等）</p>			<p>【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>		60	
第4回	<p>所得控除と税額控除</p> <p>①所得控除の概要（基礎控除、勤労学生控除、社会保険料控除、寄附金控除等を中心に）</p> <p>②税額控除の概要（公益社団法人等寄附金特別控除等を中心に）</p> <p>③税額計算（超過累進税率の適用）</p>			<p>【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>		60	
第5回	<p>給与所得</p> <p>①給与と所得の取扱い（給与と所得の意義（現物給与等を含む）、非課税所得、労働基準法の休業手当等の課税関係等）</p> <p>②給与と所得金額の計算（給与と所得控除、年末調整等のための給与と所得控除後の給与等の金額の表（所得税法別表第五）、特定支出控除等）</p>			<p>【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>		60	
第6回	<p>個人演習（中間まとめ）</p> <p>給与と所得の申告書の作成（給与と所得の源泉徴収票を用いて申告書をつくる練習をします）</p>			<p>【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>		60	
第7回	<p>事業所得と青色申告制度</p> <p>①事業所得（事業所得の意義、概要、損益通算、損失の繰越控除、事業所得の金額の計算、家事及び家事関連費、親族に支払われる対価に関する取扱い等）</p> <p>②青色申告制度（制度の概要、青色申告特別控除、青色事業専従者給与、貸倒引当金、個人事業の開業届出書、青色申告承認申請書、所得税の減価償却資産の償却方法の届出書等）</p>			<p>【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>		60	
第8回	<p>雑所得など</p> <p>①期間帰属（権利確定主義と管理支配基準、棚卸資産の販売による収益、債務確定主義等）。</p> <p>②雑所得（意義（公的年金等、業務に係るもの、その他の雑収入）、所得の金額の計算）</p> <p>③電子帳簿保存法と帳簿書類の保存期間等</p>			<p>【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>		60	
第9回	<p>金融所得税制</p> <p>①金融所得税制（概要、上場株式等、特定口座と一般口座、株式等に係る譲渡所得等の金額の計算明細書、上場株式等の譲渡損失の損益通算及び繰越控除、確定申告書付表（上場株式等に係る譲渡損失の損益通算及び繰越控除用）、上場株式等の配当等を受けた場合の課税関係）。</p>			<p>【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>		60	

	②1億円の壁（申告納税者の所得税負担率等）		
第10回	不動産の税制 ①譲渡所得（譲渡した資産の種類別の課税方法、譲渡所得の金額の計算、取得費、特別控除額等） ②土地・建物等の分離課税制度（課税方法、税額の計算、居住用財産を売却した場合の軽減税率、特定居住用財産の買換え特例等） ③不動産所得（所得の金額の計算、必要経費、賃貸不動産の減価償却とキャッシュ・シュフローのシミュレーション等）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第11回	所得控除 ①配偶者控除と配偶者特別控除（概要、控除対象配偶者、配偶者控除額、配偶者特別控除を受けるための要件、配偶者特別控除額） ②扶養控除（制度の概要など） ③ふるさと納税（寄附金控除） ④医療費控除（概要、セルフメディケーション税制等）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第12回	法人税概論 ①法人税法上の法人概念（法人税の納税義務者） ②法人税の性質・課税根拠（シャープ勧告）と法人税の特色（所得税との比較） ③法人税の申告と納税（事業年度と決算書の確定、確定決算主義、納税地、申告期限と納付期限、中間申告、延滞税と利子税等） ④法人税額計算の概要（法人税の別表、地方法人税（国税）、所得の金額の計算、税務調整（決算調整事項と申告調整事項）、損金経理、使途秘匿金課税と留保金課税、税額控除等）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第13回	法人税各論 ①確定申告と添付書類（別表一、別表四、決算報告書、租税特別措置と適用額明細書等） ②所得の金額の計算（法人税法22条、益金の額（資産の無償譲渡、役務の無償提供を含む）、損金の額（債務確定主義、損失の両建経理）、公正処理基準、資本等取引等） ③交際費等（概要、範囲、接待飲食費、中小法人の特例等）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第14回	法人税各論とまとめ ①減価償却（概要、非減価償却資産、減価償却資産の種類、償却限度額の計算、期中に取得した資産、償却不足と償却超過、償却方法の変更等） ②まとめ	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
<p>〔授業の方法〕</p> <p>この授業は14回の授業を【オンデマンド型のオンライン授業】で実施します。講義形式で授業を行いますが、学修効果を高める目的で計算や申告書記入などの個人のアクティビティ等も行います。各回の学習方法の詳細は CoursePower で明示しますが、基本的にはオンデマンドの授業を受講し、復習クイズ等の課題を提出する流れになります（復習クイズ等の課題の取り組み状況等により出席と判断することとします）。</p> <p>なお、各回で扱う範囲等については、受講者の理解を確認しながら弾力的に講義を進めていくこととし、場合によっては変更することがありますので CoursePower の連絡事項を確認するようにしてください。</p> <p>上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むようにしてください。</p> <p>アカウントの不正使用、テスト等における不正行為は厳禁ですのでご注意ください。</p>			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>Zoomを使用する予定です。</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>毎授業後に CoursePower で実施する復習クイズについて、解答期限後に CoursePower 上で解説が表示されますので、復習の参考にしてください。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>授業後に CoursePower で実施する復習クイズ等（70%）、期末試験（30%）により、授業の到達目標を達成しているかどうかを総合的に評価します。（※レポート課題は存在しません。また、この授業では4年生を特別扱いする（4年生だから甘く評価するとか単位を出す）ということは一切ありません。ご注意ください。）</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>① 将来、社会人になったときに、自分の所得税の確定申告書を作成できるようになること。</p> <p>② 企業税務（法人税）の基礎知識を修得し、ビジネスの場で適切な税務用語を用いてコミュニケーションを図ることができるようになること。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>1年次で履修する「企業会計の基礎」の知識が役に立ちます。</p> <p>関連科目として、前期「租税法の基礎」（判例を用いて租税法の基礎を学びます）、後期「経営学特殊講義B（租税法）」（租税法の側面から法人税法、相続税法、消費税法等の基礎を学びます）。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>CoursePower で資料（レジュメ及び参考資料等）を配布します。</p>			
<p>〔参考書〕</p>			

・国税庁Webサイト (<https://www.nta.go.jp/>)
・ふるさと納税については、総務省の「ふるさと納税ポータルサイト」
(https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/080430_2_kojin.html)

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	租税法の基礎						
教員名	伊藤 公哉						
講義コード	122351100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>学問としての租税法は、租税に関する法の体系的かつ理論的な研究を目的とする法学の独立の一分野である。ここで租税とは、国又は地方公共団体が、特別の給付に対する反対給付としてではなく、公共サービスを提供するための資金を調達する目的で、法律の定めに基づいて私人に課す金銭給付のことである。現代社会において市場で取引等の意思決定を行うにあたっては、その取引等により負うこととなるであろう納税額及び納税時期について正しく理解できなければならないだろう。また、租税法は、国民の財産権への侵害を根拠づける侵害規範であるから、厳格に解釈されるべきである。この授業では、租税法主義を中心とする租税法の基本原則と、個人に課される所得税（国税）の概要について正しく理解することを目標とする。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>【経営学部総合経営学科】DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>① 租税法の基本原則の理解を通じたリーガルマインドの醸成を目標とする。より具体的には、租税法の諸原則（とくに租税法主義）について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようになること。</p> <p>② 所得税の基礎知識を学問（法学）の観点から修得し、説明できるようになること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	① ガイダンスと履修上の留意事項（試験や評価など） ② イントロダクション（租税の意義と種類）			【準備】シラバスを読み、内容を把握する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第2回	租税法の基本原則（租税法主義と租税公平主義）			【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		90	
第3回	租税法の法源			【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		90	
第4回	租税法の解釈と適用			【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。		90	
第5回	租税法の解釈と適用（続き）			【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		90	
第6回	課税要件 所得税（所得税法総説）			【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		90	
第7回	中間試験（租税法主義に関する正確な理解と知識の定着を図ることを目的とします）			【準備】前回までに学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。		90	
第8回	所得税（「所得」の意義）			【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		90	
第9回	所得税（所得税の納税義務者、所得額算出の基本的な仕組み）			【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		90	
第10回	所得税（利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得）			【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		90	
第11回	所得税（給与所得、退職所得、所得控除）			【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		90	

第12回	所得税（譲渡所得（概論））	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	90
第13回	所得税（譲渡所得（各論）、山林所得、一時所得、雑所得）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	90
第14回	所得税（年度帰属、必要経費）等	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	90
<p>〔授業の方法〕</p> <p>この授業は14回をオンデマンド型のオンライン授業で実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業方法は、基本的にPowerPoint等を用いた講義形式ですが、学修効果を高める目的で個人単位のアクティビティ等を行うことがあります。 授業で使うレジュメ及び判例等は毎回CoursePowerで配付します。なお、レジュメ及び判例等はPDFで配付しますが、PowerPoint（重要な部分のアンダーラインや吹き出し等のアニメーションを付したもの）や映像等のデータは配付しませんので、受講にあたりメモやノートをとるようにしてください。 各回の学習方法についてはCoursePowerで明示しますが、基本的にはオンデマンドの授業を受講し、復習クイズ等の課題を提出する流れになります（復習クイズ等の課題の取り組み状況をもって出席とみなします）。 第7回目の中間試験は、CoursePowerを用いて実施します（ノートやレジュメ等披見可）。中間試験の問題は租税法主義について出題します。なお、中間試験には追試はありません。 期末試験は対面で実施します。試験範囲は第1回から第13回までの内容です。披見不可（持込不可）。 アカウントの不正使用、テストや課題における不正行為は厳禁ですのでご注意ください。 <p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>Zoomを使用する予定です。</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>毎授業後にCoursePowerで実施する復習クイズについて、解答期限後に解説が表示されますので、復習の参考にしてください。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>CoursePower上での復習クイズ等の課題（35%換算）、中間試験（「租税法主義」について出題します：5%換算）、期末試験（60%換算）により、授業の到達目標を達成しているかどうかを総合的に評価します。</p> <p>※この授業は複数学部の合併開講ですが、この授業のカリキュラム上の位置づけは学部により異なります（たとえば、経営学部では2年次から履修可能な非基幹科目（非コアの基礎的内容を扱う）という位置づけ、法学部では3年次以上で履修できる基幹科目又は応用科目など）。そこで、所属学部により評価基準（試験等の採点基準）が異なりますのでご注意ください。なお、この授業では法律学科と政治学科は同じ評価基準（法学部生の評価基準）を適用します。</p> <p>参考情報として、昨年度の【単位取得率】は、経営学部生は約80%、法学部生は約45%でした。</p> <p>他の法律科目と比べて単位取得が容易ということはありませんので履修にあたっては十分ご注意ください（時間割の都合（空きコマを埋める）などの理由で履修登録をすると後悔することになる可能性があります）。</p> <p>※この授業では、4年生を特別扱いする（4年生だから甘く評価するとか単位を出す）ということは一切ありません。また、この授業には代替課題等の制度は存在しません。十分ご注意ください。</p> <p>※試験前の試験に関する質問や相談等には応じませんので予めご了承ください。復習クイズ等の課題や中間試験の期限後の提出の相談や懇願は受け付けませんので、スケジュールを確認のうえ計画的に取組んでください（期限後に教員や教務部等に懇願メール等を送信しても受け付けません。懇願メール等で教員や大学の業務を妨害した場合は減点対象とすることがありますのでご注意ください）。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成慶大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 租税法の基本原則の理解を通じたリーガルマインドの醸成を目標とする。より具体的には、租税法の諸原則（とくに租税法主義）について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようになること。 所得税の基礎知識を学問（法律学）の観点から修得し、説明できるようになること。 			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>先修科目として、「税務会計」（申告書の作成や計算にフォーカスした関連科目）等があります。</p> <p>また、応用的な関連科目として、「経営学特殊講義B／租税法」（法人税法等を扱う関連科目）があります。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>CoursePowerで資料（レジュメ及び判例等）を配付する。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>予習及び復習の参考書としては、金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂、2021年）。</p> <p>租税法における所得概念については、伊藤公哉『アメリカ連邦税法〔第9版〕』（中央経済社、2024年）の第I章（租税と所得概念）が詳しい。</p> <p>重要な法令はレジュメでも紹介しますが、以下で紹介するウェブサイトも有用です。</p> <ul style="list-style-type: none"> e-Gov 法令検索（税法を含む法令の検索が可能） https://elaws.e-gov.go.jp/ 裁判所（裁判例の検索が可能） http://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search1 国税庁（法令解釈通達の検索が可能） https://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/tsutatsu/menu.htm <p>また、租税判例は、TKCローライブラリー（図書館の法律データベース）も充実しています。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p>			

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	経営学特殊講義A（自然保護論）						
教員名	田口 誠						
講義コード	122351200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：「さまざまな自然環境問題とその対策について経営学の視点から深く考える」</p> <p>経営学の枠組みを基礎として、企業と自然環境をめぐる様々な問題にアプローチします。</p> <p>具体的には、経営学の諸分野（企業倫理、マーケティング、消費者行動、企業組織論、リスクコミュニケーション、財務分析、環境政策論など）から、気候変動や生態系保護、資源・エネルギー管理など、最近重要になっている自然環境問題への企業の対応について学びます。</p> <p>経営学は一企業の効率的な運営を考えるための学問ですが、この授業では企業のみならず、個人や社会の視点を含め、広く人間と自然環境との関係性について考えます。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然環境保護と企業経営の関係性について理解すること 2. 経営学の理論を応用して、様々な自然環境問題への対応方法を提案できるようにすること 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）				準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。	【復習】環境経営の意義について説明できるようにする。				60	
第2回	サステナビリティ ・サステナビリティとは具体的に何を意味するのか。	【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。				60	
第3回	国際経営 ・各国の自然環境規制が経営に与える影響	【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。				60	
第4回	生産(1) ・サプライチェーン・マネジメントと自然環境問題	【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。				60	
第5回	生産(2) ・ライフ・サイクル・アセスメント(LCA)と企業戦略	【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。				60	
第6回	競争戦略 ・自然環境にやさしい製品の競争戦略	【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。				60	
第7回	マーケティング(1) ・環境マーケティングの歴史的発展	【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。				60	
第8回	マーケティング(2) ・自然環境にやさしい製品の市場分析	【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。				60	
第9回	消費者行動(1) ・意思決定モデルの基本	【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。				60	
第10回	消費者行動(2) ・意思決定モデルの応用	【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。				60	
第11回	組織論 ・組織における認知障壁と自然環境問題	【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。				60	
第12回	情報戦略 ・自然環境情報の開示戦略	【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。				60	
第13回	財務分析 ・自然環境問題とファイナンス市場	【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。				60	
第14回	授業のまとめ 質疑応答	【復習】この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度を点検し、不足している知識等を確認する。				60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義を中心に進める。普段から講義資料を使った復習に力を入れ、次回の授業にわからない点を持ち越さないようにすること。</p> <p>なお、授業期間中の課題、最終レポートの狙いは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業期間中の課題：講義の内容が理解できているかを確認する。 ・最終レポート：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>授業中の課題については、必要に応じて授業中に解説の時間を設ける。</p>							
〔成績評価の方法〕							

平常点による総合評価。
期末レポート 70%、授業期間中の課題 30%をめやすとする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38, 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

1. 自然環境保護と企業経営の関係性について論理的に説明できること
2. 経営学の理論にもとづき、自然環境問題への対応方法について考察できること

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識：経営学の各分野，特にマーケティング，消費者行動，経営組織論についての基礎的な知識があることが望ましい。
関連科目：「環境と経営戦略」

〔テキスト〕

テキストは使用しない。
授業中に資料を配布する。

〔参考書〕

講義の中で適宜，紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。
また，授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	経営学特殊講義A (マーケティング・リサーチ)						
教員名	野際 大介						
講義コード	122351230	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>本講義では、マーケティング戦略に対するさまざまな問題を識別、把握、解決し、適切な意思決定のため、必要な情報を収集し分析する手法や枠組みに関する知識を身につけます。具体的には、マーケティングや消費者行動論の理論的背景に基づき、質問紙調査や購買履歴データ、アクセスログデータなど情報化に伴い取得が比較的容易になった膨大なデータを活用、解析することで効果的なマーケティング戦略を策定できることを目標とします。</p> <p>・シンクタンクでの実務経験に基づき、マーケティングにおけるリサーチの方法やデータ活用方法について講義する。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>本講義では、以下の(1)～(3)を習得することを到達目標とします。</p> <p>(1) マーケティングや消費者行動論に基づく基礎知識の応用 (2) データを活用したマーケティング戦略策定のためのプロセス理解や実践方法 (3) 上記に関わる実務的な応用を見据えた論理的で科学的な提案方法</p> <p>以上、DP1 (専門分野の知識・技能)、DP3 (課題の発見と解決) を実現することを目的としています。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	オリエンテーション ・講義の進め方とスケジュール確認 ・本講義の位置づけ			予習 ・シラバスや関連科目について確認する		60分	
第2回	マーケティング概論(1) ・マーケティングの概要 (復習) ・製品戦略 ・価格戦略、価格弾力性			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		60分	
第3回	マーケティング概論(2) ・流通戦略 ・プロモーション戦略 ・効果測定のための因果効果			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		60分	
第4回	消費者行動論概論(1) ・消費者行動論の概要 ・消費者行動分析とデータ ・消費者調査と統計の基礎			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		60分	
第5回	消費者行動論概論(2) ・消費者の情報処理と選択行動 ・購買行動プロセス ・定量分析の導入			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		60分	
第6回	マーケティング・リサーチ手法(1) ・消費者の情報処理の測定とは ・影響される因子と相関 ・相関と偏相関			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		60分	
第7回	理解度チェック(1) ・第1回～第6回の理解度確認			予習 ・第1回～第6回演習問題を解きなおす ・第1回～第6回講義トピックの確認と整理		120分	
第8回	マーケティング・リサーチ手法(2) ・市場反応分析とは ・相関から回帰分析			予習 ・統計の基礎について確認 復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		90分	
第9回	マーケティング・リサーチ手法(3) ・商品の組合せを評価する (アソシエーション分析)			予習 ・高校数学 (確率) の確認 復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		90分	
第10回	マーケティング・リサーチのデザインと意思決定 ・リサーチデザインの決定 ・マーケティングリサーチ実施の意思決定分析			予習 ・高校数学 (確率) の確認 復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		90分	
第11回	シナリオ予測 ・マーケティングにおけるシナリオとは ・シェアの予測			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		90分	
第12回	価格調査 ・プライシングとは ・PSM分析			復習 ・第12回目の講義を復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		90分	
第13回	消費者行動とマーケティングモデル ・消費者行動モデルを応用しよう ・新製品普及モデル ・Huffモデル			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		90分	
第14回	理解度チェック(2) ・第1回～第13回の理解度確認			予習 ・第1回～第13回演習問題を解きなおす ・第1回～第13回講義トピックの確認と整理		120分	
[授業の方法]							

講義内では授業とディスカッションを織り交ぜながら、進捗し、講義後半では演習問題やデータ解析を実施する回もある。各自マーケティングに関して、考察、提案の策定を行う。

講義内の演習の際には、ノートパソコンなどを用いてもよい。各自必要に応じて持参すること。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

演習に関する解答例を次の回の冒頭に解説する。適宜質問などは講義演習中や講義後に受け付ける。

〔成績評価の方法〕

講義課題提出（40%）、2回の理解度チェック（30%+30%）によって総合的に評価する。

また、講義内で課題演習についての回答例を発言等した場合についてはボーナスポイントを付与する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、第39条）に準拠する。上記の到達目標の達成度に基づいて評価します。

以下の観点から、到達度や理解度の評価する。

- (1) マーケティングや消費者行動論に基づく基礎知識の応用が可能か
- (2) データを活用したマーケティング戦略策定のためのプロセス理解や実践方法を理解しているか
- (3) 上記に関わる実務的な応用を見据えた論理的で科学的な提案方法が身についているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

マーケティング、統計の基礎、消費者行動など

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

『現代マーケティング・リサーチ〔新版〕：市場を読み解くデータ分析』照井伸彦・佐藤忠彦(2022)有斐閣 3,190円—購入の必要なし—

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトでオフィスアワーを周知する。また、講義終了後、教室で受け付けます。

〔特記事項〕

(6) ICT活用

講義名	経営学特殊講義B（租税法）						
教員名	伊藤 公哉						
講義コード	122351570	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>租税法は、私たちの生活に密着した身近な学問です。企業経営においても、租税法の知識は不可欠といえるでしょう。この授業では、法人税法を中心とした租税法の概論を学修します。具体的には、租税法全体に共通する基本的な考え方や、法人税や消費税等を中心に国税の概要を理解することを目標とします（この授業では、どちらかという与企业会計の知識を前提とする企業周りの税目を多く扱います。なお、所得税法については、別の授業（租税法の基礎/基盤特殊講義（租税法基礎））の方で詳しく扱います）。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>【経営学部総合経営学科】</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>① 租税法の基本原則の理解を通じたリーガルマインドの醸成を目標とする。より具体的には、租税法の諸原則（とくに租税法主義）について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようになること。</p> <p>② 法人税等を中心に国税の基礎知識を修得し、正しく説明できるようになること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	① ガイダンスと履修上の留意事項（試験や評価など） ② イントロダクション（租税の意義と種類）			【準備】シラバスを読み、内容を把握する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第2回	租税法の基本原則（租税法主義と租税公平主義）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第3回	租税法の法源、租税法の解釈と適用			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第4回	所得税の概要（所得税総説、所得の意義）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第5回	法人税（法人税総説、法人税の課税要件）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第6回	法人税（事業年度と決算、益金の額、損金の額、資本等取引）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第7回	法人税（公正処理基準、年度帰属、受取配当等）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第8回	法人税（売上原価、寄附金、交際費等）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第9回	法人税（給与、減価償却） 法人税（同族会社、税額控除、申告手続等）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第10回	相続税			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	

第11回	相続税、贈与税	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第12回	消費税 (消費税総説)	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第13回	消費税 (仕入税額控除)	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第14回	時事トピックス等	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答する。	60
<p>〔授業の方法〕 基本的に PowerPoint 等を用いた講義形式ですが、適宜、指名をするなどしてなるべく楽しい雰囲気の中で授業ができればと考えています。 各回で扱う範囲については、受講者の理解を確認しながら弾力的に講義を進めていくこととし、一部変更する場合があります。そこで、常に CoursePower で連絡事項を確認してください。</p>			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示 (特別なソフトウェアのインストール等)〕 ※第2回目以降の配布資料 (レジュメや判例等) は、CoursePower 上でデータでのみ配布をしますので、ノート PC やタブレット等のデバイスを授業に持参するか、または紙ベースで学習したい人は事前に各自でプリントをして持参してください。</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 毎授業後に CoursePower で実施する復習クイズについて、解答期限後に解説が表示されますので、復習の参考にしてください。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 授業後のシステム (CoursePower) 上での復習クイズ (40%)、期末試験 (60%) により、授業の到達目標を達成しているかどうかを総合的に評価します。 期末試験は対面で実施します。試験範囲は第1回から第13回までの内容です (披見不可)。 なお、迷惑行為 (授業と関係のないことで騒ぐなど他の受講者の学修の妨げとなる行為) を行う者については、予告の上で大幅に減点する場合があります。 ※この授業では、4年生を特別扱いする (4年生だから甘く評価するとか単位を出す) ということは一切ありません。ご注意ください。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第38条、39条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ① 租税法の基本原則の理解を通じたリーガルマインドの醸成を目標とする。より具体的には、租税法の諸原則 (とくに租税法主義) について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようにすること。 ② 法人税や消費税等の国税の基礎知識を修得し、説明できるようになること。</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 法人税や消費税の理解にあたっては、企業会計 (財務会計) の知識が必要になります。</p>			
<p>〔テキスト〕 税法は毎年改正されますので、第1回目のガイダンス時に詳しく説明します。 また、CoursePower で資料 (レジュメ及び参考資料等) を配布します。 ※第1回目の資料は紙でも配布をしますが、第2回目以降の配布資料は、CoursePower 上でデータでのみ配布をしますので、ノート PC やタブレット等のデバイスを授業に持参するか、または紙ベースで学習したい人は事前に各自でプリントをして持参してください。</p>			
<p>〔参考書〕 予習及び復習の参考書としては、金子宏『租税法 [第24版]』 (弘文堂、2021年)。 租税法における所得概念については、伊藤公哉『アメリカ連邦税法 [第9版]』 (中央経済社、2024年) の第1章 (租税と所得概念) が詳しい。 重要な法令はレジュメでも紹介しますが、以下で紹介するウェブサイトも有用です。 ・e-Gov 法令検索 (税法を含む法令の検索が可能) https://elaws.e-gov.go.jp/ ・裁判所 (裁判例の検索が可能) http://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search1 ・国税庁 (法令解釈通達の検索が可能) https://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/tsutatsu/menu.htm また、租税判例は、TKCローライブラリー (情報図書館の法律データベース) も充実しています。</p>			
<p>〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

講義名	経営学特殊講義B（非営利法人の財務開示）						
教員名	生方 裕一						
講義コード	122351580	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>非営利法人は利益の追求を主な目的とはしない組織体であり、プライベート・セクターとパブリック・セクターに区分されています。前者は、社会福祉、環境保全など近年注目される分野での活動が飛躍的に広がり、近年、その活動に対する社会的関心が急速に高まっています。と同時に、情報公開要求や会計制度の見直しなど、従来の制度に対する改革のうねりが強まっています。他方、後者のセクターは、主に地方自治体や独立行政法人を指しています。</p> <p>この授業では、主に前者のプライベート・セクターを取り上げ、その事業の運営について、また運営の基本となる会計や財務開示の問題に光を当てていきます。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1-1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①非営利法人の存在意義について理解できる。</p> <p>②非営利法人の事業について、営利法人との違いを説明できる。</p> <p>③非営利法人の会計や財務開示について、営利法人との違いを説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	非営利会計の前提 ・授業の内容、進め方、成績評価方法などを確認する。 ・企業会計との違いから、非営利会計の特徴を理解する			【予習】これまでの履修で使用したテキストや資料などを振り返り、営利法人（株式会社など）の事業や会計について復習する。		60	
第2回	政府会計の基礎概念と今後の方向性 ・わが国において非営利組織体とされる団体のうち、特にパブリック・セクターに属する団体（国・地方公共団体など）で用いられる会計の概要を理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第3回	国の会計 ・第2回の内容を踏まえて、より詳細な内容を扱う			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第4回	独立行政法人／特殊法人等の会計 ・国の出資の下で設立される独立行政法人、および特殊法人で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第5回	国立大学法人の会計 ・国の出資の下で設立される国立大学法人で用いられる会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第6回	地方公共団体／地方公社の会計 ・地方公共団体、及び同団体の出資の下で設立される地方公社で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第7回	地方公益企業／地方独立行政法人の会計 ・地方公共団体の出資の下で設立される地方公益企業、および地方独立行政法人で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第8回	非営利会計の基礎概念と今後の方向性 ・わが国において非営利組織体とされる団体のうち、特にプライベート・セクターに属する団体で用いられる会計の概要を理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第9回	公益法人の会計 ・公益法人で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第10回	医療法人の会計 ・医療法人で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第11回	学校法人の会計 ・学校法人で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第12回	社会福祉法人の会計 ・社会福祉法人で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第13回	その他の非営利組織の会計 ・第12回までで扱わなかった非営利組織の会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第14回	まとめと今後の課題 ・パブリック・セクターとプライベート・セクターを併せ、わが国の非営利組織の会計の現状と課題を整理し、今後の方向性を見出す			【復習】これまでの授業内容を振り返り、レポートを作成する。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業の進め方は第1回の授業において詳しく説明しますので、必ず出席してください。なお、上で示された準備学習の時間はあくまで目安のため、各自の理解度に応じて取り組んでください。また、受講生の理解度に応じて、授業計画・内容を変更する可能性があります。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

授業内課題（Course Power のアンケート、テストなど）の結果は、Course Power の統計処理結果などを示しながら次回の授業でフィードバックします。

〔成績評価の方法〕

中間レポート（40%）、学期末レポート（60%）によって総合評価します。また、履修者それぞれの興味に応じたレポートの提出を求めることがあります。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①非営利法人の存在意義について理解できる。
- ②非営利法人の事業について、営利法人との違いを説明できる。
- ③非営利法人の会計や財務開示について、営利法人との違いを説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

企業経営や企業会計の基本的な知識を修得していることを前提として授業を進めます。
経営や会計のエントリーレベルをクリアした人で、さらに企業とは異なる非営利法人の事業や財務開示の現状をリアルにつかみたい、と考える人に受講をお勧めします。

〔テキスト〕

- ・『非営利会計論 15 講（ライブラリ会計学 15 講 10）』白山真一，新世社，978-4883843800

〔参考書〕

- ・『非営利用語辞典』非営利法人研究会，全国公益法人協会，978-4915668814
 - ・『非営利組織体の会計』杉山学・鈴木豊，中央経済グループパブリッシング，978-4502193101
 - ・『政府と非営利組織の会計』大塚宗春・黒川行治，中央経済社，978-4502452505
 - ・『公会計テキスト』黒木淳，中央経済社，978-4502295218
- ほか、適宜授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	経営学特殊講義B (応用ゲーム理論)						
教員名	藤原 直輝						
講義コード	122351590	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ゲーム理論は、結果が自らの行動だけでなく他者の行動にも依存するような戦略的状況（企業の競争やスポーツの駆け引きなど）における意思決定を分析する理論である。ゲーム理論の応用分野として近年発展しているマーケットデザインは、現実の市場におけるルールや制度、すなわち参加者が直面するゲームを設計することで、市場参加者のインセンティブを調整し、望ましい結果を導くことを目的とする。本講義では、中でも価格をインセンティブとして用いるオークションによる市場の設計を中心に扱う。オークションは、ヤフオクのようなオンライン取引にとどまらず、インターネット広告、周波数割り当て、排出権取引、金融市場など、多様な市場の設計に用いられている。</p> <p>本講義では、ゲーム理論の基礎的な考え方を復習した上で、さまざまなオークション形式の分析を行い、市場の目的や制度的制約に応じてどのようなオークションルールが適切であるのかを検討する。講義は理論的分析を中心とするが、学生が実際にオークションに参加する機会も設け、戦略的に考えることの面白さや、ルールの違いが意思決定や結果にどのような影響を与えるのかを実感できるようにする。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①さまざまなオークション形式を理解し、ゲーム理論を用いてその均衡を導出するとともに、その均衡がプレイヤーのどのような戦略的思考の結果として導かれるのかを、経済学的かつ直感的に理解できるようになること。</p> <p>②オークションのルール設計によって参加者のインセンティブがどのように変化するかを理解し、各市場の状況に応じてどのようなオークション形式が適切であるのかを判断できるようになること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション（講義概要、マーケットデザインとは）			（復習）講義内容を復習する。		60分	
第2回	ゲーム理論の復習1（完備情報の標準形ゲームとナッシュ均衡などの均衡概念）			（復習）講義内容を復習する。		120分	
第3回	確率の復習（確率分布、期待値、期待利得など）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第4回	ゲーム理論の復習2（不完備情報の標準形ゲームとベイジアン・ナッシュ均衡）			（復習）講義内容を復習する。		120分	
第5回	代表的なオークション方式とモデリング			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第6回	私的価値オークションの分析1（オークションの均衡）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第7回	私的価値オークションの分析2（前回の続き、収入同値定理）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第8回	私的価値オークションの分析3（最低落札価格と期待収入最大化）			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第9回	共通価値オークションと勝者の呪い			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第10回	オンライン・オークション（eBay、ヤフオク、メルカリ等）の設計			（復習）講義内容を復習する。		90分	
第11回	複数財オークション			（復習）講義内容を復習する。グループでのレポート作成を進める。		90分	
第12回	広告オークションの設計（GoogleやInstagram上の広告）			（復習）講義内容を復習する。グループでのレポート作成を進める。		90分	
第13回	金融市場におけるオークションの設計			（復習）講義内容を復習する。グループでのレポート作成を進める。		90分	
第14回	全体のまとめ			（復習）講義内容を復習する。グループでのレポートを提出する。		90分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は、スライドと板書を併用して講義形式で行う。講義スライドは配布するが、計算を伴う内容については板書を中心に扱うため、講義に参加し、各自でノートを取る。さらに、講義では定期的に、学生がオークションの参加者として入札行動を考え、議論する機会を設ける。また、講義で学んだ内容をもとに、グループごとに、実際のオークションがどのような市場において、どのようなルールの下で設計されているのかを調査・分析し、その結果をレポートとして講義終盤に提出する。</p> <p>本講義では、予習は基本的に不要だが、ゲーム理論は内容の積み重ねが重要な分野であり、各回の講義は前回までの内容を理解していることを前提として進める。そのため、各回の講義後には十分な復習を行うこと。復習にあたっては、以下の点を意識することが望ましい。①講義で扱ったゲーム・オークションの分析を、自力で再現してみる。②講義で用いたグラフや図を、自分の手で書いてみる。③分析結果を直感的・経済学的にどのように解釈できるかを考えること。復習の過程で不明点が生じた場合は、オフィスアワー等を活用し、疑問点を残さないようにすること。また、理解の定着を目的として、定期的に演習問題を配布する。講義内容の理解を確認するとともに、期末試験の準備として積極的に取り組むこと。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕
定期的に講義内で演習・解説を行う。

〔成績評価の方法〕
成績は、以下を目安として総合的に評価する。
・講義への参加および貢献（講義内外で実施するオークションへの参加等）：20%
・グループでのレポート課題（詳細は講義開始後に案内する）：30%
・学期末試験（履修者数に応じて、持ち帰り試験または定期試験を実施する。）：50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
本講義では、マイクロ経済学の基礎的知識やゲーム理論の知識前提とするため、「マイクロ経済学の基礎」「ゲーム理論」などの科目を履修していることが望ましい。ただし、講義で最低限のゲーム理論やマイクロ経済学の内容に関しては説明をするので復習をきちんと行えば問題なく履修できる。また必要に応じて補足説明を行うが、本講義では簡単な確率論（確率の定義、期待値など）および一次関数・二次関数の性質、そのグラフ、ならびに微分法を用いる。これらの内容に不安がある場合は、配布する練習問題等を活用して復習をすること。ただし、本講義の主眼はゲーム理論の考え方を理解することにあり、受験数学のような難解な計算を求めるものではない。

〔テキスト〕
テキストとしては以下をあげるが、購入の必要はない。
・ギョーム・ハーリンジャー 「マーケットデザイン—オークションとマッチングの理論・実践」中央経済社

〔参考書〕
参考書としては以下を挙げる。
・ジョン・マクミラン 「新版 市場を創るパズールからネット取引まで」慶應義塾出版会
・ティモシー・P・ハバード 「入門 オークション：市場をデザインする経済学」NTT出版
ゲーム理論の参考書としては以下を薦める。
・岡田章 「ゲーム理論・入門 新版—人間社会の理解のために」有斐閣
・バリー・ネイルバフ、アビナッシュ・ディキシット 『戦略的思考をどう実践するか』 C Eメディアハウス
以上はいずれも参考書であり、購入の必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
(4)アクティブ・ラーニング

講義名	統計学						
教員名	田中 研太郎						
講義コード	122411300	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>近年の情報技術の発達により、大量のデータを高速に収集・処理することが可能になっている。そのようなデータを有効活用するためには、統計解析によって意味のある情報を取り出し、新たな知見を得ることが重要である。本講義では、統計解析に必要な基礎知識として、記述統計から一歩進んだ推測統計の考え方を習得することを目標とする。なお、授業の第1～3回においては、統計学の基本を復習するために、記述統計に関する内容も扱う。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】、DP4【表現力、発信力】を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>1) 確率分布を用いた推測統計の考え方を理解する。 2) 種々の検定などが適切に利用できるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス： 統計学とは何か？			【復習】統計学とはどのようなものなのかについて把握する。		60分	
第2回	記述統計の基礎： 身近なデータの種類にはどのようなものがあるのか？			【予習・復習】記述統計の基礎について予習・復習する。		60分	
第3回	1変量データと2変量データに対する記述統計： 1変量データや2変量データを視覚化する方法にはどのようなものがあるか？平均や分散とは何か？相関係数とは何か？			【予習・復習】1変量データと2変量データに対する記述統計について予習・復習する。		60分	
第4回	確率モデル ～記述統計から推測統計へ～： 推測統計における確率分布とはどのようなものなのか？			【復習】推測統計における確率分布の考え方について復習する。		60分	
第5回	2項分布の考え方と使い方： 2項分布を用いた確率の計算について			【復習】2項分布について復習する。		60分	
第6回	確率分布における期待値と分散： i) 確率分布における期待値と分散の定義 ii) 2項分布における期待値と分散の求め方			【復習】確率分布における期待値と分散について復習する。		60分	
第7回	これまでのまとめ： ・これまでの授業内容についてのまとめ			【復習】これまでの授業内容についてまとめ、課題などに取り組む。		60分	
第8回	確率分布についての性質： i) 確率分布における期待値と分散の性質 ii) 大数の法則と中心極限定理			【復習】大数の法則と中心極限定理について、なんとなくでも理解するように努める。		60分	
第9回	正規分布の考え方と使い方： i) 正規分布を用いた確率の求め方 ii) 正規分布の平均と分散			【復習】正規分布について復習する。		60分	
第10回	統計的仮説検定について： i) 確率分布についての復習 ii) 統計的仮説検定についての導入			【復習】これまで出てきた確率分布とその性質について復習する。		60分	
第11回	統計的仮説検定について： i) 統計的仮説検定の考え方 ii) 平均値についての検定（正規分布の利用）			【復習】平均値についての検定の考え方について復習する。		60分	
第12回	統計的仮説検定について： i) 統計的仮説検定の考え方(再) ii) 平均値についての検定（t-分布の利用）			【復習】平均値についての検定の考え方について復習する。		60分	
第13回	分割表の解析： i) 独立性の検定（カイ2乗分布の利用） ii) 層別の重要性			【復習】分割表における独立性の検定の考え方について復習する。また、層別の重要性について理解する。		60分	
第14回	まとめ： ・授業内容全体についてのまとめ			【復習】授業内容全体についてまとめ、課題などに取り組む。		60分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義による授業を行う。 また、PCを使用して、統計における計算や課題に取り組んでもらったりする。 授業の理解を測るため、適宜、授業内課題や小テストなどを実施する。また、定期的に課題を課す。</p>							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>無料で利用できるRまたはPythonを使用する可能性がある。その場合、インストールなどの準備については授業時に案内する。</p>							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>ポータルサイト、CoursePower、Microsoft 365などを利用しながら適宜行う。</p>							
〔成績評価の方法〕							

配点は、平常点(授業の参加状況、授業内課題、小テストなど)50%、定期課題 50%を目安とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第 38 条、39 条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

- i) 現象を確率を用いてモデル化できる。
- ii) 基本的な推測統計の手法(推定と検定)について理解している。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

記述統計についての基本的な知識があることが望ましいが、授業の第 1～3 回などにおいて記述統計の基本についての復習を兼ねた授業を行う。

〔テキスト〕

特になし。授業資料を配布する。

〔参考書〕

適宜紹介する。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	情報コミュニケーション技術						
教員名	吉見 憲二						
講義コード	122411500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>内閣府では、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」を意味する「Society 5.0」という政策キーワードを提唱し、新しい価値を産業や社会にもたらすことを目指している。しかしながら、「Society 5.0」が包含する領域は広いと、その全体像を把握することは容易ではない。本授業では、個々の事例からその背景にある情報コミュニケーション技術を学習することで、「Society 5.0」という概念を実感を持って理解できるようになることを目的とする。各回の授業では、特定の情報サービスを取り上げ、どのような情報コミュニケーション技術が用いられているか検討していく。全体の講義を通して、現代のコミュニケーションに用いられる多様な技術について理解を深めることを目指す。</p> <p>なお、授業の進捗や受講生からの要望によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>次の3点を到達目標とする。</p> <p>(1)さまざまな情報サービスに用いられている情報コミュニケーション技術を説明できる。</p> <p>(2)情報コミュニケーション技術が各種産業のどのような領域で活用されているか説明できる。</p> <p>(3)「Society 5.0」という概念を、具体例を交えて自分なりの言葉で説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。 ・情報コミュニケーション技術について学ぶ意義を理解する。 			<p>【予習】事前にシラバスをよく読み、質問等があれば用意しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第2回	<p>インターネット広告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット広告の概要について理解する。 ・インターネット広告に用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】インターネット広告の具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第3回	<p>モバイル通信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モバイル通信サービスの概要について理解する。 ・モバイル通信サービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】モバイル通信サービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第4回	<p>自動車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の自動車の変化について理解する。 ・近年の自動車に用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】近年の自動車の変化について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第5回	<p>情報家電</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報家電の概要について理解する。 ・情報家電に用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】情報家電の具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第6回	<p>決済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決済サービスの概要について理解する。 ・決済サービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】決済サービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第7回	<p>クラウドサービス（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドサービスの概要について理解する。 ・クラウドサービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】クラウドサービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第8回	<p>クラウドサービス（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドサービスの概要について理解する。 ・クラウドサービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】クラウドサービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第9回	<p>中間まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実施内容について振り返る。 ・レポート課題に関する説明を行う。 			<p>【予習】これまでの実施内容で理解が不十分な点を確認しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第10回	<p>生成 AI</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生成 AI サービスの概要について理解する。 ・生成 AI サービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】近年の生成 AI サービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第11回	<p>シェアリング・エコノミー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェアリング・エコノミーの概要について理解する。 ・シェアリング・エコノミーに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】シェアリング・エコノミーの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第12回	<p>その他情報コミュニケーション技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生からの要望等を踏まえて、新しい情報コミュニケーション技術に関連した内容を取り上げる。 			<p>【予習】これまでの授業内容以外の情報コミュニケーション技術の活用事例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第13回	<p>レポート課題のフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施したレポート課題について評価ポイントを理解する。 ・レポート執筆の基本事項について再度確認し、理解する。 			<p>【予習】自身の提出したレポートの内容について再確認しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第14回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の内容を振り返り、情報コミュニケーション技術が各種産業のどのような領域で活用されているか議論する。 ・シラバスの内容を再度確認し、授業の概要や評価基準について説明する。 			<p>【予習】全体の内容を振り返り、情報コミュニケーション技術が各種産業のどのような領域で活用されているか考える。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。期末試験に向けて準備する。</p>		60	

<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義形式で進める。授業の構成として、①ディスカッション準備（10分）、②前回内容の振り返り（10分）、③ディスカッション（10分×2回）、④講義（50分）、⑤質疑応答（10分）、⑥課題（授業後）を基本とする。詳細は次の通りである。</p> <p>①冒頭に【予習】と関連したディスカッションテーマを提示し、10分間各自で考える時間を与える。</p> <p>②課題の内容に関して次回授業の前半で振り返りを行い、優れた回答は全体に共有する。</p> <p>③授業時間中に、冒頭に提示したテーマに関して受講者にマイクを回し、ディスカッションを行う。受講人数に応じて実施形態については検討する。</p> <p>④講義は配布した資料を中心に展開する。なお、講義中にも受講者にマイクを回し、意見や回答を求めることがある。</p> <p>⑤ICTを活用した双方向型の授業として、スマートフォンでQRコードを読み取り、授業時間内に質問をできるようにする。質問については原則授業内で回答する。</p> <p>⑥e-ラーニングを活用した自主学習支援として、各回の授業内容に関連した課題を【予習】【復習】扱いで実施する。</p> <p>レポート課題の内容、評価基準については、授業内で説明する。また、受講者の希望等を踏まえて、授業期間内に2回ほど少人数でのグループワークを実施する可能性がある。</p> <p>講義形式となるため欠席等の連絡は不要であるが、原則としてフォームから出席状況の確認を行い、既定の出席数に不足する場合には自動的に不合格となる（ただし、受講状況に応じて出席確認の方法を変更する可能性がある）。なお、出席や課題に関する不正には厳正に対処する。</p> <p>生成AIの利用方針に関しては、授業内で説明する。</p>
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業後に実施する課題とレポートについては、希望者に個別にフィードバックを行う。 ・次回授業の冒頭で前回課題の振り返りを行い、優れた回答を全体に共有する。 ・配布資料のQRコードから質問フォームにアクセスできるようにしておき、授業時間内で質問への回答を行う時間を設ける。 ・特に優れたレポートについては、受講者の許可を得た上で授業内で紹介する。併せて、レポートの評価基準について解説を行う。
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>各回の課題（14回：40%）、レポート課題（20%）、期末試験（40%）による総合評価を基本としつつ、各評価項目での優れた回答や講義中の発言に関して適宜加点する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)さまざまな情報サービスに用いられている情報コミュニケーション技術を説明できるか。 (2)情報コミュニケーション技術が各種産業のどのような領域で活用されているか説明できるか。 (3)「Society 5.0」という概念を、具体例を交えて自分なりの言葉で説明できるか。
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な予備知識は特になし。 ・関連科目として、「情報戦略」「情報産業」「経営情報<1><2>」「経営学特殊講義B（ICT産業概論）」が挙げられる。特に、情報産業や情報技術に興味がある人は積極的に受講してほしい。各科目の特色等については質問があれば対応する。
<p>〔テキスト〕</p> <p>資料は毎回の授業で配布する。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>『IoT時代の競争分析フレームワーク』、早稲田大学ビジネススクール根来研究室（著）・根来龍之・浜屋敏（編著）、中央経済社、2,750円、978-4502180514、購入の必要なし</p> <p>『ネットビジネスケースブック』、荻原猛・田中洋、同文館出版、3,080円、978-4495390051、購入の必要なし</p> <p>『ITナビゲーター2025年版』、野村総合研究所ICTメディアコンサルティング部、東洋経済新報社、3,080円、978-4492503577、購入の必要なし</p> <p>その他、参考文献については授業内で適宜提示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知する。</p> <p>授業終了後に教室で受け付ける。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p>(4)アクティブ・ラーニング,(6)ICT活用</p>

講義名	社会理解実践講義（資本市場の役割と証券投資：野村証券提供講座）						
教員名	河路 武志						
講義コード	122431010	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義は、実務経験豊富な野村証券株式会社の講師陣による提供講座です。 「直接金融とは何か」「資本市場に求められる役割とは何か」といったテーマから、証券投資の基礎・応用までを体系的に解説します。リーマン・ショック以降、激変する日本の資本市場の全容、投資におけるリスク・リターンへの考え方、株式・債券投資の手法などについて、各講師の実務経験に基づいた多角的な視点を提供します。 また、実践的な知識の習得も追加的な目標とします。具体的には、少子高齢化の進展を背景にして、老後の生計に対する不安が高まる中、ライフプランと資産形成や年金制度に関する解説を行ったうえで、加入者自身が資産運用の意思決定を行う確定拠出（DC）型年金制度におけるポートフォリオ作成やマネープラン作成の実践的演習を行います。</p> <p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP5【多様な人々との協働】を実現するため、以下を到達目標とします。 ・証券投資を中心に、金融資本市場の実務とファイナンス理論を統合的に理解し、将来のビジネスパーソンとしての基礎教養を身に付ける ・ライフサイクルにおける資産形成の重要性と、公的・私的年金制度の概要を理解する ・老後の生活資金を確保するための確定拠出（DC）型年金のポートフォリオ設計やマネープランを構築する実践的スキルを習得する</p> <p>〔授業の計画と準備学修〕</p>							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション コーディネーター担当教員から、講義の全体像を説明する。 ・ガイダンス・経済情報の捉え方 外部講師から、講義の内容・予定について説明した後で、資本市場において用いられる経済情報・指標について解説する。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講座の全体像を確認すること。 （以下、各回において） 課題①・②の内容を確認したうえで、少しずつ時間をかけて取り組むこと。</p>		60	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化する世界と資本市場の果たす役割 赤字主体と黒字主体の資金過不足を調整する場としての金融資本市場の役割とその全体像を解説する。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・金融資本市場の役割とその変化 前回にひきつづき、金融資本市場の役割を解説するとともに、リーマン危機以降の変化について解説する。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・債券市場の役割と投資の考え方 国債や社債などの債券の発行を通じた資金調達の仕事と債券市場での投資の考え方を解説する。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・株式市場の役割と投資の考え方 株式の発行を通じた資金調達の仕事と株式市場での投資の考え方を解説する。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・投資信託の役割とその仕組み 投資信託の仕組みと投資戦略ごとの特徴について解説する。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・外国為替相場とその変動要因 外国為替の仕組み、為替レートの役割、為替レートの決定要因について解説する。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク・リターンとポートフォリオ分析 証券の期待リターンとリスクの意味、ポートフォリオの分散投資効果について解説する。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・つみたて投資の特長と活用方法 つみたて投資をはじめとした資産運用戦略（投資戦略）についてシミュレーションをまじえて解説する。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフプランと資産形成 社会人になってから、退職して、老後の生活を送るという一連の「ライフサイクル」の中で、結婚・子育て、マイホームの取得、退職後の生活費など、様々な場面で資金ニーズが発生する。これらのライフプランの概要とそれを支えるための資産形成の考え方について解説する。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・公的年金制度について 日本の公的年金制度は、自営業者等、民間サラリーマンや公務員、専業主婦等の立場によって仕組みが異なるなど、複雑な側面がある。このような公的年金制度の仕組みについて解説する。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・確定拠出年金について 確定拠出年金（DC）制度は、加入者自身が資産運用の方針を決定する仕組みであり、運用結果に応じて年金額が決定される。この制度の仕組みについて解説する。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオの作成（実践演習） 実際にDC制度の加入者として運用方針を決定することを想定した実践的なトレーニングを行う。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 課題③に取り組むこと。</p>		60	
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・マネープランの作成（実践演習） 人的資本の考え方に基づいて、自分のライフサイクルにおける収支を資産と負債に見立てたうえで、総合的なマネープラン作成の実践的なトレーニングを行う。 			<p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 課題④に取り組むこと。</p>		60	
〔授業の方法〕							

証券ビジネスの最前線で活躍する実務家を講師陣に迎えて、対面形式で講義を行います。また、DC ポートフォリオとマネープラン作成に関する実践的な演習も行います。

なお、上記「授業の計画と準備学修」の記載内容は 2025 年度のものであり、2026 年度については、講義順序や講義内容等が一部変更される場合があります。第 1 回ガイダンスにて、コーディネーター担当教員から講義の全体像を説明します。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

通常の課題については、解説と全体的な講評によってフィードバックを行います。
実践的な実習については、インタラクティブに授業を進めます。

〔成績評価の方法〕

成績は、平常点（4つの課題）で評価します。
・課題①（10%）：講義内容と関連する2、3回程度の小テスト
・課題②（30%）：講義内容と関連するニュースの解説
・課題③（30%）：DC ポートフォリオ作成演習
・課題④（30%）：マネープランの作成演習

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

次の到達目標に注目して、その到達度に応じて評価します。
・金融資本市場や年金制度の概要を的確に理解し、日常的に関連するニュースを理解し説明できる
・DC 制度のポートフォリオ設計やマネープランを構築する場合の実践的スキルを活用できる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし
授業時に資料を配布します。

〔参考書〕

『入門証券論（第3版）』榎原茂樹・城下賢吾・姜喜永・福田司文・岡村秀夫著、有斐閣、有斐閣コンパクト ISBN: 978-4-641-16410-9 本体 2,400 円＋税。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	学際特殊講義（多文化社会を生きる）						
教員名	鈴木 恵美子						
講義コード	122441000	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この科目では、スペイン語が話される国々、特にスペインとメキシコを例にとり、両国における多文化社会の在り方を様々な観点から概観します。両国を比較し、さらには日本の状況とも照らし合わせながら、日本でも身近な問題になりつつある複数の文化との共存の問題を考えてみたいと思います。学生の皆さんも各自のテーマを設定し、自分なりの視点で問題を掘り下げ、分析してみましょう。普段触れている身近な外国文化とはまた異なる新たな世界が広がり、文化・社会の様相および価値観の多様性に気が付くことができるでしょう。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の文化や社会などの様相、人々の価値観、日本との共通点・相違点について客観的に考察し、異文化理解や多文化共生につながる教養を身に付ける。 ・必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析してレポートなどにまとめることができる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：スペイン語圏概観 ＜活動＞スペイン語圏の国々をネットで調べてみよう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第2回	スペインとメキシコ：各国基本情報。学生のテーマ検討 ＜活動＞調査対象とする国と暫定テーマを検討しよう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第3回	スペインとメキシコの言語：各国のスペイン語、地域固有の言語、先住民の言語 ＜活動＞好きな国の言語状況を調べて、スペイン、メキシコと比較しよう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第4回	スペインとメキシコの文化：共通の文化、独自の文化（祝祭、食文化、音楽など） ＜活動＞身近な文化と比較してどのような印象を持ったか意見交換しよう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第5回	スペインとメキシコの国民性：共通点と相違点（生活習慣、年間行事、家族など） ＜活動＞自分の価値観、行動パターン、生活習慣と比較して違いや共通点を探ろう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第6回	スペインとメキシコの外交：日本との関係 ＜活動＞外国に渡った日本人や、来日した日系人の歴史や社会を知ろう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第7回	スペインとメキシコの観光：文化の多様性と観光資源 ＜活動＞スペイン、メキシコに旅行した時のプランを考えよう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第8回	スペインとメキシコの現代事情：教育、社会問題、ポップカルチャーなど ＜活動＞若者の立場から、違いや共通点を分析しよう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第9回	ここまでのまとめと最終レポートのテーマ検討			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第10回	スペイン語圏各国の文化的多様性を知る(1) ＜活動＞各国に関する授業内でのミニ調査			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第11回	スペイン語圏各国の文化的多様性を知る(2) ＜活動＞各国に関する授業内でのミニ調査			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第12回	スペイン語圏各国の文化的多様性を知る(3) ＜活動＞各国に関する授業内でのミニ調査			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第13回	スペイン語圏各国の文化的多様性を知る(4) ＜活動＞各国に関する授業内でのミニ調査			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第14回	授業の振り返りとまとめ 最終レポートの完成と提出			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		120分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>上記の計画に基づき、講義+学生の活動を中心に授業を進めます。受講生の関心にも配慮しながら、必要に応じて視聴覚資料などを使って理解を深めます。授業中の活動やレポート作成では、次の到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の文化や社会などの様相、人々の価値観、日本との共通点・相違点について客観的に考察できている。 ・必要な資料を適切に収集・整理し、自分なりの視点で分析できている。 							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

フィードバックは、授業中またはコースパワーによっておこないます。

〔成績評価の方法〕

授業中の活動 25%、ミニレポート 25%、最終レポート 50%により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

さらに、次の到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とします。

- ・外国の文化や社会などの様相、人々の価値観、日本との共通点・相違点について客観的に考察し、異文化理解や多文化共生につながる教養を身に付ける。
- ・必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析してレポートなどにまとめることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：各種スペイン語関連科目（コア科目、発展科目）

〔テキスト〕

特にテキストは使用しません。

〔参考書〕

授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	学際特殊講義（統計モデルと最適化）						
教員名	田中 研太郎						
講義コード	122441010	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 本講義では、まず、回帰分析などの統計モデルや線形計画法を中心とした最適化手法について学ぶ。理論的な背景を講義で学んだ後、ソフトウェアやWebアプリなどを利用した演習を行うことで、実際の問題に活かせるスキルを身に付けることを目標にする。また、近年注目されている最適輸送などのトピックにも触れ、統計モデルと最適化手法の統合的な理解を深める。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下を到達目標とする。 1) 回帰分析などを通じて統計モデルへの理解を深める。 2) 最適化の手法を適切に利用できるようになる。 3) 確率モデルを使った計算やシミュレーションができるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス： ・講義の目的と到達目標 ・ソフトウェアのインストール方法			【復習】ソフトウェアのインストールを行っておく。		60分	
第2回	回帰分析： ・単回帰分析の仕組み ・ソフトウェアを利用した単回帰分析の演習			【復習】単回帰分析の仕組みを理解する。		60分	
第3回	回帰分析： ・回帰分析における仮定とその検証方法 ・単回帰分析から重回帰分析へ			【復習】単回帰分析の計算に慣れる。		60分	
第4回	回帰分析： ・ソフトウェアを利用した重回帰分析の演習 ・過学習とモデル選択			【復習】重回帰分析の流れと計算に慣れる。		60分	
第5回	回帰分析： ・回帰分析のまとめ ・課題			【復習】回帰分析についてまとめ、課題に取り組む。		60分	
第6回	線形計画法： ・線形計画法とは ・例題をいくつか			【復習】線形計画法とはどのようなものなのかを理解する。		60分	
第7回	線形計画法： ・線形計画法の解法(単体法など)について ・ソフトウェアを利用した線形計画法の計算			【復習】線形計画法の解法について大まかに理解する。		60分	
第8回	線形計画法： ・線形計画法のまとめ ・課題			【復習】線形計画法についてまとめ、課題に取り組む。		60分	
第9回	最適輸送： ・最適輸送問題とは ・ソフトウェアを利用した最適輸送問題の計算			【復習】最適輸送問題を大まかに理解する。		60分	
第10回	非線形計画法を少しだけ： ・ポートフォリオ最適化について少しだけ ・ソフトウェアを利用したポートフォリオ最適化			【復習】ポートフォリオ最適化などの非線形計画問題についてまとめる。		60分	
第11回	統計モデルと最適化： ・確率について(同時確率、条件付確率、周辺確率などについて) ・統計モデルとパラメーターについて			【復習】確率と統計モデルの関係について復習する。		60分	
第12回	統計モデルと最適化： ・統計モデルとシミュレーションについて ・モンテカルロシミュレーションによる計算			【復習】モンテカルロシミュレーションについて復習する。		60分	
第13回	統計モデルと最適化： ・ベイズ統計について ・ソフトウェアを利用したベイズ統計の計算			【復習】ベイズ統計について復習する。		60分	
第14回	まとめ： ・これまでの授業内容についてのまとめ			【復習】これまでの授業内容についてまとめ、課題に取り組む。		60分	
〔授業の方法〕 講義による授業を行う。 PCを使用して演習を行ったり課題に取り組んでもらったりする。 授業の理解を測るため、適宜、授業内課題や小テストなどを実施する。また、定期的に課題を課す。							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕 無料で利用できるRを使用する（場合によってはPython(こちらも無料)も使用する可能性もある）。インストールなどの準備については授業時に案内する。							
〔課題等へのフィードバック方法〕 ポータルサイト、CoursePower、Microsoft 365 などを利用しながら適宜行う。							

<p>〔成績評価の方法〕 配点は、平常点(授業の参加状況、授業内課題、小テストなど)50%、定期課題 50%を目安とする。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第 38 条、39 条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 i) 統計モデルの基本的な考え方を理解している。 ii) 問題に応じた適切な手法を選択し応用できる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 平均や分散や相関係数などの統計に関する基本的な知識を予め持つておくと、授業の理解がより深まると思われる。</p>
<p>〔テキスト〕 特になし。授業資料を配布する。</p>
<p>〔参考書〕 適宜紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

#N/A

26/2/9 15時44分

#N/A

26/2/9 15時44分